

文学部

**語学科目 履修案内
Language Courses Guide
2025**

Faculty of Letters

外国語の履修にあたって

英 語

外国語の学習においては、言うまでもなく「読む・書く・聞く・話す」という4つの能力の向上が求められます。これらの能力が均等に向かって、初めて真の意味での外国語の習得が可能になるのです。しかし教室における授業では、週2回（合計180分）という時間の制約があり、4つの能力をまんべんなく伸ばすことは困難です。

そこで文学部の英語必修科目では、2年次以降に多くの専攻できわめて重要な「読解力」が十分であるか否かを基準として、レベル別のクラスによる授業を展開します。またそのため英語履修者全員を対象として、「読解力」によりレベル分けをするためのプレイスメントテストを実施します。入学時には1年次のレベル分けのため、1年次学年末には2年次におけるレベル分けのためのテストを行います。2025年度以降、より総合的な英語理解能力の測定を目的として、プレイスメントテストにリスニングテストを組み込んでいます。

プレイスメントテストの結果、専門課程において「原典講読」などの授業に必要とされる読解力をすでに持つと判定された場合は、読解以外の授業内容が多く用意されている「上級」あるいは「中級発展」を履修します。一方、読解力のさらなる強化が必要であると判定された場合は、読解に重点をおいた授業が行われる「中級」あるいは「基礎」を履修します。

プレイスメントテストで自分がどのレベルに振り分けられたかを確認し、各レベル別に用意されたクラスから2コマを履修して下さい。（ただし、「最上級（帰国生対象）」「基礎」は例外なので注意。）

また、帰国生および海外滞在歴がある者、英語以外の外国語による受験生は、履修にあたっての特別な指示があるので、「英語特別クラスガイダンス」に必ず出席してください。

プレイスメントテストで判定されたレベル別の履修上の注意

最上級 (帰国生およびそれに準ずる者)

文学部設置の帰国生対象である「英語Ⅰ最上級／英語Ⅱ最上級」の201、および外国語教育研究センター設置の「英語最上級 アドバンスト英語」6コマの中から1コマの、合計2コマを履修。「英語特別クラスガイダンス」に出席し、面接を受け承認を得ることが必要です。英語の運用能力が実用上すでに十分に備わっている学生が、英語を使っての様々なコミュニケーション能力をさらに高めることを目的にしています。

上 級 (帰国生以外)

文学部が設置する「英語Ⅰ上級／英語Ⅱ上級」の6コマ（191～196）の中から、2コマを履修。読解力はすでに十分である学生が、さらに高度な読解力を身につけることを目指すと同時に、読解以外の発信型の英語能力を養成することを目的にしています。

中級発展

「中級発展」のクラスから2コマを履修。

「中級発展」には、主にネイティヴスピーカーによる発信型のクラスと、主に日本人教員によるリーディング中心のクラスが用意されています。日本人教員が担当するクラスにおいても、リスニング・スピーキング・ライティング力を向上させるための時間をとっているものもあり、バランスのとれた英語力を養成することを目標にしています。

中 級

「中級」のクラスから2コマを履修。

「中級」に設置されているクラスの多くは、2年次以降の専門課程において必要とされる英語読解力を養成することに主眼を置いています。クラスによっては、リスニング・スピーキング・ライティングなどを練習する時間をもうけているものもあります。

基 礎

「基礎」と「中級」のクラスを、それぞれ1コマずつ履修。

対象者は、「基礎」のクラスを1コマ「指定」されます。もう1コマは、本冊子3ページの担当者名に“*”のついている「中級」のクラスから各自1コマを選択し履修してください。

各レベルのWebエントリー上の注意

最上級 (帰国生およびそれに準ずる者)

プレイスメントテストで「上級」判定を受け、さらに「英語特別クラスガイダンス」にて面接の上、許可を得た者のみが対象。下記のいずれかの方法で履修の手続きをすること。

- ・文学部設置の1コマ(帰国生を対象とする「英語I最上級／英語II最上級(201)」が履修可能な場合：文学部でのWebエントリーは不要。もう1コマは外国語教育研究センター設置の「英語最上級 アドバンスト英語」6コマの中から1コマを履修する。これは同センターにて別途手続きすること。
- ・文学部設置の「英語I最上級／英語II最上級(201)」が履修できない場合：文学部でのWebエントリーは不要。外国语教育研究センター設置の「英語最上級 アドバンス英語」6コマの中から2コマを履修。同センターにて別途手続きすること。

上級 (帰国生以外)

文学部設置の「英語I上級／英語II上級」の6コマ(191～196)の中から、履修したいクラスを第6希望まで選び、Webエントリーを行う。

中級発展

「中級発展」のカテゴリーのクラス(161～183)から、第8希望までを選び、Webエントリーを行う。

中級

「中級」のカテゴリーのクラス(114～157)から、第8希望までを選び、Webエントリーを行う。

基礎

「基礎」のクラスは「指定」されているのでWebエントリーは不要。もう1コマは、本冊子3ページの「中級」のカテゴリーのクラス(114～157)の中で担当者名に“*”のついているクラスから、履修したいクラスを第8希望までを選び、Webエントリーを行う。中級と基礎のクラスの教員が重複しないように選択してください。

全レベル共通：履修までの手続き

- 1) 3月31日(月)の、英語プレイスメントテストを受けてください。読解力と聴解力のテストです。当日、必ずHB・Bの鉛筆またはシャープペンシルを持参してください。

3月27日(木)に下記の「新入生お知らせシステム」で自分の学籍番号(8桁)と組を必ず確認してください(入学手続完了者への配布物同封の「クラス・学籍番号・履修語学等の発表について」を参照)。

クラス発表：「新入生お知らせシステム」 <https://fresh.keio.jp/>

- 2) 4月1日(火)の「レベル分け」発表で各自のレベルを確認し、「英語履修者ガイダンス」に出席の上、語学科目履修案内の「英語I/英語II」の中から、上記の注意に従い履修したいクラスを選択する。

レベル発表：<http://keio.jp> (K-Support 「News」欄) 4月1日(火) 9:00以降準備でき次第公開

- 3) K-Support内「Webエントリーシステム」より、希望する講座のエントリー登録を行う(4月2日(水)13:00締切)。
※詳細は、4月1日の英語履修者ガイダンスで案内するK-LMS「英語科目履修ガイド」で確認してください。

- 4) コンピュータ処理による抽選により希望クラスの調整が行われ、その結果は、4月4日(金)9:00(予定)に発表される。

「最上級」以外の者は、発表されたクラスの履修申告は不要。

クラス発表：<http://keio.jp> / K-Support 「News」欄 4月4日(金) 9:00以降準備でき次第公開

5) 「英語 I / 英語 II」講座番号表

『各レベルのWebエントリー上の注意』の指示に従い、下記の表を参考に講座番号を選んでください。

【英語 I 中級/英語 II 中級】

講座番号	曜日時限	授業科目名	担当者名
114	火 1	英語 I 中級／英語 II 中級	井口 篤*
115	水 1	英語 I 中級／英語 II 中級	井口 篤*
116	月 3	英語 I 中級／英語 II 中級	内田 大貴
117	火 1	英語 I 中級／英語 II 中級	江崎 麻里
118	火 4	英語 I 中級／英語 II 中級	榎本 悠希
119	火 5	英語 I 中級／英語 II 中級	榎本 悠希
120	月 5	英語 I 中級／英語 II 中級	大島 範子
121	木 2	英語 I 中級／英語 II 中級	大鳥 由香子*
122	火 3	英語 I 中級／英語 II 中級	小川 真理
123	火 4	英語 I 中級／英語 II 中級	小川 真理
124	水 3	英語 I 中級／英語 II 中級	加藤 彩雪
125	金 3	英語 I 中級／英語 II 中級	加藤 有佳織*
126	木 4	英語 I 中級／英語 II 中級	川瀬 紗子
127	月 5	英語 I 中級／英語 II 中級	キャンベル、ジョナサン
128	火 5	英語 I 中級／英語 II 中級	倉科 真季
129	月 2	英語 I 中級／英語 II 中級	小泉 有加
130	月 3	英語 I 中級／英語 II 中級	小泉 有加
131	火 2	英語 I 中級／英語 II 中級	近藤 真彥
132	火 3	英語 I 中級／英語 II 中級	近藤 真彥
133	水 2	英語 I 中級／英語 II 中級	坂本 光*
134	金 1	英語 I 中級／英語 II 中級	沢村 静
135	金 2	英語 I 中級／英語 II 中級	沢村 静
136	月 4	英語 I 中級／英語 II 中級	志子田 祥子
137	月 1	英語 I 中級／英語 II 中級	杉山 ゆき
138	月 5	英語 I 中級／英語 II 中級	高橋 宣也*
139	木 1	英語 I 中級／英語 II 中級	高橋 宣也*
140	月 1	英語 I 中級／英語 II 中級	高橋 三和子
141	月 2	英語 I 中級／英語 II 中級	高橋 三和子
142	火 1	英語 I 中級／英語 II 中級	田辺 寛
143	火 2	英語 I 中級／英語 II 中級	田辺 寛
144	金 3	英語 I 中級／英語 II 中級	チータム、ドミニク
145	金 4	英語 I 中級／英語 II 中級	チータム、ドミニク
146	木 1	英語 I 中級／英語 II 中級	辻 秀雄*
147	木 2	英語 I 中級／英語 II 中級	辻 秀雄*
148	木 1	英語 I 中級／英語 II 中級	津田 敦子
149	水 1	英語 I 中級／英語 II 中級	新名 ますみ
150	火 2	英語 I 中級／英語 II 中級	沼田 香穂里
151	火 3	英語 I 中級／英語 II 中級	沼田 香穂里
152	木 5	英語 I 中級／英語 II 中級	橋本 良一*
153	木 4	英語 I 中級／英語 II 中級	ハディンハム、オリバー E.
154	月 3	英語 I 中級／英語 II 中級	細野 香里*
155	水 2	英語 I 中級／英語 II 中級	堀 美里
156	水 3	英語 I 中級／英語 II 中級	堀 美里
157	木 2	英語 I 中級／英語 II 中級	和氣 直子

【英語 I 基礎/英語 II 基礎】

講座番号	曜日時限	授業科目名	担当者名
111	水 2	英語 I 基礎／英語 II 基礎	井口 篤
112	火 4	英語 I 基礎／英語 II 基礎	辻 秀雄
113	木 5	英語 I 基礎／英語 II 基礎	若澤 佑典

【英語 I 中級発展/英語 II 中級発展】

講座番号	曜日時限	授業科目名	担当者名
161	火 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	井口 篤
162	月 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	内田 大貴
163	火 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	江崎 麻里
164	火 3	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	榎本 悠希
165	木 1	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	大鳥 由香子
166	金 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	加藤 有佳織
167	月 1	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	キャンベル、ジョナサン
168	火 4	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	倉科 真季
169	月 1	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	濟藤 葵
170	水 1	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	坂本 光
171	火 4	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	佐久間 千尋
172	月 5	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	志子田 祥子
173	火 3	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	高橋 宣也
174	木 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	高橋 宣也
175	火 5	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	辻 秀雄
176	木 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	津田 敦子
177	水 2	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	新名 ますみ
178	木 4	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	橋本 良一
179	木 3	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	ハディンハム、オリバー E.
180	月 4	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	細野 香里
181	月 4	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	マーフィー、ケビン
182	月 5	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	マーフィー、ケビン
183	月 3	英語 I 中級発展／英語 II 中級発展	ヤング、ジェローム

【英語 I 上級/英語 II 上級】

講座番号	曜日時限	授業科目名	担当者名
191	火 2	英語 I 上級／英語 II 上級	大鳥 由香子
192	木 3	英語 I 上級／英語 II 上級	川瀬 紗子
193	木 4	英語 I 上級／英語 II 上級	コミサロフ、アダム
194	木 2	英語 I 上級／英語 II 上級	酒井 もえ
195	月 3	英語 I 上級／英語 II 上級	タイ、ワンチェン
196	金 5	英語 I 上級／英語 II 上級	若澤 佑典

【英語 I 最上級/英語 II 最上級】

講座番号	曜日時限	授業科目名	担当者名
201	月 2	英語 I 最上級／英語 II 最上級	タイ、ワンチェン

英語 I ／英語 II 講義要綱

基礎

英語 I 基礎 1 単位 (春学期)

英語 II 基礎 1 単位 (秋学期)

Reviewing English Grammar through Reading, Writing and Speaking

講座番号 : 111

井口 篤

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

This course is designed for basic-level students who urgently need to raise their English proficiency to a more competent level. But how can you improve your English skills when your grasp of grammar is still rudimentary? The guiding principle of this course is that any attempt to improve grammar skills can only be successful when reading, listening, speaking, and writing are practised simultaneously. Your primary resource will be the textbook *Essential Reading Level 2*, which offers a variety of grammar exercises and reading passages. These materials will not only help students strengthen their grammar but also provide opportunities to speak and write in English. In addition, the instructor will encourage students to practise their oral English skills during class to enhance their overall reading and writing fluency.

 Do you aspire to achieve the level of reading proficiency required in your chosen major when you move on to Mita Campus next year? Every activity in this course is designed to help you reach that goal. Stay positive, and keep practising English with us!

能動的学修形式 :

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

Students are expected to spend about an hour to prepare for each class.

授業の計画 : K-Support の「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Evaluation will be based on regular attendance (20%), preparation, assignments, and classroom discussions (20%), as well as two end-of-semester exams (60%).

 The general rules concerning attendance are as follows :

 1. Absences : Each absence will result in a deduction of two points from your overall attendance score of 20 points allotted per semester.

 2. Lateness : Each instance of being late will result in a deduction of one point (i.e., being late twice will be equivalent to one absence).

 3. Train delays : A slip issued by the railway company indicating a train delay will not be accepted as an excuse for lateness unless the train is delayed by 20 minutes or more.

 4. Illnesses : A common cold or similar illnesses will not be accepted as a valid reason for an absence. However, contagious diseases such as the flu or COVID-19 will be accepted as valid reasons. In such cases, please provide the instructor with a diagnosis or documentation issued by a doctor, clinic, or hospital.

 5. Passing criteria : All scores accumulated throughout the academic year will be converted into a percentage. The passing threshold is 60%.

テキスト(教科書) :

Jackie McAvoy, *Essential Reading Level 2: Student Book*, 2nd edn (London : Macmillan Education, 2016)
[ISBN : 9780230493995]

担当教員から履修者へのコメント :

Let's have fun studying English together!

質問・相談 :

Questions can be asked, both in person and via K-LMS, before, during and after class.

英語 I 基礎 1 単位 (春学期)

英語 II 基礎 1 単位 (秋学期)

英文読解のための復習

講座番号 : 112

辻 秀雄

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

この必修科目は、まだ英語の基本を確認する必要がある学習者のための基礎レベルのコースです。1年間の学習を通して、英語の語彙や文法の基礎を再度確認し、初歩的もしくは中級レベルの英文が読めるようになるための土台を築きます。この基礎力を身につけることに役立つ限りにおいて、書き・聞き・話す機会ももうけられます。

能動的学修形式 :

グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

1時間 (目安) ; 必ず予習・復習にとりくんでください。

授業の計画 : K-Support の「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

テスト (60%)、平常点 (授業態度・予習・復習・出席・小テスト等、40%) を総合して評価します。

テキスト(教科書) :

Essential Reading Second Edition Level 2 Student Book

ISBN : 9780230493995

担当教員から履修者へのコメント :

テストと平常点の合計を100点に換算し、そのうち60点以上をとることが単位修得の目安となります。

原則として欠席は半期に4回までしか認められません。遅刻、早退2回で欠席1回とカウントします。また、半期に欠席が3回以上あった場合には成績評価に悪影響が出ます。

体育会や部活動の練習・試合による欠席は公欠として認められません。初回授業において受講レベルの再確認を行います。指定教科書は、初回授業後に購入してください。

質問・相談 :

授業の前後やメール、事前の予約による面接で受け付けます。

英語 I 基礎 1 単位 (春学期)

英語 II 基礎 1 単位 (秋学期)

ことば遊戯、思考の体操 : 英語学習に絶望しそうな1年生向け

講座番号 : 113

若澤 佑典

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

【授業概要】

これまで英語授業に苦しめられ、マークシート試験で心に傷を負い、分厚い英語教科書を片手に「戦意喪失一歩手前」の文学部新入生を対象に、英文リーディング、あるいは英語表現一般と「大学でうまく付き合っていく」やり方を、教員と学生さんで一緒にになって模索するクラスです。文法に対する恐怖は、リーディングやライティングといった具体的な場面を設定することで、読解に対する不安は、書物との触れあいやチームリーディングの経験を通して、英語そのものへの苦手意識は、英語以外の科目的知見や日常生活での体験と結びつけることで、「総合的な学習」や探究的活動を通じて、日々の生活のなかで英語学

習・表現活動を位置づけ直します。

【授業の方法と目的】

「英語の文章を読む」プロセスを要素分解して、各学生さんがどこで躊躇しているのか、学習課題を具体化して対応していきます。すでに教科書の内容を丸暗記したり、小テストをペース・メーカーとした学習の動機付けでは無理がきいている状況だと思いますので、「頭のてっぺんからつま先まで」全身を使って英語世界に飛び込む感覚をつくります。例えば、本文を図や絵で表現してみたり、英語のリズムを音から体験してみたり、テクストの内容を劇にして演じてみたり、トピックに登場する人々になってスピーチを考えてみたり、教科書からキーワードを拾ってキャッチコピーを考えてみたり、リーディングとキャンパス体験を組み合わせて英語の日記／フィールド・ノートを書いてみたりと、高校英語とは少し違ったアプローチで「英文リーディング」に接近していきます。

【到達目標】

- 1) 未知の英文と出会ったとき、分からぬなりにも文章を読み進め、その内容についてキーワードを取り出したり、書き手のポイントを説明したり、自分なりのツッコミができるようになります。
- 2) 英語文法について、教科書を丸暗記するのではなく、「文法を使って」文章の骨組みを理解したり、一文の中の核を見抜いたり、頭に浮かんだ単語を文章として適切に配列できるようになる、具体的なコンテキスト内における運用力を身につけましょう。
- 3) 英語の世界は広大ですので、自分が「ここなら快適に読んだり考えたりできるぞ」という、とっかかりのポイントを見つけましょう。嫌いを出発点に学習を継続するのは困難なので、英語世界のどこかに「これは好き」と思えるものが発見できれば、大学での英語学習がスムーズに進むと思われます。
- 4) 読むことを通じて、自分なりの見方をつくったり、自分なりのことばを發する経路を確立しましょう。英文からアイデアを得たり、それを元に何かを書く／話す作業は三田に進学しても、あるいは大学を卒業した後も、人と関わり自分の仕事をしていく上で、何かしらのベースとなっていくでしょう。
- 5) 試験や課題に対して、自分の得意分野／苦手分野を意識しながら、ハードルをこえていく「うまいやり方」を会得し、危機や困難に対する「戦略的対応法」を展開できることを目指しましょう。戦略的思考とその実践ができれば、英語に限らず、人生の各局面において突破口をつくる手がかりができるはずです。

【英語基礎クラスの共通指針】

文学部の日吉キャンパス（＝1年生）では、三つの英語基礎クラスが開講されています。先生方によってクラス運営はさまざまですが、文法を具体的なコンテキストで学びながら、英語で書かれた共通教科書を用い、各学期二回ずつの試験を行って、英語学習に困難を抱える学生さんに「英文を読んで理解し、その内容をことばで表現する」力を形成する方向性は、どのクラスでも共通しています。

能動的学修形式：

フィールドワーク；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

ともかくも授業テクストを読んだり、それについて文章を書いたりしないと、英語授業が進んでいきません。1時間の準備学修が、毎週必要となるでしょう。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

【試験による評価】

中間試験 30%
学期末試験 30%

*各学期2回の試験を行います。日本語・英語で内容確認を行う口述試験、辞書や教科書を持ち込んで行う作文試験、持ち込みアリで行う筆記試験、持ち込み不可で行う選択肢型ペーパーテストなど、段階を踏んでテストに慣れる準備をします。

【授業内アクティビティによる評価】

毎回の授業における応答成果+学習ノート 40%

いわゆる出席点というものはなく、あくまで授業にきて「何をやったか？」を評価の対象とします。

【注意】

- 1) 各学期、欠席が4回に達した時点で「D」がつきます。ただし、3回以内でも、学習成果次第ではDになることがあるので、ご注意を。20分以上の遅刻は欠席扱い、遅刻3回で欠席1回分のカウントになります。
- 2) 被災や入院など、予期せぬ問題で出席が難しい場合は、必要書類を準備の上、早めに申し出てください。
- 3) 部活の公欠制度は存在しません。公的な欠席が認められるのは、家族の入院対応や葬儀への出席、伝染病の治療などに限ります。合理的配慮の申請については、当該学生との面談の上、必要な対応を行います。

テキスト(教科書)：

Jackie Mcavoy, Essential Reading Second Edition Level 2 Student Book. London : Macmillan, 2016.

ISBN : 9780230493995

*教科書については「第1回授業に参加した後」購入手続きをとってください。初回授業で履修登録者の英語学習経過をヒアリングするので、その結果、この基礎クラスから中級クラスに移動する可能性があるためです。

参考書：

Michael Vince, Macmillan English Grammar in Context. London : Macmillan, 2007.

ISBN : 9781405071406

若澤佑典『文芸共和国の歩き方：書棚を遊歩するためのキーワード集』東京：慶應義塾大学出版会、2024年（慶應義塾大学教養研究センター選書24）

ISBN : 9784766429565

*「英文リーディングの困った」を考える際、「英文」の側だけでなく「リーディング＝読む行為」そのものにフォーカスすることも、突破口になります。

担当教員から履修者へのコメント：

- 1) とりあえず教科書をチェックし、大学用の英語辞書を生協等で手に入れ、教室の場所を事前に確認して、ノートを持って時間通りに集合しましょう。（*教科書の購入は、初回授業後で大丈夫です。）時間通りに、毎週、みんなで顔を合わせて英語に立ち向かう「基礎姿勢」の確立がまずは重要です。

- 2) 英語の世界は広大です。テストや高校文法では痛い思いをしたかもしれません、何かしら「英語の世界の一角」に、自分がシックリくる場が見つかるかもしれません。まずは「英語が苦手・嫌い」を分解して、具体的な問題を一緒に特定していきましょう。

質問・相談：

自身の疑問を「ことば」に出し、みんなで共有しながら解決するプロセスを重視します。授業内で質問・相談の機会を適宜とりますので、一緒に躊躇ポイントを整理していきましょう。

中 級

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

(RWS) Sally's Adventure in Victorian London: Reading *The Ruby in the Smoke* by Philip Pullman

講座番号：114

井口 篤

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

What was it like to live in nineteenth-century London? This question can, perhaps, be partially answered by reading Philip Pullman's *The Ruby in the Smoke* (1985), a novel set mainly in Victorian London. In this riveting tale centered on an enigmatic jewel, readers are invited to explore the fascinatingly dark corners of London alongside the sixteen-year-old protagonist, Sally Lockhart,

who was orphaned after her father's death in a shipwreck. When Sally receives a mysterious letter from the Far East, however, she is thrust into a dangerous underworld of wealth, greed, machination, and mysteries waiting to be solved . . .

 This course will be conducted entirely in English, with three primary goals : (1) to expose students to a substantial amount of English prose ; (2) to introduce them to the lives of those who lived in Victorian England ; and (3) to provide opportunities to discuss and write about, in English, some of the novel's most important issues. To achieve these goals, we will place the novel within its historical context, i.e. late-nineteenth-century London, a bustling city where people from all walks of life, including lawyers, clergymen, clerks, maids, artists, opium addicts, sailors, street urchins, and criminals, regularly crossed paths. Along the way, we will explore a range of interconnected questions concerning gender, race, child labor, and British imperialism.

 We will aim to read approximately one chapter per week, completing half of the novel in the Spring Semester and the other half in the Fall Semester. While it will not be possible to cover every page in detail, students will engage in close reading and analysis of passages selected by the instructor for their narrative and thematic significance, as well as their vocabulary and syntax. Sections not covered in class will be summarized and commented upon by the instructor. To enhance engagement, the class will be divided into small groups, allowing participants to collaborate on exercises provided by the instructor. Additionally, to deepen our understanding of the novel, we will conduct brief research on various aspects of late-nineteenth-century life, including how people lived, worked, ate, and entertained themselves. Materials for these activities will be supplied by the instructor.

 To earn credits for this course, students must complete the weekly reading assignments, attend class regularly, actively participate in classroom activities, and take the end-of-semester exam at the conclusion of each semester.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

Please complete the assigned reading and worksheet questions each week. This will require students to dedicate at least an hour, though the preparation time may vary from person to person.

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Evaluation will be based on regular attendance (20%), preparation, assignments, and classroom discussions (20%), as well as two end-of-semester exams (60%).

 The general rules concerning attendance are as follows :

 1. Absences : Each absence will result in a deduction of two points from your overall attendance score of 20 points allotted per semester.

 2. Lateness : Each instance of being late will result in a deduction of one point (i.e., being late twice will be equivalent to one absence).

 3. Train delays : A slip issued by the railway company indicating a train delay will not be accepted as an excuse for lateness unless the train is delayed by 20 minutes or more.

 4. Illnesses : A common cold or similar illnesses will not be accepted as a valid reason for an absence. However, contagious diseases such as the flu or COVID-19 will be accepted as valid reasons. In such cases, please provide the instructor with a diagnosis or documentation issued by a doctor, clinic, or hospital.

 5. Passing criteria : All scores accumulated throughout the academic year will be converted into a percentage.

The passing threshold is 60%.

テキスト(教科書) :

Philip Pullman, *The Ruby in the Smoke* (London : Scholastic, 2018) [ISBN: 978-1407191058]

参考書 :

Lucy Inglis, *Milk of Paradise: A History of Opium* (London: Picador, 2019) [ISBN: 978-1447286110]

担当教員から履修者へのコメント :

Anyone who's interested in Victorian England, or reading a mystery novel in English will be welcome. Doing the assigned reading and completing the worksheet exercises prior to each class is of vital importance. This course will be conducted entirely in English, so the **participants will be strongly advised to use English at all times**.

質問・相談 :

Questions can be asked before, during, and after the class, both in person and via K-LMS.

英語 I 中級 1 単位 (春学期)

英語 II 中級 1 単位 (秋学期)

(RWS) Talking Philosophy

講座番号 : 115

井口 篤

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

Can we truly perceive the world around us? What is reality? What is happiness? Do we have free will, or is our behavior predetermined by God? Does God exist? What should we do to create a safe, stable society?

 Most of us have asked these questions or at least vaguely wondered about them at some point. This English-only course serves as an introduction to some of the most prominent thinkers in history who articulated and explored these philosophical questions, questions that remain hotly debated in the twenty-first century. Our guide will be Nigel Warburton's *A Little History of Philosophy*, which, as the title suggests, provides a concise historical overview of the long (though primarily Western) philosophical tradition spanning the last two and a half millennia. Our journey will be enriched by the insights of philosophers such as Socrates, Aristotle, Augustine, Thomas Aquinas, and Thomas Hobbes, among others.

 As the book is conveniently divided into short chapters—each about five to seven pages and focusing on just a couple of philosophers—we will read one chapter each week. This will allow us to delve into the key questions these thinkers grappled with. Students will be expected to read the assigned chapter before class and complete additional activities, such as worksheet exercises and a short essay.

 In-class activities will include: 1. A brief explanation of the week's chapter by the instructor (5–10 minutes).

 2. Comparing answers to the worksheet exercises (15–20 minutes).

 3. Group discussions (20–30 minutes).

 4. Presenting to the entire class questions, answers, and further points for discussion (30–40 minutes).

 By engaging in these activities—reading, thinking about, and discussing philosophical questions—students will enhance their reading comprehension, written expression, and spoken fluency in English.

 This course will be conducted entirely in English, and students are strongly encouraged to use English at all times, including during group discussions, when asking the instructor questions, or even when explaining reasons for lateness or absence. Please ensure you complete the assigned reading and other tasks provided by the instructor.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

Please complete the assigned reading and worksheet questions each week. This will require students to dedicate at least an hour, though the preparation time may vary from person to person.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Evaluation will be based on regular attendance (20%), preparation, assignments, and classroom discussions (20%), as well as two end-of-semester exams (60%).

 The general rules concerning attendance are as follows :

 1. Absences : Each absence will result in a deduction of two points from your overall attendance score of 20 points allotted per semester.

 2. Lateness : Each instance of being late will result in a deduction of one point (i.e., being late twice will be equivalent to one absence).

 3. Train delays : A slip issued by the railway company indicating a train delay will not be accepted as an excuse for lateness unless the train is delayed by 20 minutes or more.

 4. Illnesses : A common cold or similar illnesses will not be accepted as a valid reason for an absence. However, contagious diseases such as the flu or COVID-19 will be accepted as valid reasons. In such cases, please provide the instructor with a diagnosis or documentation issued by a doctor, clinic, or hospital.

 5. Passing criteria : All scores accumulated throughout the academic year will be converted into a percentage. The passing threshold is 60%.

テキスト(教科書)：

Nigel Warburton, *A Little History of Philosophy* (New Haven and London: Yale University Press, 2011) [ISBN: 978-0300187793]

担当教員から履修者へのコメント：

Anyone who wants to read about and discuss philosophical themes in English will be welcome!

質問・相談：

Questions can be asked, both in person and via K-LMS, before, during and after class.

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RR 現代アメリカ小説を読む

講座番号 : 116

内田 大貴

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

 この授業では、日系アメリカ人作家Julie Otsukaの小説*The Swimmers* (2022) を精読します。本書は英語の教科書というわけではありません。内容に学習者向けの手加減はありませんし、学校で習った英語が通用しない場合もあるでしょう。そのため、内容を理解するためにじっくりと時間をかけて読み込んでいく努力が必要です。ただ字面を理解するのではなく、そこに含まれる意図や暗示、比喩など、英語力だけにとどまらない多角的な読解力を養うのが本授業の主な目的です。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

1時間 (目安)

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

出席・授業参加 20% (各学期 3回まで欠席可)

授業内課題 30% (単語テスト・小エッセイ)

授業内試験 50%

テキスト(教科書)：

Julie Otsuka, *The Swimmers*, Knopf, 2022. ISBN: 978-0593321331

担当教員から履修者へのコメント：

 毎回指定された範囲を予習をしないと授業の内容についてくるのは難しいと思います。時間を費やして文章をじっくり読むやる気と根性のある方以外にはおすすめしません。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RR ナショナル・ジオグラフィックを読む

講座番号 : 117

江崎 麻里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

このクラスでは、映像美に定評があるナショナル・ジオグラフィックを用いて、英語の読解力向上を目指し、専門的な研究に備えます。世界のさまざまな文化に英語で触れることで、多角的な視点も培うことができるでしょう。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

毎回、授業冒頭で、その日の範囲の読解テストを行い、それを出席点とみなします。わからないところがないように、しっかり予習をして、授業に臨みましょう。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

日常点 (出席点・毎回の読解テスト・発言) 60%

春学期試験・秋学期試験 40%

テキスト(教科書)：

Reading Explorer 3 Third Edition Cengage Learning (2020) ISBN: 978-0-357-11627-2

担当教員から履修者へのコメント：

地道に積み重ねていくことが好きな人に適した授業です。急がば回れ！

(授業は対面で実施します。)

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

タランティーノ作品を批評する

講座番号 : 118

榎本 悠希

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では著名な映画監督であるクエンティン・タランティーノについての研究書を読解することを通じて、アカデミックなリーディングスキルの向上を試みます。扱うテキストは、Quentin Tarantino: Poetics and Politics of Cinematic Metafiction です。やや本格的な研究書ではありますが、映画を実際に鑑賞しながら読解する予定ですので身構えずに来てください。大学生にとって必要な英語読解能力を開花させましょう。

能動的学修形式：

実験、実技、実習；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

該当箇所を読解してきてください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

演習点（50%）+期末試験（50%）

テキスト（教科書）：

Quentin Tarantino: Poetics and Politics of Cinematic Metafiction (教科書は一部をコピーし授業内で適宜配布いたします)

担当教員から履修者へのコメント：

履修中にタランティーノ作品を一作品でも多く見ましょう

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

アメリカ映画のスクリプトを精読する

講座番号：119

榎本 悠希

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業ではアメリカ映画のスクリプトを精読・精聴することを通じて大学生に必要な英語読解能力やリスニング能力向上させることを目的とします。扱う映画は、クリストファー・ノーラン『ダークナイト』『インターステラー』やクリント・イーストウッド『グラン・トリノ』など多岐にわたります。一つの映画を平均2回の授業に渡って分析します。映画を通じた英語学習により、今までの大学受験英語から一歩踏み込んだ実践的な英語を学びます。

能動的学修形式：

実験、実技、実習；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修（予習・復習等）：

授業内にてプリントを配布しますのでそれらを精読してきてください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

出席/課題（50%）+期末試験（50%）

テキスト（教科書）：

授業内にて配布します

担当教員から履修者へのコメント：

リスニングを行うので体調を整えてきてください

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

（RR）Virginia Woolfの“A Room of One's Own”を精読する

講座番号：120

大島 範子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、イギリスの小説家Virginia Woolfによる、「フィクションと女性」というテーマで書かれたエッセイ、“A Room of One's Own”（1929）（邦題：『自分だけの部屋』）を精読します。英語のエッセイを、文法的な正確さを保ちながら、同時に、比喩を理解し、楽しみ、20世紀初頭のイギリスのフェミニズムについても考えつつ読むための力を養うことを目的とします。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修（予習・復習等）：

履修者の皆さんには、毎回、順番に日本語で本文の和訳をしていただきます。丁寧に辞書を引きながら、構文についてよく考えてきて、わからなかつたところについてもクリアにしてくることを求めます。

目安時間はそれぞれ、予習に一～二時間程度、復習に三十分程度です。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

授業態度50%、学期末の試験50%で評価します。

欠席は三回までです。四回以上欠席した場合は評価の対象としません。

テキスト（教科書）：

Woolf, Virginia. A Room of One's Own and Three Guineas. Oxford UP, 2015. (ISBN: 9780199642212)

担当教員から履修者へのコメント：

・授業は体面で行います。

・履修者の皆さんには、毎回、順番に日本語で本文の和訳をしていただきますので、しっかりと予習をしてくることが前提の授業になります。最初は緩やかなペースで初めて、慣れてきたら少しづつ一回に読むペースを増やしていきましょう。

・英文学史にも（多分）詳しくなれるおまけがつきます。

・生成AIは使用不可です。日本語を普通に自分の力で読むように、英語を読めるようになることを目標にしてください。

質問・相談：

noshima@otsuma.ac.jpにご連絡をください。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

RLS アカデミック・リーディングの技術を磨く

講座番号：121

大鳥 由香子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

中級レベルの読解力養成のコースです。指定の教科書とそれに関連する資料を取り上げ、語彙力をつけること、基本的なリーディングとリサーチのスキルを身につけることを目標とします。授業内容や成績評価の方法については、実際の履修者の英語力などに応じて、変更の可能性があります。

能動的学修形式：

フィールドワーク；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修（予習・復習等）：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

試験 70%

クラス内課題など 30%

履修者数に応じて、変更の可能性があります。

テキスト（教科書）：

Dave Rear, Our World, Our Stories, 成美堂. ISBN 978-4791973170

担当教員から履修者へのコメント：

基本的には授業を対面で行う予定ですが、諸事情によりオンラインに移行することもあります。その際には、連絡を行いますので、注意してください。各学期4回以上の欠席は、成績評価に大きく影響します。

質問・相談：

質問はできる限り授業の前後に行ってください。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

（RR）Academic Reading

講座番号：122

小川 真理

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

CEFR B2レベルの平易な教材を用いつつ、アカデミックな英文の読み解に慣れています。また、様々な考え方されるトピックについての理解を深めます。さらに、語彙を増強します。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修（予習・復習等）：

教科書のリーディングパッセージは予め読み、意味を説明できるようにしておいて下さい。また、分からぬ箇所があれば、不明点を明確

にしておきましょう。

各種の練習問題については、予め解いた上で授業に臨んで下さい。

(想定学修時間：1時間（目安）)

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（授業準備を済ませて授業に参加すること）45%

各学期末試験 55%

やむを得ない事情（忌引、入院、移動困難となる負傷、学校保健安全法に定める「学校において予防すべき感染症」罹患）を除き、各学期5回以上の欠席は不合格となります。やむを得ない理由（交通機関遅延）を除き、3回の遅刻で1欠席に換算します。

授業内での出来具合（練習問題の間違いなど）は成績に影響しません。

テキスト（教科書）：

Lorraine C. Smith and Nancy Nici Mare. (2017). *Reading for Today 4: Concepts*, Fourth Edition. Cengage. ISBN: 978-1-305-57999-6

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面形式で行います。教科書には、ディスカッションなどの設問もありますが、そういった設問も、個人個人指名して答えていただきます。

質問・相談：

K-LMSで受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

(RR) Academic Reading

講座番号：123

小川 真理

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

CEFR B2-C1レベルの教材を通じて、大学での学びに必要となるアカデミックな英文の読解に慣れれます。また、リーディングパッセージを通じて、学部を問わず大学で専攻されうる各種の分野に関する知見を深めます。さらに、語彙を増強します。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修（予習・復習等）：

教科書のリーディングパッセージは予め読み、意味を説明できるようにしておいて下さい。また、分からぬ箇所があれば、不明点を明確にしておきましょう。

各種の練習問題については、予め解いた上で授業に臨んで下さい。

(想定学修時間：1時間（目安）)

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（授業準備を済ませて授業に参加すること）45%

各学期末試験 55%

やむを得ない事情（忌引、入院、移動困難となる負傷、学校保健安全法に定める「学校において予防すべき感染症」罹患）を除き、各学期5回以上の欠席は不合格となります。やむを得ない理由（交通機関遅延）を除き、3回の遅刻で1欠席に換算します。

授業内での出来具合（練習問題の間違いなど）は成績に影響しません。

テキスト（教科書）：

Lorraine C. Smith. (2017). *Longman Academic Reading Series 5*. Pearson. ISBN: 978-0-13-477315-5

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面形式で行います。教科書には、ディスカッションなどの設問もありますが、そういった設問も、個人個人指名して答えていただきます。

質問・相談：

K-LMSで受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

(RW) イギリスのミステリー小説を通して学ぶ英語

講座番号：124

加藤 彩雪

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

春学期は、『チャーリーとチョコレート工場』の作者として知られることが多いロアルド・ダールの短編小説を取り上げます。日常会話の中に隠された人間の狂気や幻想、そして複雑な心の機微を感じ取りながら、ミステリーやサスペンスの奥深さを味わいます。秋学期は、アガサ・クリスティの法廷劇『検察側の証人』を取り上げ、粘り強く一冊の本を読み切ります。検事と弁護士の緊迫したやりとりが、どのように英語で語られているか追いかがら、語彙力や正確に英語を読む力を向上させます。さらに、戦後のイギリスの諸問題への洞察を深めることも目指します。クリスティのミステリーを丁寧に味わいましょう。授業では、まず段落全体の大まかな内容を把握し、次に一つ一つの文章の意味を確認していきます。また、テキストを通して学んだ言い回しを暗唱し自らアウトプットする時間や、読み取ったことを発信する時間も設けます。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修（予習・復習等）：

1時間（目安）

該当箇所の予習をして授業を受けてください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

・平常点40%・レポート試験60%

・出席が授業の2/3に満たない人は評価対象外となります。

・遅刻や早退は3回で欠席1回分とします。

テキスト（教科書）：

・『検察側の証人』アガサ・クリスティ著 尾崎寄春／西澤光代 編注 英宝社 2010

ISBN : 9784269080355

その他プリント配布（keio.jpにアップします）

参考書：

授業にて適宜紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は、対面で行います。

質問・相談：

質問・相談は授業終了後または、メールにて受けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

RLW *Convenience Store Woman* を読む

講座番号：125

加藤 有佳織

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

論説文と小説を教材にしながら、読解力と聴解力を養います。各回前半は、論説文に基づく速読練習と聴解練習を行ない、早く正確に要点を捉える練習をします。この練習について予習は不要ですが、各自で未習語彙や文法事項を確認してください。続いて、村田紗耶香『コンビニ人間』（2016年）の英語版 *Convenience Store Woman* (Ginny Tapley Takemori 訳：2019年) を読みます。グループワークやディスカッションをとおして小説を読み解く力を養います。履修者のみなさんには、継続的に課題に取り組むこと、授業へ積極的に参加することがもとめられます。授業の計画は、履修者の状況によって変更する可能性があります。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

1時間 (目安)

予習：論説文については不要です。小説については、概要担当にかかわらず指定箇所を読み、不明点や疑問点があればまとめておいてください。

復習：論説文については未習語彙や文法事項を見直してください。小説については、授業内容をふまえて課題に取り組んでください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

論説文読解・聴解課題 (40%)、小説読解課題 (20%)・ディスカッション (20%)、期末テスト (20%) による総合評価とします。それぞれ60%以上を満たすことを前提とします。原則として各学期5回以上欠席した場合は成績評価対象外となります。

テキスト(教科書) :

* Sayaka Murata *Convenience Store Woman* (Originally published in Japanese, 2016. Translated by Ginny Tapley Takemori, Grove Press, 2018, ISBN=978-0802129628) ※紙版・電子版問いません。

* 他にK-LMS上で資料を配布します。

担当教員から履修者へのコメント :

授業は基本的に対面で行います。第1回は教室へお越しください。課題内容により、数回オンライン・オンデマンドで実施します。

質問・相談 :

随時K-LMSメッセージもしくはメール (ykrkt@keio.jp) で受け付けます。

英語 I 中級 1単位 (春学期)**英語 II 中級 1単位 (秋学期)**

RWS 英語の記事を読む

講座番号 : 126

川瀬 純子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

この授業ではまずは記事を英語で読み、記事を理解した上で自分の思ったことを話す、書くことを目的としています。ビデオも使いながら理解を深めることもあります。また全員英語の記事を見つけ、記事のプレゼンテーションもていきます。

配布資料はkeio.jpを通して配布され、授業後にはサマリーとライティングの課題提出があります。対面・オンライン併用の授業となります。詳細なスケジュールは初回にてお知らせします。初回は教室で行います。

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

リーディングの予習、ライティングを通しての復習が必要です

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

- ・平常点 (出席、授業や課題への取り組み)
- ・ライティング
- ・(プレゼンテーション)
- ・学期末テスト

の総合点で評価します。

テキスト(教科書) :

配布します

参考書 :

授業時に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント :

この授業では記事を読み進めますが、ディスカッションもあるため、積極的な参加と英語での発話ができる方を歓迎します。しっかりと記事を読み、理解し、スピーチやライティングにも活かせるようにしましょう。履修者の人数によってプレゼンテーションの実施は決めます。初回は教室で行います。

質問・相談 :

授業時、またはemailでいつでも受け付けます。

英語 I 中級 1単位 (春学期)**英語 II 中級 1単位 (秋学期)**

RSL Reading for the Purpose of Discussion

講座番号 : 127

キャンベル、ジョナサン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

The purpose of this course is to allow students to develop English skills and critical thinking skills. Classes will incorporate the four skills reading, writing, speaking and listening, but with a focus on reading, speaking and listening. Students will read materials covering a wide range of topics and analyze them to develop considered opinions. They will then need to communicate and discuss their ideas with classmates. Over the length of the semester students will also read a novel (or graded reader) of their choice and complete a final project based on that reading.

On a weekly basis students will be provided with a topic that they will need to read about. They will then need to incorporate their understanding of the reading materials into discussions and presentations. Students will need to consider topics in-depth and provide contrasting opinions for their discussions. Students will also be required to provide feedback on classmates' ideas. In class, students will be working in pairs or small groups of 3-4 students. A device to access the internet will be required for each class.

There will be weekly homework to be completed on the class page and finished before the next class.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

There is no preparation for the beginning of the course but there will be weekly assignments that students will need to complete before the next week's class. These assignments should take about one hour.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Attendance 20%, Homework 20%, Discussions and Presentations (and Feedback) 40%, Final Project 20%

テキスト(教科書) :

This class will have no textbook. Readings will be provided by the instructor.

担当教員から履修者へのコメント :

All the sessions are conducted in person. This class will be conducted entirely in English. Students are expected to attend weekly and be prepared for each week's activities. Participation is key!

英語 I 中級 1単位 (春学期)**英語 II 中級 1単位 (秋学期)**

RL 難解な文章の精読に挑戦する

講座番号 : 128

倉科 真季

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

この授業では、主に教科書の文章の精読を通して英語のリーディング能力の向上を目指します。毎回の授業で扱う英文は、様々な小説・エッセイ・論文からの抜粋です。講読する一回あたりの文章はそれほど長いものではありませんが、それぞれきちんと文法や個々の単語の意味を確認しなければ読み解けない内容となっているので、一文ずつ英語を分析するつもりでじっくりと精読を行います。

また、教科書では基本的に各々の作品の一部分を読解することになるため、特に文学作品を扱う場合などは作品全体への理解も深めてもら

えるよう、補足の資料や映画等をその都度用いていくつもりです。加えて、授業内では短い動画を使用したリスニングの練習も行う予定です。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

予習として、各授業で扱う教科書のユニットの本文によく目を通し、内容に関する教科書の問題を解いて解答の提出を行うこと（1時間程度）。

また、授業後には返却された提出課題の添削内容や配布された授業資料をよく見直して復習を行うこと。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（教科書問題への解答・グループワークへの参加）：60% / 期末試験：40%

テキスト(教科書)：

葉袋善郎編著『名文で養う英語精読力』（研究社、2009年）ISBN：978-4-327-42179-3

担当教員から履修者へのコメント：

毎回授業までにきちんと指定された範囲の精読を行って授業に臨むようにしましょう。

個々の文章の意味を理解するだけではなく、文章の前後関係を把握し行間を読むレベルにまで到達できるように心がけて授業を行うので、履修者の皆さんもそのつもりで学習を進めてもらえたたらと思います。授業では、グループワークやそれに対するフィードバックをその場で行いながら本文の内容理解を深めていきます。

各学期に5回以上欠席すると、単位の修得ができなくなります。また、30分以上の遅刻は欠席とみなします。

質問・相談：

授業内や授業後のほか、初回にお知らせする連絡先にて受け付けます。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RW Reading Fairy Tales

講座番号：129

小泉 有加

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

よく知られたfairy tale（おとぎ話）を題材に、その歴史的背景に関する論考や、後世の作家による再話などを取り上げます。様々な時代に作られたfairy taleを比較することで、それぞれの時代の特徴や作家の関心事が浮き彫りになります。授業では、テキストを受動的に読む作業だけでなく、異なる時代に書かれたfairy taleの違いが映し出すものは何かということを自発的または批判的に思考し、アウトプットすることが求められます。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（予習や授業への取り組み）、課題の提出、期末試験（記述）の総合点で評価します。

テキスト(教科書)：

授業もしくはK-LMSで配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業ではグループワークがあり、他の受講者と積極的に関わることが求められます。また、予習をして授業に出席すること、能動的に参加することも必要です。各学期4回以上欠席した場合、単位は取得できません。遅刻は電車の遅延の場合も含め、成績に影響します。

質問・相談：

授業の前後やK-LMSの「メッセージ」で質問を受け付けます。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RW Building Academic Skills in English

講座番号：130

小泉 有加

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、各学期に3～4のテーマを取り上げ、テーマに関連した学術書や評論、新聞記事、小説などの読解を行います。読解力向上に基軸を置きつつ、授業では時おり、リスニング、ライティング、プレゼンテーションの機会を設け、英語でのアカデミック・スキルを向上させることを目標とします。

春学期はcommunication studies, linguistics, literature, 秋学期はpolitical science, children's literature, sociologyに関する文献を取り上げる予定です。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（予習や授業への取り組み）、課題の提出（リーディング、ライティングなど）、期末試験の総合点で評価します。

テキスト(教科書)：

授業もしくはK-LMSで配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業ではグループワークがあり、他の受講者と積極的に関わることが求められます。また、予習をして授業に出席すること、能動的に参加することも必要です。各学期4回以上欠席した場合、単位は取得できません。遅刻は電車の遅延の場合も含め、成績に影響します。

質問・相談：

授業の前後やK-LMSの「メッセージ」で質問を受け付けます。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RL 英米のミュージアム

講座番号：131

近藤 真彌

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

現在、内外の美術館や博物館ではウェブサイトを作成していて、所蔵品の豊富な画像と共に詳細な時代背景などの専門性の高い情報を提供しています。本授業では、英米の美術館や博物館のウェブサイト上にある多彩な情報を取り上げて、英米におけるミュージアムの成り立ち、美術や歴史、博物館学について理解を深めながら英文読解力の向上を目指します。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

予習として、指定されたテキストを読んでくる

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

学期末試験の成績（60%）と平常点（予習、課題など40%）を総合して評価します。

学期中5回以上の欠席は履修放棄とみなします。病欠や忌引きの場合は教員へ申し出してください。

テキスト(教科書)：

授業でプリントを配布し、また、適宜参考にするウェブサイトを紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面で実施します。

インターネットを通じて海外の情報を手軽に入手できる時代だからこそ、正しい情報の取り扱いと英語読解力が大切です。授業では主にウェブサイト上のテキストの読み解を行います。辞書にある意味をただ拾うだけではなく、言葉の背景にある文化や歴史に興味を持って積極的に参加してください。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)

RL 美術を読む

講座番号：132

近藤 真彌

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

事典の項目や新聞のレビュー記事、学術書や論文など、美術について書かれた様々なテキストを読んでいきます。内容は主に欧米の美術作品（視覚的イメージ）や文化史に関わるもので、こうした分野の専門用語の理解も含めた英文読解力の向上を目指します。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

予習として、指定されたテキストを読んでくる。

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

学期末試験の成績（60%）と平常点（予習、課題など40%）を総合して評価します。

学期中5回以上の欠席は履修放棄とみなします。病欠や忌引きの場合は教員へ申し出てください。

テキスト(教科書)：

授業でプリントを配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面で実施します。

テキストの内容に関わる英作文練習なども行いますが、基本的に英文和訳の授業です。専門性の高いものも取り上げるので、辞書で調べた訳語を並べただけでは理解しづらい場合もあるかもしれません、同じ分野のテキスト読み解きを続けることで確実に読み易くなっています。

美術や歴史に興味のある学生の積極的な参加を期待します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)

RW 精読入門 — 論説文を読む

講座番号：133

坂本 光

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、主に論説文や新聞・雑誌記事をテキストとし、効率よく正確に英文を理解するためのトレーニングを行います。また必要に応じて、英作文による文法の復習、プレゼンテーションやグループワークも取り入れる予定です。各回の授業で、指名や小テストにより履修者の理解度を確認します。

外国語であれ母語であれ、正確な読み解には、十分な語彙と構文の認識、そしてコンテクストの理解が重要です。この授業では、特に構文とコンテクストへの感覚を、バランスをとりながら磨いてゆくことを目標とします。

能動的学修形式：

実験、実技、実習；プレゼンテーション；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

もちろん予習が必須であり、授業を実力向上に結びつけるためには復習も欠かせません。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照
成績評価方法：

▶ 成績評価は「春学期平常点」25%，「春学期中間・期末試験」25%，「秋学期平常点」25%，「秋学期中間・期末試験」25% の比重で算出します。

▶ 各学期「平常点」は、予習の成果、授業参加への積極性や小テスト等から算出します。

▶ 通年欠席6回で不合格、遅刻は欠席0.5回分として計算します。原則通り、サークル活動等による「公欠」は認めません。

テキスト(教科書)：

各学期第1回目に実施する小テストの結果に照らし、適切なテキストを選び、第3回目の予習に間に合うように K-LMS 経由で配布する予定です。2つ目以降のテキストは、履修者の希望も取り入れながら選択します。

参考書：

辞書・文法書を含め参考文献は授業中に適宜紹介します。事前に入手すべきものはありません。

担当教員から履修者へのコメント：

教室へは必ず英和か英英の学習辞典を持参すること。

質問・相談：

履修前の質問・相談は hikaru.sakamoto@keio.jp にて受け付けます。

履修後の質問等は、教室内や K-LMS で行い、原則として電子メールは使用しないでください。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)

(RW) 世界と日本のつながりを読み議論しよう

講座番号：134

沢村 静

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

英文を読み解できる喜びは、努力なしに味わえません。リーディング・ストラテジーを駆使し英語の語彙を増やしながら、日本に関わる様々なトピックを英語で読み込みましょう。日本国内や世界とその関わり、日本人がどのようにしたら世界の人々とわかり合えるようになるかを論じたエッセイを読み、日本人としての意識や考え方について再考しましょう。また世界で活躍できる国際人を目指し、英語圏で生活する際にも役立つような英語表現の習得を目指します。

能動的学修形式：

グループワーク；PBL（問題解決学習）

準備学修(予習・復習等)：

単語クイズの準備

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

成績は出席状況、小テスト、授業態度、また学期末試験で評価します。欠席は各学期3回まで。

テキスト(教科書)：

指定なし（毎回ダウンロードを指示）

ただし、同じ講師が担当する金曜2限の中級クラスとは異なる教材を使用します。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**

(RW) 日米言葉の面白さを探究しよう

講座番号：135

沢村 静

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

英文を読解できる喜びは、努力なしに味わえません。リーディング・ストラテジーを駆使し英語の語彙を増やしながら、日本に関わる様々なトピックを英語で読み込みましょう。日本国内や世界とその関わり、日本人がどのようにしたら世界の人々とわかり合えるようになるかを論じたエッセイを読み、日本人としての意識や考え方について再考しましょう。また世界で活躍できる国際人を目指し、英語圏で生活する際にも役立つような英語表現の習得を目指します。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク；PBL（問題解決学習）

準備学修(予習・復習等)：

単語クイズの準備

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

成績は出席状況、小テスト、授業態度、また学期末試験で評価します。

欠席は各学期3回まで。

テキスト(教科書)：

指定なし（毎回ダウンロードを指示）

ただし、同じ講師が担当する金曜1限の中級クラスとは異なる教材を使用します。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**

現代の短編小説を読むRR

講座番号：136

志子田 祥子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

英語圏の一般読者向けに書かれた短編小説を中心にさまざまなタイプの文章を読むことで、総合的な英語力の向上を目指します。語り手や視点、時制、話法等、小説に限らず文章を読む際に必要な英文解釈のことを学ぶとともに、現代に求められる教養や洞察力、思考力を養うことが重要な目的となります。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

春学期平常点25%、春学期課題・試験25%、秋学期平常点25%、秋学期課題・試験25%の比重で成績評価を行います。各学期の平常点は授業時間での学びや感想をまとめて提出するコメントシート、発言・質問等による授業内活動への積極的な貢献、小テストの成績などで構成されます。4回以上の欠席は認めません。遅刻3回で欠席1回とみなしますので注意してください。

テキスト(教科書)：

特に指定しません。講義資料プリント・ワークシートをK-LMSより配布します。

参考書：

参考図書については適宜授業内に、あるいはK-LMSを通して指示します

担当教員から履修者へのコメント：

K-LMSを通して配布される資料を参考にして、毎週の指定箇所を予習したうえで授業に参加していただきます。辞書を引いて単語や表現の意味を調べ、自分なりの解釈をした上で授業に臨んでください。わ

かりにくいところがあつても、知識と想像力を駆使し、挑戦してみることが大切です。読んでみてわからなかつた箇所や一緒に確認したい点等はノートにメモし／自身の端末上に保存し、授業で共有できるようにしておきましょう。

質問・相談：

質問・相談は授業時間内あるいは授業の前後、またはK-LMSの「メッセージ」から受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**

RWS ヨーロッパ中世と現代社会

講座番号：137

杉山 ゆき

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

In this course, students will read *Whose Middle Ages?*, a textbook designed for American and British undergraduates. The students taking this course will be asked not only to understand what each chapter says but also to make a short presentation about the topics explored in it. Close reading and speech practice will develop students' ability to read English texts and their skills in oral English. Students also need to read a chapter closely and make a paraphrased summary of it to improve their ability to read and write in English.

Whose Middle Ages?, written by leading experts in medieval studies, explores how the European Middle Ages are being used in modern society through topics such as white supremacy, anti-Semitism, and the immigration crisis. This textbook will thus enable students to deepen their understanding of present-day Western society and politics as well as medieval Europe. The course will be conducted mainly in person, but according to the coursework, some classes will be online.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

Every week, students need to read an assigned chapter, which consists of about 10 pages. Each session of preparatory study or revision is expected to take at least 60 minutes. Also, students are asked to prepare an individual speech, participate in a group presentation and make a paraphrased summary either once or twice a term.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Speech (20%), Paraphrased summary (15x2=30%), Group presentation (15%), Participation in the coursework (10%), Exam (25%) *

*The evaluation criteria can be modified to fit the number of students taking this course.

テキスト(教科書)：

Albin, Andrew, Erler, Mary C., O'Donnell, Thomas, Paul, Nicholas L., and Rowe, Nina. (2019). *Whose Middle Ages?* 1st ed. Fordham University Press.

ISBN : 9780823285563

You can download the textbook from Keio University Library. You do NOT need to buy the textbook unless you want a physical copy.

参考書：

All additional texts will be provided via K-LMS.

担当教員から履修者へのコメント：

This class requires much preparatory study and imposes a lot of coursework on students. Therefore, I look forward to teaching students who are motivated and interested in medieval Europe.

Please note that more than four absences will result in the final letter grade of D. Arriving late twice will equal one absence.

質問・相談：

Please ask me any questions either in a face-to-face class or via the message function of K-LMS. Please include your name and student number in your message.

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

(RR) 日本通による日本人論を読む

講座番号：138

高橋 宣也

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

宮沢賢治の研究と紹介でも知られる日本通の筆者が、日本での生活を通して感じた違和感や偏見などについて綴りながら、日本人が持つ美質をも明らかにしています。明快ながらウイットにとんだ英文をじっくりと読むことで、筆者の姿勢を敏感に感じ取ることを目指します。章ごとにについている問題も扱います。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

- 試験の結果による評価（年2回の学期末試験）
- 平常点：出席状況及び授業時の成果による評価
- 出席要件（原則的に）：欠席容認は各学期3回まで。遅刻は2回で欠席1回とする。交通事情、健康事情などには配慮する。サークル活動の「公欠」は認められない。

テキスト(教科書)：

Roger Pulvers, *Delighting in Cultures: A Vision of Japan's Future* 『世界の中の日本人と日本人の中の世界』（金星堂、2009年） ISBN : 978-4-7647-3885-0

担当教員から履修者へのコメント：

細かいニュアンスもおろそかにせずに丹念に読んでいきますので、毎回の充分な予習が必要です。授業計画は目安で、実際の状況によって変わります。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

(RR) 現代イギリスの短編小説を読む

講座番号：139

高橋 宣也

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

何気ない日常のうちに、人間がふと見せる心の闇を巧みに暴いた作家の作品を読みます。英語は比較的平明ながら、巧妙な筋立てと細部にこめられたウイットが特徴です。文学作品だからこそ味わえる、英語ならではのニュアンスをとらえることを目指します。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

- 試験の結果による評価（年2回の学期末試験）
- 平常点：出席状況および授業時の成果による評価
- 出席要件（原則的に）：欠席容認は各学期3回まで。遅刻は2回で欠席1回とする。交通事情、健康事情などには配慮する。サークル活動の「公欠」は認められない。

テキスト(教科書)：

Muriel Spark, *The Portobello Road and Other Stories* 『スパーク短編小説選』（朝日出版社）（入手困難につきコピー資料配布予定）

担当教員から履修者へのコメント：

充分な予習をして授業に臨んでください。細かいニュアンスや筋の展開の機微をきちんと理解するためにも、読み飛ばすことなく、確実に読み進めていきます。テクストには3作が収められています。授業計画は目安で、実際の状況によって変わります。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RR 西洋美術における風景に関する論考を読解する

講座番号：140

高橋 三和子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

本授業では、Malcolm Andrewsによる西洋美術における風景に関する著作*Landscape and Western Art*を読解します。風景の概念の考察に始まり、ルネサンス絵画における発展、トポグラフィーとの関係などあらゆる角度から分析した論考を読み、英語読解力向上を目指します。トピックや論の展開の把握、注の読み方などを含む学術書読解の基礎的な技術を養いつつ西洋美術についての知識を深めます。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

学術的な著作を読解するにあたり、入念な予習（数ページの和訳制作・1時間（目安））が必要となります。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（小テスト・出席）及び学期末の試験から総合的に評価します。半期について5回以上欠席の場合は原則単位を認められません。

テキスト(教科書)：

Malcolm Andrews, *Landscape and Western Art*, Oxford History of Art (Oxford : Oxford University Press, 1999) ISBN : 978-0-19-284233-6

担当教員から履修者へのコメント：

英語の語彙力の強化、文法・構成の理解を含む読解力向上に対する意欲に加え、扱うトピックの背景的知識を理解、吸収する姿勢を期待します。

質問・相談：

「K-LMS」から質問を受け付けます。

英語 I 中級 1単位 (春学期)

英語 II 中級 1単位 (秋学期)

RR イギリス人写真家による明治日本旅行記を読む

講座番号：141

高橋 三和子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

明治時代の日本を訪れたイギリス人写真家Herbert G. Pontingによる写真入り旅行記*In Lotus-land Japan*を読みます。旅行記ならではの空間描写を含む生き生きとした文体を堪能しつつ英語の読解力向上を目指します。長いセントラルの英文訳出のスキルを高めることを目標とします。豊かな表現力によるエピソードや情景の記述を明治期の美しい写真とともに読み、英語による日本及び日本文化の描かれ方を学びます。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

毎回の入念な予習（数ページの和訳制作・1時間（目安））は欠かせません。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（小テスト・出席）及び学期末の試験から総合的に評価します。
半期について5回以上欠席の場合は原則単位を認められません。

テキスト（教科書）：

プリント教材

担当教員から履修者へのコメント：

写真家である筆者の文章は、写真あるいは絵画を思わせる詳細な風景描写を数多く含みます。このため、重文、複文を用いた難解な長文が度々現れます。意欲的に読解に取り組む学生を歓迎します。

質問・相談：

「K-LMS」のメッセージから質問を受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）**英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）**

(RR) 第2言語習得理論を原書で読む

講座番号：142

田辺 寛

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

皆さんにとって外国語の習得は過去、現在そしてこれからの自己実現に深く関わっていると思います。第2言語習得というテーマで、著名な応用言語学者による外国語の習得のメカニズムについての様々な英語の文献を読みます。この授業はContent Based Approachという指導哲学に基づいて行います。授業で扱う題材に対する興味とそこから生まれる学習動機によって学習を継続し、精読、多読を併用しながら、読んだ内容について理解を深めるための考察を通して自然に英語読解力を高めようとするものです。

 具体的には 1) 応用言語学の基礎的な文献を読みます。 2) 応用言語学の基礎を学び、それを応用して自己の外国語学習を評価します。 3) 1、2を通して専門課程での研究に役立つ英文読解力を養います。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

事前にテキストを読み、疑問点を把握し、当該箇所について意見をまとめる。準備学修にはおよそ1時間程度をあてること。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

試験 (50%)

レポート (合計で50%)

学期中5回以上の欠席は履修放棄とみされます。

学期中遅刻3回で1回の欠席と見みなします。

病欠や忌引きの場合は教員に申し出てください。

テキスト（教科書）：

Oxford, Rebecca L. (1990). *The Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. Longman. ISBN : 0-06-632607-9

Ellis, R.. (1985). *Understanding Second Language Acquisition*. Oxford University Press. ISBN : 0-19-437081-X

Krashen, Stephen, and T. Terrell. (1983). *The Natural Approach*. Prentice Hall. ISBN : 0-13-609934-3

他、応用言語学、社会言語学、心理学、行動学等の文献。授業で指示します。テキストの変更があり得るので事前に準備する必要はありません。

参考書：

Wallace, J.M.. (1980). *Study Skills in English*. Cambridge University Press. ISBN: 0-52-153385-6

担当教員から履修者へのコメント：

英語の学び方、教え方についてのテーマを扱い、学んだことを実践的に活用します。専門分野に直結する文献をしっかり読んで、議論することを期待する人に向いたクラスです。将来外国語の教員を目指す人、言語習得に興味のある人にお勧めしたいテーマです。意欲、レベルに応じた形で英語でのディスカッション、プレゼンテーションをしていただきます。

春期、秋期ともには1~7回目を対面授業形式で進めます。

8回目以降をオンライン形式で進めます。

質問・相談：

tanabe@77.netyou.jp/tanabe.z5@keio.jpから教員に受講についての質問ができます。遠慮なくご相談ください。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）**英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）**

RR 教育言語学の文献を原書で読む

講座番号：143

田辺 寛

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

皆さんにとって外国語の習得は過去、現在そしてこれからの自己実現に深く関わっていると思います。第2言語習得というテーマで、著名な応用言語学者による外国語の習得のメカニズムについての様々な英語の文献を読みます。具体的には学習者方略という分野で扱う優秀な外国語学習者の言語習得と学習法についての研究について読みます。この授業はContent Based Approachという指導哲学に基づいて行います。授業で扱う題材に対する興味とそこから生まれる学習動機によって学習を継続し、精読、多読を併用しながら、読んだ内容について理解を深めるための考察を通して自然に英語読解力を高めようとするものです。

 具体的には 1) 応用言語学の基礎的な文献を読みます。 2) 応用言語学の基礎を学び、それを応用して自己の外国語学習を評価します。 3) 1、2を通して専門課程での研究に役立つ英文読解力を養います。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

毎回の授業までにテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと。またテーマについて意見をまとめておくこと。準備学修にはおよそ1時間を要する。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

試験 (50%)

レポート (合計で50%)

学期中5回以上の欠席は履修放棄とみします。

学期中遅刻3回で1回の欠席と見みなします。

病欠や忌引きの場合は教員に申し出てください。

テキスト（教科書）：

Oxford, Rebecca L. (1990). *The Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. Longman. ISBN : 0-06-632607-9

Ellis, R.. (1985). *Understanding Second Language Acquisition*. Oxford University Press. ISBN : 0-19-437081-X

Krashen, Stephen, and T. Terrell. (1983). *The Natural Approach*. Prentice Hall. ISBN : 0-13-609934-3

他、応用言語学、社会言語学、心理学、行動学等の文献。授業で指示します。テキストの変更があり得るので事前に準備する必要はありません。

参考書：

Wallace, J.M. (1980). *Study Skills in English*. Cambridge University Press. ISBN: 0-52-153385-6

担当教員から履修者へのコメント：

英語の学び方、教え方についてのテーマを扱い、学んだことを実践的に活用します。専門分野に直結する文献をしっかりと読んで、議論することを期待する人に向いたクラスです。将来外国語の教員を目指す人、言語習得に興味のある人にお勧めしたいテーマです。意欲、レベルに応じた形で英語での課題作成、プレゼンテーション原稿の作成等をしていただきます。

春期、秋期ともに1~7回目を対面授業形式で進めます。

8回目以降をオンライン形式で進めます。

質問・相談 :

tanabe@77.netyou.jp/tanabe.z5@keio.jp から教員に受講についての質問ができます。遠慮なくご相談ください。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)

RWS Reading Neil Gaiman

講座番号 : 144

チータム, ドミニク

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

In this class we will read and study some of the work of Neil Gaiman. In the first semester we will study *Fortunately the Milk*. In the second semester we will study *Coraline*. Both these novels are written for children but have a wide variety of vocabulary and connect with interesting topics in literature, sociology and psychology. We will study the books with a strong focus on vocabulary, deeper understanding, learning stylistic choices in English writing, and by connecting with outside topics and themes. The teaching methods include conversation and small group sharing of ideas. There will also be writing activities and reading aloud activities. We will read parts of the novels in class but there will be weekly reading and other assignments for homework.

能動的学修形式 :

ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業；PBL（問題解決学習）

準備学修(予習・復習等) :

For each class there will be preparatory reading. There will also be vocabulary work for each class. Each class should have up to one hour of preparation. There will sometimes be other homework activities set during class.

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Assessment will be a combination of class attendance, work in class, homework assignments, and class tests. Please note that more than three absences in the semester will result in a failing grade. Arrival in class more than 15 minutes late will be counted as an absence. Three late arrivals (after attendance is called but before 15 minutes) will count as one absence.

テキスト(教科書) :

Gaiman, Neal. (2013). *Fortunately the Milk*. Harper Collins. ISBN : 978-0062224088

Gaiman, Neal. (2013). *Coraline*. Bloomsbury. ISBN 9781408841754

担当教員から履修者へのコメント :

The Bungakubu stresses the development of reading ability to allow students to reach a level where they can make use of academic texts in English. The texts we are reading are not academic texts, but they will provide a very good base for higher level reading. They will also provide an excellent introduction to English language culture. The classes will require some research by students, and this will take you closer to the final aims of academic ability in English. Feedback on assignments will be given either in class, with the assignments, or students can ask the lecturer for feedback at any time.

The class will basically be face-to-face. However, there may be occasional classes where an on-demand format is better suited to the material. Any on-demand classes will be announced in class and in the class announcements. Good attendance is very important.

質問・相談 :

Students can ask questions or seek advice before class or preferably by e-mail.

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)

RWS Reading *Winnie-the-Pooh*

講座番号 : 145

チータム, ドミニク

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

In this class we will read and study some of the work of A.A. Milne. In the first semester we will study *Winnie-the-Pooh*. In the second semester we will study *The House at Pooh Corner*. Both these books are written for children but have a wide variety of vocabulary, and connect with interesting topics in literature, sociology and psychology. We will study the books with a strong focus on vocabulary, deeper understanding, learning stylistic choices in English writing, and by connecting with outside topics and themes. The teaching methods include conversation and small group sharing of ideas. There will also be writing activities and reading aloud activities. We will read parts of the books in class but there will be weekly reading and other assignments for homework.

能動的学修形式 :

ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業；PBL（問題解決学習）

準備学修(予習・復習等) :

For each class there will be preparatory reading. There will also be vocabulary work for each class. Each class should have up to one hour of preparation. There will sometimes be other homework activities set during class.

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Assessment will be a combination of class attendance, work in class, homework assignments, and class tests. Please note that more than three absences in the semester will result in a failing grade. Arrival in class more than 15 minutes late will be counted as an absence. Three late arrivals (after attendance is called but before 15 minutes) will count as one absence.

テキスト(教科書) :

Milne, A.A. (1926). *Winnie-the-Pooh*. Puffin. ISBN 9780142404676

Milne, A.A. (1928). *The House at Pooh Corner*. Puffin. ISBN 0140361227

担当教員から履修者へのコメント :

The Bungakubu stresses the development of reading ability to allow students to reach a level where they can make use of academic texts in English. The texts we are reading are not academic texts, but they will provide a very good base for higher level reading. They will also provide an excellent introduction to English language culture. The classes will require some research by students, and this will take you closer to the final aims of academic ability in English. Feedback on assignments will be given either in class, with the assignments, or students can ask the lecturer for feedback at any time.

The class will basically be face-to-face. However, there may be occasional classes where an on-demand format is better suited to the material. Any on-demand classes will be announced in class and in the class announcements. Good attendance is very important.

質問・相談 :

Students can ask questions or seek advice before class or preferably by e-mail.

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**RR *American Slavery* を読む

講座番号：146

辻 秀雄

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

読み応えのある英語で書かれたアメリカ史を題材にしたテキストを講読し、大学教養レベルにふさわしい英語力を身につけることを目標とします。

以下のような事柄に重点を置いています：

- ・学術文章レベルの英語を理解する。
- ・アメリカ史の基礎事項を学ぶ。
- ・人種問題について学ぶ。

能動的学修形式：

プレゼンテーション

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）；1段落ごとに担当者を決めて発表をしてもらう予定です。発表内容は、全訳（段落のまとめ）、難しい英語表現等の解説、文化や歴史に関わる事柄の解説。履修者はレッスン範囲のテキストを読んで授業に臨み、発表に対して質問やコメントをしてもらいます。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加、発表、課題による評価）40%

試験およびレポートの結果による評価 60%

テキスト(教科書)：

Heather Andrea Williams, *American Slavery: A Very Short Introduction* (Oxford UP)

ISBN : 9780199922680

生協に発注してあります。

担当教員から履修者へのコメント：

授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。半期5回以上欠席した者は成績評価の対象から外します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**RR *African American History* を読む

講座番号：147

辻 秀雄

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

読み応えのある英語で書かれたアメリカ史を題材にしたテキストを講読し、大学教養レベルにふさわしい英語力を身につけることを目標とします。

以下のような事柄に重点を置いています：

- ・学術文章レベルの英語を理解する。
- ・アメリカ史の基礎事項を学ぶ。
- ・人種問題について学ぶ。

能動的学修形式：

プレゼンテーション

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）；1段落ごとに担当者を決めて発表をしてもらう予定です。発表内容は、全訳（段落のまとめ）、難しい英語表現等の解説、文化や歴史に関わる事柄の解説。履修者はレッスン範囲のテキストを読んで授業に臨み、発表に対して質問やコメントをしてもらいます。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加、発表、課題による評価）40%

試験およびレポートの結果による評価 60%

テキスト(教科書)：

Jonathan Scott Holloway, *African American History: A Very Short Introduction* (Oxford UP)

ISBN : 9780190915155

生協に発注してあります。

担当教員から履修者へのコメント：

授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。半期5回以上欠席した者は成績評価の対象から外します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**

(RR) Basic Reading Strategies

講座番号：148

津田 敦子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

英語を一語一語日本語に置き換えるのではなく、英文を読んで自分が必要としている情報を得る、または内容を正しく理解するために必要な基本的なストラテジーの習得、実践的な英文読解能力の向上を主たる目的とする。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

Review of the reading skills

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

授業内容の理解度、課題の提出、小テスト、Reviewテストの結果などを見て総合的に判断する。

出席は80%以上（1学期欠席3回まで）。遅刻3回1欠席とする。

テキスト(教科書)：

No textbook required

担当教員から履修者へのコメント：

毎回の授業内容を必ず復習し、与えられる課題一つ一つに真摯に取り組むことが大切です。また、わからないことはそのままにせず、積極的に質問をして解決するようにしてください。

英語Ⅰ中級 1単位 (春学期)**英語Ⅱ中級 1単位 (秋学期)**

RR 知的に英語を読むために——新聞コラム講読

講座番号：149

新名 ますみ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

皆さんはこの大学に入るまでに数多くの英文を読んできたでしょう。英文法も不足なく学んできたことでしょう。そうであれば、もう英文を読むという行為は完成されたと思っているかも知れません。しかし、意味は十分に取れているはずの英文を「知的に読む」となったらどうでしょうか。内容を具体的に把握し、言葉遣いやリズムにも注目し、皮肉やユーモアを拾い上げ、さらに言外に示唆された主張を読み解こうと言われたらどうですか。少なからず戸惑うのではないかでしょうか。

そのようなチャレンジにふさわしいのが、新聞のコラム欄などに見られる知性あふれる文章です。欧米人の教養を体現していると言っても過言ではないコラム記事には、多岐にわたる題材、豊かな表現、鋭い洞察が展開されています。「職場の仕切り屋に困っているあなた、必見です！」や「寝室を見ただけで性格診断できます！」などの興味をそそられる内容を読みながら、英語のみならず文化や考え方を学ぶことで、知的な読解力を身につけていきましょう。題材としては、春学期には、コラム的な構成でビジネス心理学を語るテキストを、秋学期には、その他のコラム記事を様々に取り上げる予定です。

授業は、①和訳の一部を事前に提出した上で、②さらなる和訳、文法、内容理解については、授業中にクラス内で意見を出し合いながら進め、③次回の授業で口頭の復習テストを行うことにより学習内容の定着を図る、という形で進めていきます。和訳は採点してフィードバックするので、時間をかけて取り組みましょう。なお、より豊かに英文を理解するために、時間の許す限り、テキストの朗読も練習していく所存です。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

予習：自分の担当箇所については事前課題を提出する形で、担当箇所以外については授業前に和訳をするなどの準備をしてください。

復習：毎回の復習テストのために、前回の内容を復習してください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

和訳（事前提出）：20%

授業中のパフォーマンス（和訳・発言・朗読など）：40%

毎回の復習テスト：20%

期末の最終テスト：20%

テキスト(教科書)：

Mind Matters : The Psychology of Business and Work. (『社会で役立つビジネス心理』) Jim Knudsen著 南雲堂 2018年 ISBN: 978-4-523-17859-0 C0082

参考書：

授業中に適宜紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

1. この授業は全回において対面授業を予定しています。
2. テキストの和訳を入念な準備の上で全員に提出してもらうので、綿密な英文和訳や精読に興味のある学生を歓迎します。単なる逐語訳以上の和訳のために予習は2時間程度、復習は毎回の小テストのために1時間程度は行いましょう。
3. フィードバックについては、試験の解説は授業内で行い、結果や成績はCANVASから個別にお知らせします。
4. 欠席と遅刻に関するルール
 - ・欠席は、全授業回数の1/4（通常は半期で3.5回）まで。
 - ・相当の理由のある欠席（要・証明書）を含めても、全授業回数の1/3（通常は半期で4.6回）まで。
 - ・遅刻は、欠席の1/3とする。
 - ・交通機関の遅延に関しては、10分以下の遅延は考慮対象としない。

質問・相談：

K-LMSのメールシステムを利用するか、或いは下記のメールアドレスに連絡してください。

m-niina@keio.jp

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

RR カズオ・イシグロ作『わたしを離さないで』を読む

講座番号：150

沼田 香穂里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

このクラスの目的是カズオ・イシグロの小説『わたしを離さないで』を読むことを通じ、英語の読解力を高めることにあります。カズオ・イシグロは2017年にノーベル文学賞を受賞しました。本作品はSF小説という特殊な設定を扱いながら、「生きる」という普遍的なテーマについて深く考える機会を与えてくれます。人生に意味を与えるものは無垢なのか、それとも真実、愛、創作、記憶なのか？物語の表面を理解するだけでなく、そこに隠された意味も読み取るため、自分で考えながら読むことが必要になります。

春学期はまだ英語で小説を読むことに慣れていない学生のために、詳細な文法・語の説明をしながら小説冒頭部をしっかりと読んでいきます。秋学期は学生の側から大事だと思った箇所を指摘してもらい、意見を求めるながら理解を深め、より長い文章を読めるようになる練習をします。一年を通して、大学で必要とされる英語の読解力の育成を目指します。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

予習として、教科書の指定されたページを辞書を引きながら読むことが求められる（60分程度）。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

評価は、学期末の筆記試験の成績に出席と平常点（予習の有無など）を加味して決定します。各学期とも4回以上欠席した学生は学期末試験を受験する資格を失います。

テキスト(教科書)：

Ishiguro, Kazuo (2017). *Never Let Me Go: With GCSE and A Level Study Guide*. Faber and Faber. ISBN: 97805071335770

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面で実施します。授業に積極的に参加し、自発的に意見を述べる学生を歓迎します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

RR J. R. R. トールキン作『ホビットの冒険』を読む

講座番号：151

沼田 香穂里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、トールキンの『ホビットの冒険』を原書で読みます。この作品はもともと子供用であったため、比較的易しい英語で書かれている一方、古英語・古英語文学の学者であったトールキンの学識に基づいた情報や、深い人間洞察に裏付けされた大人にも楽しめる内容で、初めて英語で小説を読むという学生に最適です。

春学期はまだ英語で小説を読むことに慣れていない学生のために、詳細な文法・語の説明をしながら小説冒頭を中心につかって読んでいきます。秋学期は学生の側から大事だと思った箇所を指摘してもらい、意見を求めるながら理解を深め、より長い文章を読めるようになる練習をします。細部まできちんと読みとる力と、自分で重要ポイントを見つけてその場所を中心に読む練習をすることで、最終的には一冊の小説を英語で読み切ることのできる実力を身につけます。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

予習として、教科書の指定されたページを辞書を引きながら読むことが求められる（60分程度）。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

評価は、学期末の筆記試験の成績に出席と平常点（予習の有無など）を加味して決定します。各学期とも4回以上欠席した学生は学期末試験を受験する資格を失います。

テキスト(教科書)：

Tolkien, J. R. R. *The Hobbit*. HarperCollins. ISBN 978-0007458424

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面で実施します。授業に積極的に参加し、自発的に意見を述べる学生を歓迎します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）**英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）**

RR Oscar Wildeの短編小説を読む

講座番号：152

橋本 良一

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、Oscar Wildeの短編小説を題材に、大学教養レベルの英語リーディングスキルを養成します。取り扱う作品は、“The Happy Prince”、“The Selfish Giant”、“The Nightingale and the Rose”などを予定しており、これらの物語を丁寧に読み解くことで、構文や語彙の理解を深めるとともに、文学的な読解力を高めます。また、文学研究の基礎となる「クロースリーディング（close reading）」のスキル習得にも重点を置いています。ただし、ここでいうクロースリーディングは、日本語で一般的に「精読」と訳されるものとは必ずしも一致しません。クロースリーディングとは、たんに文章の意味を正確にとらえる（make sense）だけでなく、文が意味をなさなくなる瞬間に注目するものです。本授業は、そうしたクロースリーディングを起点として批評へと展開していく道筋を示し、文学研究への入門としての役割も果たします。授業は訳読形式で進め、毎回1.5～2ページを取り上げ、詳細に分析しながら進行します。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修（予習・復習等）：

毎回、授業で扱う1.5～2ページの教科書を事前に読んでもらいます。特に、知らない単語や表現があれば、辞書や文法書を活用して意味や使い方を調べ、疑問点を整理しておいてください。また、発音に自信がない単語については、辞書やYoughlishなどのオンラインリソースを利用して事前に確認し、練習しておくと効果的です。準備にかかる時間は1時間（目安）です。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照**成績評価方法：**

成績は、平常点（出席状況および授業態度）と期末試験（授業で扱った範囲の筆記試験）の評価に基づいて決定します。平常点と期末試験の比率はそれぞれ50%とします。

本授業では、授業への参加が重要な評価基準となります。5回以上欠席した場合、単位を取得することはできません。ただし、出席回数が規定を満たしていても、授業内容への理解が不十分な場合は、単位を取得できないことがあります。授業内容の特性上、毎回の出席と積極的な参加を強く推奨します。

テキスト（教科書）：

Wilde, Oscar, The Complete Short Stories, ed. by John Sloan (Oxford: Oxford University Press, 2010). ISBN: 978-0199535064

参考書：

Frankel, Nicholas, The Invention of Oscar Wilde (London: Reaktion Books, 2021). ISBN: 978-1789144147

Wilde, Oscar, The Short Stories of Oscar Wilde: An Annotated Selection, ed. by Nicholas Frankel (Cambridge, MA: Harvard University Press, 2020). ISBN: 978-0674248670

担当教員から履修者へのコメント：

本授業では、英文学の古典的な作品を題材に、構文や語彙、表現技法を詳細に分析しながら、文学研究の基礎であるクロースリーディングのスキルを習得することを目指します。授業は緩やかなペースで進行しますが、その内容は非常に密度の濃いものです。英語力の向上に真摯に取り組みたい方や、文学を深く味わいたいという意欲を持った学生の参加を心より歓迎します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）**英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）**

RS Essential reading skills for college

講座番号：153

ハディンハム、オリバー

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

This course aims to enhance students' reading comprehension, speed, and critical thinking skills. It covers various strategies and techniques to help students effectively understand and analyze academic texts.

Course Objectives : Students will develop efficient reading habits and strategies. In addition, they will improve comprehension and retention of complex texts. Students will also enhance critical thinking and analytical skills, and their reading speed without compromising understanding.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修（予習・復習等）：

- pre-reading tasks (textbook)

- review tasks (online)

60 minutes approximately

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照**成績評価方法：**

- Quizzes and tests on reading comprehension.

- Online review tasks

- Written summaries and analyses of assigned readings.

- Participation in class discussions and activities.

- Final project or presentation demonstrating improved reading skills.

テキスト（教科書）：

Inside Reading Level 3 Student Book

ISBN : 978-0-19-441629-0

担当教員から履修者へのコメント：

This course is designed to equip students with the necessary skills to tackle academic reading challenges and succeed in their studies. You will be expected to communicate in class actively and participate in pair and group work.

Students need to attend 12 of the 14 classes to meet the attendance requirement of the course. If a student is more than 10 minutes late for class they will be marked 'absent'. The 90% of the classes will be on campus and face-to-face.

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）**英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）**

RW英語で文学概念を学ぶ

講座番号：154

細野 香里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

本授業では、文学作品を批評する際に用いられるさまざまな概念について平易な英語で解説しているテキストを用い、英文読解能力を養うとともに、文学概念について一通りの知識を身に着けることを目標とします。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修（予習・復習等）：

予習) 授業で扱う範囲を精読する。わからない単語や慣用句を辞書で調べておく。

復習) 授業で取り上げられたキーワードの概念について自分なりに整理し、理解を深める。

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

1. 積極的な授業への参加、授業内課題：40%
2. 試験：60%

テキスト（教科書）：

宮本文 ほか編著 *Literature Ideas You Really Need to Know: From "Mimesis" to "Sexual Politics"* / 『文学概念入門：〈ミーメシス〉から〈セクシュアル・ポリティクス〉まで』（松柏社、2021年）ISBN：978-4-88198-769-8

参考書：

必要に応じてプリント類を配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

本授業は基本的にすべて対面で行われる予定です。授業回数の都合上、テキストのすべてのチャプターを扱うことはせず、教員が取捨選択しています。

そのほか、本授業を履修するうえで以下の点に留意してください。

- ・テキストと辞書はかならず持参すること。
- ・予習としてテキストの指定範囲を読んでくること。
- ・5回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。遅刻は3回で欠席1回分とみなす。

質問・相談：

授業の前後に受け付けます。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

英語の歴史、現在とこれから

講座番号：155

堀 美里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、Simon Horobin著、*The English Language: A Very Short Introduction*を読み、アカデミックな英語を正確に読む訓練をしながら、英語という言語がどのようにアングロサクソン時代、中世、初期近代を経て英語の現在の姿へ発展したのかを学びます。

*The English Language: A Very Short Introduction*は、英語という言語の歴史と、英語の現在の姿—「英語とは何か」という問い合わせ、その起源、英語という言語の「正しさ」がどのように作られるのか、標準的な英語とは何か、方言等の多様性、世界言語としての英語—を考察しています。現在では10億人以上が英語を話すと言われており、それは英語が新しい話者を獲得すると同時に変化適応していくことをも意味します。私たちは上記の問い合わせと共に、「世界言語」としての英語の未来についても考えます。

アカデミックな英語を正確に読めること、自ら興味を持って調べながら英文を読めることを目標にします。学術的な英語を読む力を養い、今後も自ら英語文献にあたることができるよう訓練します。また、著者による映像解説を視聴して、リスニングにも挑戦します。学生自身が選んだトピックに関して、日本語でのプレゼンテーションを予定しています。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

毎週の授業でテキストの精読を行います。必ず辞書を引いて予習をし、準備してください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点20%（出席点、予習への取り組み）、プレゼンテーション40%、期末試験40%。

最初は輪読で進めます。

テキスト(教科書)：

Simon Horobin著、*The English Language: A Very Short Introduction*
Oxford University Press, 2018年。

ISBN : 9780198709251

参考書：

指定のテキスト以外に必要な資料がある場合は、授業中に適宜配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

英語という言語とその歴史、あるいは言語そのものに関して興味関心があり、英語とその内容を丁寧に理解して取り組みたいという方を歓迎します。また、読むだけではなく読んだうえで考え、クラスメイトと話をしたい、議論がしたいという方、積極的にアイデアを共有したいという方を歓迎します。授業には必ず辞書（いかなる媒体も可）を持参して臨んでください。

質問・相談：

授業前・授業中・授業後、メールでも受け付けます。メールアドレスはmisato.hori@keio.jpです。

英語Ⅰ中級 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

【RWS】キリスト教美術について学ぶ

講座番号：156

堀 美里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、Beth Williamson著、*Christian Art: A Very Short Introduction*を読みます。キリスト教美術（芸術作品）についての知識を深めると共に、聖書の物語を読み、聖書の物語における重要な人物（聖母マリアやその他の聖人など）、教会建築や中世の書物、現代のキリスト教美術について、この著書の構成にしたがって理解を深めています。そして著者が書いているように、キリスト教美術は西洋の歴史、政治、神学や哲学などを多面的にとらえる第一歩になります。

アカデミックな英語を正確に読めること、自ら興味を持って調べながら英文を読めることを目標にします。学術的な英語を読む力を養い、今後も自ら英語文献にあたることができるよう訓練します。また、前期・後期共に、ロンドンナショナルギャラリーなどの映像解説を視聴して、リスニングにも挑戦します。学生の皆さんには、芸術作品とその物語などに関してテーマを自分で設定し、原稿を英語で書き、英語でプレゼンテーションをします。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

毎週の授業でテキストの精読を行います。必ず辞書を引いて予習をし、準備してください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点30%（出席点10%、予習への取り組み（担当制20%）、エッセイ（プレゼンテーション）30%、期末試験40%。

最初は担当ではなく輪読で進めます。

テキスト(教科書)：

Beth Williamson、*Christian Art: A Very Short Introduction*
Oxford : Oxford University Press, 2004.

ISBN : 9780192803283

自身で購入するか、keio.jpにテキストをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。慶應義塾図書館のオンラインデータベースでもデジタル版が利用できます。

参考書：

指定のテキスト以外に必要な資料がある場合は、授業中に適宜配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

西洋の文化、歴史、美術、聖書に関して興味関心があり、英語とその内容を丁寧に理解して取り組みたいという方を歓迎します。また、読むだけではなく読みうえで考え、クラスメイトと話をしたい、議論がしたいという方、積極的にアイデアを共有したいという方を歓迎します。授業には必ず辞書（いかなる媒体も可）を持参して臨んでください。

質問・相談：

授業前・授業中・授業後、メールでも受け付けます。メールアドレスはmisato.hori@keio.jpです。

英語 I 中級 1単位 (春学期)**英語 II 中級 1単位 (秋学期)**

(RSW) Social and Legal Issues in English

講座番号：157

和氣 直子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

The primary objective of this course is to enhance students' skills and confidence in reading English texts and expressing their ideas in English. Students will explore themes related to society and law in the United States, with some insights into Japan, addressing issues such as employment, gender, free speech, constitutional law, and the judicial system. During the semesters, students will also engage in dialogues in groups, carry out research tied to the readings, deliver presentations, take part in debates, and write essays.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

Ensure you have read the assigned materials and looked up any unfamiliar terms in preparation for each class session. Expect to dedicate, on average, one hour outside each class.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照**成績評価方法：**

Evaluation will be based on attendance and class performance including reading activities and discussions, presentations and debates, a test, and writing assignments.

テキスト(教科書)：

Handouts will be given out in class.

参考書：

References will be provided as needed in class.

担当教員から履修者へのコメント：

- This course requires regular attendance and participation. Students must not have more than four absences from in-person or online classes in order to receive credits. Being late to class will result in deductions of attendance points and class participation points.
- Most of the sessions will be held in person, with approximately two sessions conducted online (on-demand format). The first session in April meets in the classroom.
- The language of instruction is mainly Japanese in order to accommodate students of English at the intermediate level of proficiency. 授業実施言語は主に日本語です。

質問・相談：

Students are welcome to ask questions during and after each session.

中級発展**英語 I 中級発展 1単位 (春学期)****英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)**

(RWS) Can We Still Talk about Justice?: Reading Michael J. Sandel's *Justice: What's the Right Thing to Do?*

講座番号：161

井口 篤

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

Let me ask you, quite naively : What is justice? This is certainly a deceptively simple question, one that has been asked far more often than it has been answered. Few of us are inclined to pose this question in our daily lives, perhaps for fear of, say, alienating friends. Indeed, it is easy, especially when you're young, to adopt a cynical or relativist stance, claiming that universal justice does not exist. Consider, for instance, the ongoing wars in various parts of the world that have claimed countless lives and show no sign of ending, the justice of which is notoriously difficult to judge.

 And yet, nearly everyone has faced moments in their daily lives where they wonder what the 'right thing' to do might be. This is how ordinary citizens, like you and me, encounter the grand question of justice. Fortunately, the road to understanding justice is a well-trodden one, and we can benefit from the insights of those who have thought systematically and theoretically about the subject in the past. Their guidance can help us refine our thinking about what is right and just in both our public and private lives.

 And this is precisely what Michael J. Sandel offers in his *Justice: What's the Right Thing to Do?*, a blockbuster philosophy textbook published over a decade ago (a book which, I might add, has been purchased far more than it has been read). Sandel deftly introduces us to a variety of philosophers who grappled with profound questions about justice, and he skillfully connects these philosophical inquiries to contemporary political and economic issues that continue to haunt us in the twenty-first century. These include the conflict between capitalism and welfare, affirmative action, and reparations for the wrongs and atrocities of World War II.

 Will we, then, be able to definitively answer the question, 'What is justice?' by the time we finish reading Sandel's book? Unfortunately, the answer must be no. The complexity of the world ensures the emergence of ethical dilemmas and unprecedented situations that even the most rational philosophers might struggle to resolve. Nevertheless, this course will equip you with two crucial skills :

 1. You will acquire a set of theoretical tools to analyse and persistently think about justice from multiple perspectives.

 2. Through intensive reading, writing, and discussion of various philosophical problems, your English proficiency will improve significantly.

 In this spirit, we will read this eminently accessible book and tackle the diverse questions posed by Sandel. To facilitate effective class discussions, students will work on a series of worksheet questions about each chapter. For this purpose, the class will be divided into groups of three or four, allowing for collaborative thinking and discussion. We will read the first half of the book during the Spring Semester and complete the remainder in the Fall Semester. Time permitting, additional material from

Justice: A Reader, a collection of primary sources edited by Sandel, will be distributed electronically to deepen students' understanding of each chapter.

能動的学修形式 :

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

Please complete the assigned reading and worksheet questions each week. This will require students to dedicate at least an hour, though the preparation time may vary from person to person.

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Evaluation will be based on regular attendance (20%), preparation, assignments, and classroom discussions (20%), as well as two end-of-semester exams (60%).

 The general rules concerning attendance are as follows :

 1. Absences : Each absence will result in a deduction of two points from your overall attendance score of 20 points allotted per semester.

 2. Lateness : Each instance of being late will result in a deduction of one point (i.e., being late twice will be equivalent to one absence).

 3. Train delays : A slip issued by the railway company indicating a train delay will not be accepted as an excuse for lateness unless the train is delayed by 20 minutes or more.

 4. Illnesses : A common cold or similar illnesses will not be accepted as a valid reason for an absence. However, contagious diseases such as the flu or COVID-19 will be accepted as valid reasons. In such cases, please provide the instructor with a diagnosis or documentation issued by a doctor, clinic, or hospital.

 5. Passing criteria : All scores accumulated throughout the academic year will be converted into a percentage. The passing threshold is 60%.

テキスト(教科書) :

Michael J. Sandel, *Justice: What's the Right Thing to Do?* (London : Penguin, 2010)

ISBN : 978-0141041339

参考書 :

Michael J. Sandel, ed., *Justice: A Reader* (Oxford : Oxford University Press, 2007)

ISBN : 978-0195335125

担当教員から履修者へのコメント :

Anyone who wants to think about and discuss what justice is in English is cordially invited to join us!

質問・相談 :

Questions can be asked, both in person and via K-LMS, before, during and after class.

英語 I 中級発展 1 単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1 単位 (秋学期)

RR 現代アメリカ作家による短編集を読む

講座番号 : 162

内田 大貴

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

 この授業ではアメリカ人作家George Saundersの短編集*Pastoralia*を精読します。本書は英語の教科書というわけではありません。内容に学習者向けの手加減はありませんし、学校で習った英語が通用しない場合もあるでしょう。そのため、内容を理解するためにはじっくりと時間をかけて読み込んでいく努力が必要です。ただ字面を理解するのではなく、そこに含まれる意図や暗示、比喩など、英語力だけにとどまらない多角的な読解力を養うのが本授業の主な目的です。

能動的学修形式 :

ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業

準備学修(予習・復習等) :

1 時間 (目安)

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

出席・授業参加 20% (各学期 3回まで欠席可)

授業内課題 30% (単語テスト・小エッセイ)

授業内試験 50%

テキスト(教科書) :

George Saunders, *Pastoralia*, Penguin, 2000. ISBN: 978-1573228725

担当教員から履修者へのコメント :

 毎回指定された範囲を予習をしないと授業の内容についてくるのは難しいと思います。時間を費やして文章をじっくり読むやる気と根性のある方以外にはおすすめしません。

英語 I 中級発展 1 単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1 単位 (秋学期)

RR 英語の歴史と文学

講座番号 : 163

江崎 麻里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

このクラスでは、イギリス公共放送の番組『英語史』を通して、英語の読解力向上を目指し、専門的な研究に備えます。英語が、いつイギリスにもたらされ、どのように世界共通語になっていったのかを概観し、イギリス文学の傑作を味わいましょう。

能動的学修形式 :

該当なし

準備学修(予習・復習等) :

毎回、授業冒頭で、その日の範囲の読解テストを行い、それを出席点とみなします。わからないところがないように、しっかり予習をして、授業に臨みましょう。

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

日常点 (出席点・毎回の読解テスト・発言) 60%

春学期試験・秋学期試験 40%

テキスト(教科書) :

『BBC : 英語ものがたり』 朝日出版社 2023年 ISBN : 978-4-255-15296-7

担当教員から履修者へのコメント :

地道に積み重ねていくことが好きな人に適した授業です。急がば回れ！

(授業は対面で実施します。)

英語 I 中級発展 1 単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1 単位 (秋学期)

アメリカ小説を読む

講座番号 : 164

榎本 悠希

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

この授業ではアメリカの短編小説の精緻な読解を通じて大学生にとって必要な基礎的な英語読解能力の向上を養います。扱う作家は、Ernest Hemingway, Raymond Carver, Donald Barthelme, Ursula K. Le Guin, などです。本講義では速読よりも、一文一文をしっかりと精読しながら、深いレベルでの英文読解を目指します。また、それぞれの作品の読了時には履修者間でのディスカッションを行い、単に単語的文構造的に英文が理解できたかだけではなく、それぞれがテキストをどのように解釈したのかを共有したいと思います。これらを通じて英語を学ぶだけではなく、英語で何かを学ぶということの面白さを体験してみましょう。

能動的学修形式：

実験、実技、実習；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

テキストの該当箇所を精読してください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

出席/演習（50%）+期末試験（50%）

テキスト(教科書)：

適宜配布します

参考書：

授業内にて適宜指示します

担当教員から履修者へのコメント：

該当箇所の予習はしっかりやりましょう。

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)**英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)**

RLS：児童文学から考えるアメリカ

講座番号：165

大鳥由香子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、アメリカを代表する児童文学作品であるエレノア・ポーターの*Pollyanna*と*Pollyanna Grows Up*について、さまざまな角度から取り上げます。このクラスは、日本語で指示を行いますが、英語を声に出して読むことを重視します。

能動的学修形式：

フィールドワーク；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

基本的には下記を予定しています。無断欠席、また4回以上の欠席は成績評価に大きく影響します。

授業内で行う課題やディスカッションへの参加など：40%
試験：60%

成績評価の方法については、実際の履修者の英語力などに応じて、変更の可能性があります。

テキスト(教科書)：

Eleanor H. Porter, *Pollyanna* (1913) 版は間わないが、原文のテキストを持参すること。詳しくは開講時に指示します。

参考書：

Harde, Roxanne and Lydia Kokkola (2014). Eleanor H. Porter's *Pollyanna*: a children's classic at 100. University of Mississippi Press. ISBN: 978-1496813114

担当教員から履修者へのコメント：

基本的には授業を対面で行う予定ですが、諸事情によりオンラインに移行することもあります。その際には、連絡を行いますので、注意してください。

質問・相談：

質問はできる限り授業の前後に行ってください。

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)**英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)**

RWS 移民の歴史

講座番号：166

加藤 有佳織

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

移民の歴史を主題とする新聞・雑誌記事や研究書抜粹を読みながら、論説文を読む力とアカデミックな文章を書く力、そして話す力を養います。授業ではディスカッションをとおして課題文の内容理解を深めます。次に、課題文について作文課題やプレゼンテーションを行い、論説文から得た情報をまとめ、考えたことを表現する練習をします。履修者のみなさんは、継続的に課題に取り組むこと、授業へ積極的に参加すること、関連事項を調べ批評的に考えることがもとめられます。授業の計画は、履修者の状況によって変更する可能性があります。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）。授業には課題文を読み、不明点や疑問点があればまとめたうえで参加してください。授業後は、授業内容をふまえて課題に取り組んでください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

ディスカッション（20%）、パラフレーズ・要約・英作文課題（40%）、発表（20%）、期末テスト（20%）による総合評価とします。それぞれ60%以上を満たすことが前提です。原則として各学期5回以上欠席した場合は成績評価対象外となります。

テキスト(教科書)：

K-LMS上で資料を配布します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は基本的に対面で行います。第1回は教室へお越しください。課題内容により、数回オンライン・オンデマンドで実施します。

質問・相談：

随時K-LMSメッセージもしくはメール（ykrkt@keio.jp）で受け付けます。

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)**英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)**

RSL Reading for the Purpose of Discussion

講座番号：167

キャンベル、ジョナサン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

The purpose of this course is to allow students to develop English skills and critical thinking skills. Classes will incorporate the four skills reading, writing, speaking and listening, but with a focus on reading, speaking and listening. Students will read materials covering a wide range of topics and analyze them to develop considered opinions. They will then need to communicate and discuss their ideas with classmates. Over the length of the semester students will also read a novel (or graded reader) of their choice and complete a final project based on that reading.

On a weekly basis students will be provided with a topic that they will need to read about. They will then need to incorporate their understanding of the reading materials into discussions and presentations. Students will need to consider topics in-depth and provide contrasting opinions for their discussions. Students will also be required to provide feedback on classmates' ideas. In class, students will be working in pairs or small groups of 3-4 students. A device to access the internet will be required for each class.

There will be weekly homework to be completed on the class

page and finished before the next class.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

There is no preparation for the beginning of the course but there will be weekly assignments that students will need to complete before the next week's class. These assignments should take about one hour.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Attendance 20%, Homework 20%, Discussions and Presentations (and Feedback) 40%, Final Project 20%

テキスト(教科書)：

This class will have no textbook. Readings will be provided by the instructor.

担当教員から履修者へのコメント：

All the sessions are conducted in person. This class will be conducted entirely in English. Students are expected to attend weekly and be prepared for each week's activities. Participation is key!

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)

RW ディズニー映画の映し出す社会

講座番号：168

倉科 真季

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、ディズニーアニメを社会的・文化的な観点から読み解くことを目的に書かれた映画論をテキストとします。文章の精読を通して英語のリーディング能力の向上を目指すと共に、文学作品や映画をアカデミックな視点から分析・批評するとはどのようなことなのか、論文の読み解きを通して学んでいけたらと考えています。

扱う映画を適宜紹介したり、グループワークを行ったりしながら内容理解を深めた上で、映画やテキストに対する学生各々の意見や見解をクラスで共有できるように授業を進めていくつもりです。

加えて、年度末に提出するディズニー映画をテーマにしたライティング課題の作成に向けて、パラグラフやエッセイの書き方についても授業内で学びます。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

予習として、各授業で扱う教科書のユニットの本文によく目を通し、内容に関する教科書の問題を解いて解答の提出を行うこと（1時間程度）。

また、授業後には返却された提出課題の添削内容や配布された授業資料をよく見直して復習を行うこと。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（教科書問題への解答・グループワークへの参加）：35% / ライティング課題：30% / 期末試験：35%

テキスト(教科書)：

國友万裕、安田優編注『ディズニー・アニメと多様化する社会』Disney Films and Secret Messages: Race, Ethnicity, Gender and Sexuality(英宝社、2019年) ISBN : 978-4-269-11008-3

担当教員から履修者へのコメント：

毎回授業までにきちんと指定された範囲の精読を行って授業に臨むようになります。

個々の文章の意味を理解するだけではなく、文章の前後関係を把握し行間を読むレベルにまで到達できるように心がけて授業を行います。履修者の皆さんもそのつもりで学習を進めてもらえたたらと思います。授業では、グループワークやそれに対するフィードバックをその場で行いながら本文の内容理解を深めています。

各学期に5回以上欠席すると、単位の修得ができなくなります。また、

30分以上の遅刻は欠席とみなします。

質問・相談：

授業内や授業後のほか、初回にお知らせする連絡先にて受け付けます。

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)

RR 民族的背景から読むアメリカ短篇小説

講座番号：169

済藤 葵

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、多民族、多人種で構成されるアメリカを感じてもらうために、白人、黒人、ネイティヴ・アメリカン、アジア系移民といった様々な人種の作品を取り上げます。論説とは異なり、時代背景や文学的視座を考慮に入る小説の読み方を学習します。授業前半は、予習プリントに沿って、物語の内容を確認します。そのうえで後半では、グループでの議論を通して理解を深めます。学生の皆さん、英語で小説を読み切ったという達成感を味わえる場とすることを目標とします。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

- ・平常点（授業参加態度、予習状況、発言やディスカッションの様子も含まれます）25%
- ・レポートによる評価 25%
- ・授業内試験の結果による評価 50%

テキスト(教科書)：

教科書はなく、教材はCANVAS上で資料を配布しますので、各自ダウンロードしてください。

参考書：

授業内で紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

- ・予習をして授業に臨んでください。予習なしでの授業参加は欠席とみなします。
- ・授業には辞書を持参してください（スマートフォンは不可）。
- ・3分の2以上の出席が必要です。欠席が5回目となった場合、成績評価の対象外となります。
- ・遅刻3回で欠席1回とみなしますので、注意してください。
- ・毎週課される英文の量は、決して少なくありません。意欲的かつ真面目な学生の受講を歓迎します。
- ・対面授業を中心としつつ、残りの6回の授業はオンライン（オンラインマンド形式）の予定です。なお初回授業は対面です。初回授業にて、スケジュール（対面授業とオンライン授業の日程）をお伝えします。
- ・ディスカッションを行う予定です。
- ・口頭発表はありません。

質問・相談：

メールで随時受け付けます。

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)

RR 精読入門 — 短編小説を読む

講座番号：170

坂本 光

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、主に短編小説をテキストとし、効率よく正確に英文を理解するためのトレーニングを行います。また必要に応じてプレゼンテーションやグループワークを取り入れる予定です。各回の授業で、指名や小テストにより履修者の理解度を確認します。

外国語であれ母語であれ、正確な読解には、十分な語彙と構文の認識、そしてコンテクストの理解が重要です。この授業では、特に構文とコンテクストへの感覚を、バランスをとりながら磨いてゆくことを目標とします。

能動的学修形式：

実験、実技、実習；プレゼンテーション；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

もちろん予習が必須であり、授業を実力向上に結びつけるためには復習も欠かせません。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

▶ 成績評価は「春学期平常点」25%、「春学期中間・期末試験」25%、「秋学期平常点」25%、「秋学期中間・期末試験」25% の比重で算出します。

▶ 各学期「平常点」は、予習の成果、授業参加への積極性や小テスト等から算出します。

▶ 通年欠席6回で不合格、遅刻は欠席0.5回分として計算します。学則通り、サークル活動等による「公欠」は認めません。

テキスト(教科書)：

各学期第1回目に実施する小テストの結果に照らし、適切なテキストを選び、第3回目の予習に間に合うようにK-LMS経由で配布する予定です。2つ目以降のテキストは、履修者の希望も取り入れながら選択します。

参考書：

辞書・文法書を含め参考文献は授業中に適宜紹介します。事前に入手すべきものはありません。

担当教員から履修者へのコメント：

教室へは必ず英和か英英の学習辞典を持参すること。

質問・相談：

履修前の質問・相談は hikaru.sakamoto@keio.jp にて受け付けます。履修後の質問等は、教室内やK-LMSで行い、原則として電子メールは使用しないでください。

英語I 中級発展 1単位(春学期)

英語II 中級発展 1単位(秋学期)

RR Emily Brontëの*Wuthering Heights*を読む

講座番号：171

佐久間 千尋

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

19世紀イギリス小説の代表作のひとつとして知られる、エミリ・ブロンテの『嵐が丘』(*Wuthering Heights*, 1847) を読みます。英文読解力を養うとともに、文学作品を分析するための多角的な視点を身につけることを目指します。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション；ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

1時間(目安)

予習として、授業で扱う箇所を読み、テキストについてのコメントを用意しておくこと。また、指定された箇所については和訳を準備しておく。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

成績評価の割合は以下の通りです。

・平常点(出席状況、授業への参加、発表、課題提出)：40%

・試験：60%

半期5回以上欠席した場合は、成績評価の対象外とします。病欠や忌引きの場合は教員へ申し出てください。また、遅刻は授業開始後30分までとし、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。

テキスト(教科書)：

Brontë, Emily. (2003). *Wuthering Heights*. Penguin. ISBN: 9780141439556

参考書：

授業内で紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

第1回目授業は対面で実施します。授業にはテキストと辞書を持参すること。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語I 中級発展 1単位(春学期)

英語II 中級発展 1単位(秋学期)

現代の短編・中編小説を読むRR

講座番号：172

志子田 祥子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

英語圏の一般読者向けに書かれた短編小説を中心にさまざまなタイプの文章を読むことで、総合的な英語力の向上を目指します。語り手や視点、時制、話法等、小説に限らず文章を読む際に必要な英文解釈のこつを学ぶとともに、現代に求められる教養や洞察力、思考力を養うことが重要な目的となります。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

1時間(目安)

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

春学期平常点25%、春学期課題・試験25%、秋学期平常点25%、秋学期課題・試験25%の比重で成績評価を行います。各学期の平常点は授業時間での学びや感想をまとめて提出するコメントシート、発言・質問等による授業内活動への積極的な貢献、小テストの成績などで構成されます。4回以上の欠席は認めません。遅刻3回で欠席1回とみなしますので注意してください。

テキスト(教科書)：

特に指定しません。講義資料プリント・ワークシートをK-LMSより配布します。

参考書：

参考図書については適宜授業内に、あるいはK-LMSを通して指示します

担当教員から履修者へのコメント：

K-LMSを通して配布される資料を参考にして、毎週の指定箇所を予習したうえで授業に参加していただきます。単語や表現の意味を調べ、自分なりの解釈をした上で授業に臨んでください。わかりにくいところがあっても、謎解きをする気持ちで挑戦してみることが大切です。読んでみてわからなかった箇所や一緒に確認したい点等はノートにメモし／自身の端末上に保存し、授業で共有できるようにしておきましょう。

授業時間内には内容・語彙の理解についてクイズ等で確認を行ったうえで、ペアやグループ等少人数にわかれて話し合いを行う予定です。また物語の背景等について理解を深めるために動画の視聴や資料の読解を行います。授業後は授業での議論や理解したことについてコメントシートを提出していただきます。コメントシート、小テスト、試験等については次回授業時に講評・フィードバックを行います。

質問・相談：

質問・相談は授業時間内あるいは授業の前後、またはK-LMSの「メッセージ」から受け付けます。

英語Ⅰ中級発展 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級発展 1単位 (秋学期)

(RR) 現代イギリスの小説を読む

講座番号：173

高橋 宣也

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

20世紀後半に活躍したイギリスの作家ミュリエル・スパークの小説を読みます。英語は比較的平明ながら、主人公の風変わりな中年女性の行動をたどるうちに、ひねりの効いた表現や時間的に前後する独特な構成を読み取る醍醐味を味わっていきます。読解の鍵は細部に宿るので、丹念に精読していきます。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

- 年2回の学期末試験

- 平常点：出席状況および授業時の成果

- 出席要件（原則的に）：欠席容認は各学期3回まで。遅刻は2回で欠席1回とする。交通事情、健康事情などには配慮する。サークル活動の「公欠」は認められない。

テキスト(教科書)：

Muriel Spark, *The Driver's Seat* (松柏社) ISBN : 978-4-88198-260-0

担当教員から履修者へのコメント：

充分な予習が必須です。主人公の行動は時に突飛なので、そこをうまく把握し面白く思えるようになることを目指しましょう。その果てに、現代人の淋しさが見えてくるかもしれません。

英語Ⅰ中級発展 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級発展 1単位 (秋学期)

(RR) 中世ロマンス物語の読解

講座番号：174

高橋 宣也

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

西洋に名高い、騎士トリスタンと王妃イズルート（イジー、イゾルデ）との宿命的な恋愛の物語を読みます。英語は現代的に書き直されていますが、中世の雰囲気を伝える古めかしい言い回しも多く交えられています。ストーリーを一定の勢いをもって読み進めるとともに、日常の英語とは異なる言葉のニュアンスなども味わうことを目指します。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

- 年2回の学期末試験

- 平常点：出席状況および授業時の成果

- 出席要件（原則的に）：欠席容認は各学期3回まで。遅刻は2回で欠席1回とする。交通事情、健康事情などには配慮する。サークル活動の「公欠」は認められない。

テキスト(教科書)：

Bedier/Belloc, *Tristan and Iseult* (英宝社) (入手困難につきコピー資料配布予定)

担当教員から履修者へのコメント：

古風でなじみのない表現もいろいろ出てきます。筋とニュアンスを精密に読み込むと同時に、英語の柔軟なとらえ方に慣れるためにも、充分な予習をして授業に臨んでください。授業進行の計画は目安です。時間があれば、物語に関連した映画や音楽も紹介します。

英語Ⅰ中級発展 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級発展 1単位 (秋学期)

RR *American Immigration* を読む

講座番号：175

辻 秀雄

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

読み応えのある英語で書かれたアメリカ史を題材にしたテキストを講読し、大学教養レベルにふさわしい英語力を身につけることを目標とします。

以下のような事柄に重点を置いています：

- 学術文章レベルの英語を理解する。
- アメリカ史の基礎事項を学ぶ。
- 移民問題について学ぶ。

能動的学修形式：

プレゼンテーション

準備学修(予習・復習等)：

1時間（目安）；1段落ごとに担当者を決めて発表をしてもらう予定です。発表内容は、全訳（段落のまとめ）、難しい英語表現等の解説、文化や歴史に関わる事柄の解説。履修者はレッスン範囲のテキストを読んで授業に臨み、発表に対して質問やコメントをしてもらいます。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加、発表、課題による評価）40%

試験およびレポートの結果による評価 60%

テキスト(教科書)：

David A. Gerber, *American Immigration: A Very Short Introduction (Second Edition)* (Oxford UP)

ISBN : 9780197542422

生協に発注しております。

担当教員から履修者へのコメント：

授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3回で欠席1回とみなします。半期5回以上欠席した者は成績評価の対象から外します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語Ⅰ中級発展 1単位 (春学期)

英語Ⅱ中級発展 1単位 (秋学期)

(RSL) Academic Skills: Presentations

講座番号：176

津田 敦子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

This course aims to develop students' communication and language skills in order to plan and deliver an effective presentation in English. It provides students with the tools, experience and confidence they need to present their ideas, as well as opportunities to be an audience, focusing on note-taking, asking for clarification, and offering appropriate questions and comments.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

Review of presentation skills

Presentation preparation

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Grades will be based on :

- Active Participation and Evidence of Effort
- Assignments (e.g. preparation, research, reflections)
- Presentations

出席は80%以上（1学期欠席3回まで）。遅刻3回1欠席とする。

テキスト（教科書）：

Not required

担当教員から履修者へのコメント：

The instructor will give

- 1) advice and suggestions on your presentations during the preparation periods ; and
- 2) feedback and comments after each presentation.

英語Ⅰ中級発展 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級発展 1単位（秋学期）

RR サスペンス小説講読——翻訳家の気分で

講座番号：177

新名 ますみ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

サスペンス小説を読みながら、英語の豊かな表現を学びます。優れた作品には、緊迫感あふれる筋書きに加え、人物の心理描写や巧まざるユーモアが重要な要素となっていることが多いものです。それを楽しみながら読むことで洞察力や表現力を磨き、一語一語をおろそかにせず行間を読む力を習得していきましょう。内容も「夜中に突然かかってきた電話。聞こえてきたのは、この手で殺したはずの女の声だった……！」など、退屈しないで読んでいける筋書きとなっています。

授業は、①和訳の一部を事前に提出した上で、②さらなる和訳、文法、内容理解については、授業中にクラス内で意見を出し合いながら進め、③次回の授業で口頭の復習テストを行うことにより学習内容の定着を図る、という形で進めています。和訳は採点してフィードバックするので、時間をかけて取り組みましょう。なお、より豊かに英文を理解するために、時間が許す限りテキストの朗読も取り上げる予定です。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修（予習・復習等）：

予習：自分の担当箇所については事前課題を提出する形で、担当箇所以外については授業前に和訳をするなどの準備をしてください。

復習：毎回の復習テストのために、前回の内容を復習してください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

和訳（事前提出）：20%

授業中のパフォーマンス（和訳・発言・朗読など）：40%

毎回の復習テスト：20%

期末の最終テスト：20%

テキスト（教科書）：

プリント（授業時に配布します）

参考書：

授業中に適宜紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

1. この授業は全回において対面授業を予定しています。
2. テキストの和訳を入念な準備の上で全員に提出してもらうので、綿密な英文和訳や精読に興味のある学生を歓迎します。単なる逐語訳以上の和訳のために予習は2時間程度、復習は毎回の小テストのために1時間程度は行いましょう。
3. フィードバックについては、試験の解説は授業内で行い、結果や成績はGoogle Form、或いはK-LMSから個別にお知らせします。
4. 欠席と遅刻に関するルール
 - ・欠席は、全授業回数の1/4（通常は半期で3.5回）まで。
 - ・相当の理由のある欠席（要・証明書）を含めても、全授業回数の1/3（通常は半期で4.6回）まで。
 - ・遅刻は、欠席の1/3とする。
 - ・交通機関の遅延に関しては、10分以下の遅延は考慮対象としない。

質問・相談：

K-LMSのメールシステムを利用するか、或いは下記のメールアドレスに連絡してください。

m-niina@keio.jp

英語Ⅰ中級発展 1単位（春学期）

英語Ⅱ中級発展 1単位（秋学期）

RW Oscar Wildeの批評エッセイを読む

講座番号：178

橋本 良一

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、文学批評や芸術に関するエッセイを題材に、大学教養レベルの英語リーディング力とライティング力の向上を目指します。Oscar Wildeの代表的な批評を中心に取り上げ、丁寧に読み解くことで、文学や芸術に対する理解を深め、考察を広げます。また、精読を通じて得られる知識や分析力をライティングへと発展させると同時に、批評と文学作品との関係についても考察を深めます。授業は訳読形式で進め、毎回3～4ページを詳細に分析しながら進行します。さらに、希望者には短いエッセイ課題を提供し、実践的に書く力を鍛える機会を設けています。

能動的学修形式：

ディスカッション、ディベート

準備学修（予習・復習等）：

毎回、授業で扱う3～4ページの教科書を事前に読んでもらいます。特に、知らない単語や表現があれば、辞書や文法書を活用して意味や使い方を調べ、疑問点を整理しておいてください。また、発音に自信がない単語については、辞書やYoughlishなどのオンラインリソースを利用して事前に確認し、練習しておくと効果的です。準備にかかる時間は1時間（目安）です。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

成績は、平常点（出席状況および授業態度）と期末試験（授業で扱った範囲の筆記試験）の評価に基づいて決定します。平常点と期末試験の比率はそれぞれ50%とします。

本授業では、授業への参加が重要な評価基準となります。5回以上欠席した場合、単位を取得することはできません。ただし、出席回数が規定を満たしていても、授業内容への理解が不十分な場合は、単位を取得できないことがあります。授業内容の特性上、毎回の出席と積極的な参加を強く推奨します。

テキスト（教科書）：

Wilde, Oscar, The Soul of Man Under Socialism and Selected Critical Prose, ed. by Linda Dowling (London: Penguin Books, 2001). ISBN: 978-0140433876

参考書：

Frankel, Nicholas, The Invention of Oscar Wilde (London: Reaktion Books, 2021). ISBN: 978-1789144147

Wilde, Oscar, The Critical Writings of Oscar Wilde : An Annotated Selection, ed. by Nicholas Frankel (Cambridge, MA : Harvard University Press, 2022). ISBN: 978-0674271821

担当教員から履修者へのコメント：

本授業では、英文学の古典的な作品を題材に、構文や語彙、表現技法を詳細に分析しながら、文学研究の基礎であるクロースリーディングのスキルを習得することを目指します。授業は緩やかなペースで進行しますが、その内容は非常に密度の濃いものです。英語力の向上に真摯に取り組みたい方や、文学を深く味わいたいという意欲を持った学生の参加を心より歓迎します。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

英語 I 中級発展 1 単位 (春学期)
英語 II 中級発展 1 単位 (秋学期)

RS Essays of John Updike

講座番号 : 179

ハディンハム, オリバー

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

This course aims to enhance students' skills in reading, analyzing literary essays. It covers various strategies and techniques to help students effectively understand and critique literary texts. The course will focus on the essays of the American writer John Updike (1932–2009). He was principally a novelist. He won numerous awards throughout his career, including two Pulitzer Prizes for Fiction for "Rabbit is Rich" and "Rabbit at Rest". Updike's work is characterized by its attention to the minutiae of American life. He also wrote poetry and essays. He is remembered as a prose stylist, and is therefore an ideal essayist to read and learn from.

Course Objectives

Students will develop critical reading and analytical skills and improve comprehension and interpretation of literary texts. Students will also strengthen writing skills for literary analysis and essays and build confidence in discussing and presenting literary arguments.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

- pre-reading tasks (textbook)
- review tasks (online)

60–75 minutes approximately

授業の計画 : K-Support の「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Quizzes and tests on literary concepts and analysis.

Written essays and literary critiques.

Participation in class discussions and activities.

Oral presentations and group projects.

Final project or presentation demonstrating improved literary analysis skills.

テキスト(教科書) :

Q Skills 4, Oxford University Press, ISBN : 978-019-490-3950

Material will be distributed in class or via Keio Canvas

参考書 :

担当教員から履修者へのコメント :

Students will develop efficient reading habits and strategies. In addition, they will improve comprehension and retention of complex texts. Students will also enhance critical thinking and analytical skills, and their reading speed without compromising understanding. This course is designed to equip students with the necessary skills to tackle literary essay reading challenges and succeed in their studies. You will be expected to communicate in class actively and participate in pair and group work.

Students must attend a minimum of 12 classes to fulfill the attendance requirement of the course. Students more than 10 minutes late for class will be marked as absent.

英語 I 中級発展 1 単位 (春学期)
英語 II 中級発展 1 単位 (秋学期)

RWデイヴィッド・ロッジの『小説の技法』を読む

講座番号 : 180

細野 香里

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

本授業では、小説作品を理解する際に有用なさまざまな概念について解説したデイヴィッド・ロッジの『小説の技法』(The Art of Fiction, 1992) を底本としたテキストを用い、英文読解能力を養うと同時に、文学概念について一通りの知識を身に着けることを目標とします。

能動的学修形式 :

ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

予習) 授業で扱う範囲を読みわからない単語・表現を調べてくること。
復習) 授業で扱われた概念について自分なりに整理し理解を深めること。

1 時間 (目安)

授業の計画 : K-Support の「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

1. 積極的な授業への参加、授業内課題 : 40%

2. 試験 : 60%

テキスト(教科書) :

(著者) David Lodge (編注) 内田憲男／渡辺克昭 *The Art of Fiction 小説の技法* (英宝社、1996年) ISBN : 4-269-23063-0

参考書 :

必要に応じてプリント類を配布します。

担当教員から履修者へのコメント :

本授業は基本的にすべて対面で行われる予定です。授業回数の都合上、テキストのすべてのチャプターを扱うことはせず、教員が取捨選択しています。

そのほか、本授業を履修するうえで以下の点に留意してください。

・テキストと辞書はかならず持参すること。

・予習としてテキストの指定範囲を読んでくること。

・5回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。遅刻は3回で欠席1回分とみなす。

質問・相談 :

授業の前後に受け付けます。

英語 I 中級発展 1 単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1 単位 (秋学期)

From Headlines to Hashtags: Understanding Media's Impact

- Label: RWS

講座番号 : 181

マーフィー, ケビン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

This course explores the relationship between media and perception through academic readings, discussions, and projects. Students will examine how various forms of media, including news, advertisements, social media, and films, influence individual and societal views. The course will emphasize critical reading strategies, vocabulary building, and collaborative analysis to develop students' abilities to interpret, critique, and discuss media-related texts. Students will engage in pair work, mini-projects, and presentations to enhance their analytical and communicative skills in English.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

To prepare for classes, students should complete any assignments given in class. In addition, they should focus on building their basic

skills in media literacy and critical reading. They should look at different types of media—such as news articles, advertisements, and social media posts—and see how others react to the opinions. Students should practice critical reading by looking for the main points, facts, and opinions in short texts and think about their own personal media use habits. Additionally, they should look-up essential media-related ideas such as bias, framing, and clickbait and other concepts indicated in the class handouts by reading the suggested basic articles. Finally, students should develop basic discussion skills by previewing and reviewing conversational phrases, such as expressing opinions and asking clarification questions, to engage more effectively in course discussions with partners. Students are expected to spend 60 minutes each week on preparation, homework, and preview activities.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Reading Assignments and Quizzes : 30%

Critical Analyses and Written Work : 25%

Class Participation (Discussions/Group Work) : 20%

Projects and Presentations : 15%

Self-Reflection or Progress Journal : 10%

Attendance is an important part of this course, as active participation in discussions and activities is essential for developing skills and understanding the material. Students are required to attend a minimum of two-thirds of all scheduled classes. Failure to meet this attendance requirement without a valid reason may result in a failing grade for the course. Being late to class twice will be counted as one absence. In the case of absences due to health reasons, students must provide an official absence form from a recognized authority, such as a clinic or university office, to have the absence excused. Students are strongly encouraged to communicate proactively with the instructor regarding any potential attendance issues.

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)

Across Cultures and Time: Understanding the Role of Myths

- Label: RWS

講座番号：182

マーフィー, ケビン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

The main objective of this course is to develop students' academic reading skills through an exploration of world mythologies, focusing on comparing myths across different civilizations. Students will learn to analyze and interpret mythological texts, identify common themes and unique cultural elements, and understand the broader social and historical contexts in which these myths were created. The course aims to expand students' vocabulary related to mythology and storytelling, enhance their critical thinking skills, and foster an appreciation for cultural diversity. Through pair work, group discussions, and creative projects, students will work together to deepen their understanding of how myths reflect universal human experiences and specific cultural values. By the end of the course, students will be able to read and critically analyze complex texts, articulate their thoughts in discussions, and make meaningful comparisons between myths from different cultures.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

Students are expected to spend approximately 60 minutes each week on review, homework and preparation activities. To prepare

effectively, students should complete activities that improve their understanding of myths and develop critical reading habits. Before each class, students should review any materials or key terms provided by the teacher, focusing on understanding the cultural and historical context of the myths they will study. They should also be familiar with basic mythological ideas, such as creation myths, heroes, and tricksters, through the provided short introductory articles. After each class, students should look again at the texts discussed, taking notes on key themes, cultural importance, and any comparisons made in class. Reflecting on class discussions and completing assigned pair or group tasks will help their understanding of the course materials. Students are encouraged to keep a reflective journal where they summarize the myths read, note new vocabulary, and record their thoughts about how myths connect to their own culture.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Reading Assignments and Quizzes : 30%

Critical Analyses and Written Work : 25%

Class Participation (Discussions/Group Work) : 20%

Projects and Presentations : 15%

Self-Reflection or Progress Journal : 10%

Attendance is an important part of this course, as active participation in discussions and activities is essential for developing skills and understanding the material. Students are required to attend a minimum of two-thirds of all scheduled classes. Failure to meet this attendance requirement without a valid reason may result in a failing grade for the course. Being late to class twice will be counted as one absence. In the case of absences due to health reasons, students must provide an official absence form from a recognized authority, such as a clinic or university office, to have the absence excused. Students are strongly encouraged to communicate proactively with the instructor regarding any potential attendance issues.

英語 I 中級発展 1単位 (春学期)

英語 II 中級発展 1単位 (秋学期)

RS Introduction to Psychology

講座番号：183

ヤング, ジェローム

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

The aim of this class is to help students improve their reading ability, enhance their command of English vocabulary, and to help them to communicate naturally in English. The theme of this class is psychology and the goal is to give students an introduction to the subject. Although there is no textbook in this class, students will be given extensive readings, from source material (such as Freud, Jung, Beck, among others), and will be expected to devote time to understanding these historically important texts. In addition to these readings, extensive use of documentary films will help students gain a solid understanding of both the theoretical underpinnings of and the practical side of psychotherapy. In the spring semester, students will learn about the major categories of mental illness and, in the autumn semester, will learn about influential theories of mental health and therapy.

能動的学修形式：

フィールドワーク；ディスカッション、ディベート；グループワーク；PBL (問題解決学習)

準備学修(予習・復習等)：

As preparation for each class, students will be asked to read short texts related to psychology and to prepare questions and vocabulary lists related to the readings. It should take about one hour each week to prepare for class.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, and timely completion of all homework assignments. A couple of absences will be accepted each semester yet too many absences will result in a failing grade.

テキスト(教科書)：

There is no textbook in this class. The instructor will provide source readings and worksheets for each lesson. They will all be posted on our class homepage on KLMS.

参考書：

Here are two useful websites for getting more information about psychology. Royal College of Psychiatry (www.rcpsych.ac.uk). American Psychiatric Association (www.psychiatryonline.com).

担当教員から履修者へのコメント：

The instructor's expectations are regular on-time attendance, preparation of weekly homework assignments (about one hour each week), and active participation in class (using English at all times). All class sessions will be conducted in person. Students can expect feedback on assignments, classroom activities, and questions they have, in the classroom or via KLMS or email. This course will help students improve their English reading skills, and will provide them with a firm foundation for understanding psychology.

質問・相談：

When students have questions, they can ask me before, during, or after class, or via email (jay@keio.jp) or KLMS messaging.

上 級

英語 I 上級 1単位 (春学期)

英語 II 上級 1単位 (秋学期)

RLS: Child Migration: Past and Present

講座番号：191

大鳥 由香子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

This class examines the issue of child migration, by reading Sonia Nazario's *Enrique's Journey*. This excellent nonfiction explores the issue of child migration across the U.S.-Mexico border. Students will also learn different strategies for academic reading and develop basic skills for historical and/or qualitative research.

能動的学修形式：

フィールドワーク；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

Approximately 1 hour

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Grades will be calculated as follows (this may subject to change) :

Active participation and in-class assignments : 40%

Final exam (s) : 60%

Active student participation will be required at all times. Any unexcused absence will have a substantial impact on the final grade.

テキスト(教科書)：

Nazario, Sonia (2014). *Enrique's Journey : The Story of a Boy's Dangerous Odyssey to Reunite with His Mother*. Random House. ISBN: 9780812971781

担当教員から履修者へのコメント：

This course is conducted in a face-to-face format, unless otherwise specified.

質問・相談：

Students are encouraged to ask questions about assignments and course-related matters on the day of the class.

英語 I 上級 1単位 (春学期)

英語 II 上級 1単位 (秋学期)

RWS 英語の記事を読む

講座番号：192

川瀬 純子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業ではまずは記事を英語で読み、記事を理解した上で自分の思ったことを話す、書くことを目的としています。ビデオも使いながら理解を深めることもあります。また全員英語の記事を見つけ、記事のプレゼンテーションも行います。

配布資料はkeio.jpを通して配布され、授業後にはサマリーとライティングの課題提出があります。対面・オンライン併用の授業となります。詳細なスケジュールは初回にてお知らせします。初回は教室で行います。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

リーディングの予習、ライティングを通しての復習が必要です

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

- ・平常点（出席、授業や課題への取り組み）
 - ・ライティング
 - ・(プレゼンテーション)
 - ・授業内の期末テスト
- の総合点で評価します。

テキスト(教科書)：

配布します

参考書：

授業時に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

この授業では記事を読み進めますが、ディスカッションもあるため、積極的な参加と英語での発話をできる方を歓迎します。しっかりと記事を読み、理解し、スピーキングやライティングにも活かせるようになります。履修者の人数によってプレゼンテーションの実施は決めます。初回は教室で行います。

質問・相談：

授業時、またはemailでいつでも受け付けます。

英語 I 上級 1単位 (春学期)

英語 II 上級 1単位 (秋学期)

The Benefits and Risks of Globalization: The Narrative of the Transcultural Hero (Advanced RSL)

講座番号：193

コミサロフ、アダム

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

Course Aims

Globalization is a multi-pronged process with broad impact. For instance, the movement of human resources across national boundaries has resulted in unprecedented levels of worldwide intercultural contact and the transformation of individual lives and cultural identities of those who have chosen to live abroad. Namely,

choosing a life abroad promises both great challenges and rewards for those willing to brave such change.

In this course, students will explore the benefits and risks of a transnational life by examining literature, both scholarly and popular, which features narratives of transcultural heroes or tragic figures. Students will learn theories and models related to intercultural communication and acculturation which give them a new lens through which to interpret and appreciate such literature. In the process, students will improve their reading and presentation skills. They will also be required to read various texts and lead a class discussion about one reading which they choose. The instructor will supplement presentations with relevant concepts from the fields of intercultural communication and acculturation psychology.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等) :

Students will be required each week to do follow-up exercises on the previous week's material and/or preparatory exercises for the next lesson. Such exercises include reading chapters, responding to questions about such content, answering reflection questions provided by the instructor, as well as others. Students should expect to do 1 to 1.5 hours of such work between classes each week.

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Assessment & Grades

Students' grades will be based on (1) participation in class work and attendance, (2) homework completion rates (homework is given weekly), and (3) performances on oral presentations. Each of these components will comprise roughly 1/3 of students' grades, though these values will fluctuate slightly each semester based upon the number of homework assignments given.

テキスト(教科書) :

Textbook

Komisarof, Adam. (2012). *At Home Abroad : The Contemporary Western Experience in Japan*. Reitaku University Press. ISBN : 978-4892056161.

The teacher will also provide extra reading materials at no cost to the students.

参考書 :

Reference Materials

Editors : Adam Komisarof and Zhu Hua. (2016). *Crossing Boundaries and Weaving Intercultural Work, Life, and Scholarship in Globalizing Universities*. Routledge.

J. K. Rowling. *Harry Potter and the Philosopher's Stone*.

Mircea Eliade. *Two Strange Tales*.

Yoshiko Uchida. *Desert Exile : The Uprooting of a Japanese-American Family*.

C.S. Lewis. *The Lion, the Witch, and the Wardrobe*.

担当教員から履修者へのコメント :

Message to Registrants

Students are expected to attend class regularly (no more than three absences are permitted), participate in all activities, and to complete readings before each lesson that will prepare them for group discussions. Students who can fulfill these expectations are encouraged to enroll for this course. Our first class will be face-to-face, so students should come to the classroom for this lesson. This course will be conducted in a face-to-face format. In principle, this course will take place in person every week. There will be discussions each week as well as group activities both in class and sometimes for homework. Oral presentations will also be given regularly during class. While the teacher is willing to work with students needing Reasonable Accommodations to complete the coursework satisfactorily, students considering enrolling for this course should be aware of these conditions.

質問・相談 :

Questions and Consultations

Students are encouraged to see me if they have any questions or concerns. We can talk on the day of our class, and if we need to discuss the matter further, we can easily set up an appointment. All students who register will be given my email address in class.

英語 I 上級 1単位(春学期)

英語 II 上級 1単位(秋学期)

(RS) *Introduction to Translation: Theory and Practice*

講座番号 : 194

酒井 もえ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

As we live in an increasingly global and multicultural/multilingual society, translation is now an essential part of our daily lives and communication.

In the spring semester of this course, we consider what translation is and why it matters to us through a reading of *Translation: A Very Short Introduction* by Matthew Reynolds as well as analyses of case studies, where we can discuss the translation-related issues and examples from the media and our daily lives.

The fall semester aims to further students' understanding of what translation can do, what may get "lost" in translation, and, possibly, what may be "found" in translation. By reading modern Japanese short stories in English translation from the anthology *The Penguin Book of Japanese Short Stories* (2020), students will be able to gain a deeper understanding of some of the major differences between English and Japanese, as well as of the various strategies of translation to bridge the gap between the two languages.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

Students will take turns leading the discussion of the assigned material throughout the year, but everyone should come to class having read the material and ready to discuss it. Once or twice during the spring semester, they will also be asked to bring in translation-related case studies, which they have encountered and found interesting, for discussion in class. After each session, it is advised that students review the reading as well as the discussion in class.

Time : 1 hour (approximately) per week when you are not presenting, 2-3 hours when you are

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Presentations (3-4 times / year, depending on class size) : 30%

Final papers (2 papers / year) : 40%

Attendance, participation and attitude : 30%

テキスト(教科書) :

[Spring Semester]

Reynolds, Matthew. (2016). *Translation: A Very Short Introduction*. Oxford University Press. ISBN : 978-0198712114

[Fall Semester]

Rubin, Jay, ed. (2020). *The Penguin Book of Japanese Short Stories*. Penguin Classics. ISBN : 978-0241311905

参考書 :

Hasegawa, Yoko. (2011). *The Routledge Course in Japanese Translation*. Routledge. ISBN : 978-0415486866

Wakabayashi, Judy. (2020). *Japanese-English Translation: An Advanced Guide*. Routledge. ISBN : 978-0367863333

『ペンギン・ブックスが選んだ日本の名短編29』 ジェイ・ルービン編

新潮社 2019年 ISBN : 978-4103534365
Other references to be introduced in class

担当教員から履修者へのコメント :

Both regular attendance and active participation are essential for this course : for each absence and late arrival, points will be taken off from the "Attendance, participation and attitude" section above. 10 or more unexcused absences during the academic year will be considered an abandonment of the course. Please notify the instructor in case of illness or bereavement. Three late arrivals will count for one unexcused absence.

質問・相談 :

Contact information of the instructor will be provided on the first day of class.

英語 I 上級 1単位 (春学期)

英語 II 上級 1単位 (秋学期)

Crime and Science Fictions: P. D. James (RWS)

講座番号 : 195

タイ, ワンチェン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

The course uses P. D. James's fictions to improve students' reading, writing and discussion ability in English. Students will learn to read for details, understand nuances in contexts, and consider issues from different perspectives. To achieve the goal of the course, students need to read about six to ten pages of English every week, to complete a weekly comprehension worksheet (about five questions each week), to participating in class discussion, and to contributing to small in-class group tasks occasionally. Each semester will conclude with an open-book final exam.

In spring semester, the class will read short crime fictions by P. D. James (1920-2014), who rose to fame for her detective fictions in 1960s. The chosen texts for the spring semester include *The Victim*, *The Mistletoe Murder*, and *A very Commonplace Murder*, by which students will explore the criminal cases in the stories from the perspectives of victim, murderer and witness.

In autumn semester, the class will read James's *The Children of Men* (1996), a dystopia science fiction in which human race is faced with extinction because of mass infertility. The novel will help the class to think about issues such as the future of human, low birth rate, ageing society, etc.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

Comprehension worksheets will be available on CANVAS every week. On a comprehension worksheet, there are questions about English vocabulary items and expressions together some comprehension questions regarding the plot (at most 3-4 questions each week). After completing a comprehension worksheet, students need to submit it on CANVAS. In the autumn semester, students are assigned to one question to answer each week.

Completed assignments have to be submitted by 23:55 on every Sunday.

In-class group tasks are activities that require students to answer a question in relation to the story through discussion and present their discussion results to the class. Questions for group tasks can be, for instance, "who is the murderer?", or "what are some problems that low birth-rate can trigger in a society?" .

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Participation 10%
Attendance 10%
Comprehension worksheets 30%
Group Tasks : 20%
Final Exam : 30%

テキスト(教科書) :

The PDF files of the short stories in the spring semester will be provided on CANVAS. Hardcopies will be distributed as an alternative, too.

James, P.D. *The Children of Men*. London : Faber & Faber, 1992.
ISBN 978-0-571-34221-1

(Available in Seikyo bookstore in Autumn.)

質問・相談 :

Students may contact the instructor at wanchentai@keio.jp.

英語 I 上級 1単位 (春学期)

英語 II 上級 1単位 (秋学期)

The Hiyoshi Book Festival: Walk and Talk! (RSW)

講座番号 : 196

若澤 佑典

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

【Course Overview】

This class invites first-year students to the world of storytelling. Stories are everywhere in your daily life (e.g. books, lunchtime conversations, advertisements, TV programs and social media sites.) As part of your first-year experience, this English class intends to mediate your encounter with impressive and inspiring stories through books and people on campus. In the classroom, conversation activities will help you to become a great storyteller!!

The course textbook, *Lunch with the FT*, is a collection of interviews from the Financial Times, one of the leading newspapers in the UK or even across the globe. The singular voices of its interviewees will lead you (1) to understand the power of storytelling and (2) to shape your own narrative.

【Unique Features】

(1) Hiyoshi Explorations

Students are invited to plan their own campus tour for familiarizing themselves with the cultural/natural environment of the university.

(2) Creative Workshops

Students are invited to experience different forms of expression, including photo-taking and drama performance, for connecting critical thinking with creative producing.

(3) English Learning beyond the Classroom

Students are invited to work on group activities in the library (e.g. book talks, exhibition planning and walking tours).

能動的学修形式 :

フィールドワーク；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等) :

Preparatory Reading and Writing: 1 Hour

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Weekly Assignments 30%

Class Activities 30%

Term-End Project 40%

*4 or more absences in each term are not acceptable. Students will fail (i.e. get "D") if they do so.

テキスト(教科書) :

1) Lionel Barber, ed. *Lunch with the FT : A Second Helping 50 New Interviews*. London : Penguin Books, 2023.
ISBN : 9780241400708

2) 若澤佑典『文芸共和国の歩き方：書棚を遊歩するためのキーワード集』東京：慶應義塾大学出版会、2024年
ISBN : 9784766429565

*This textbook is written in Japanese. It will help you to (i) fill in the gap between your ways of thinking in Japanese and English, and to (ii) transform your daily experience and discoveries into academic insights.

参考書 :

Please visit the University Library to find the following books when you are interested in subjects related to this English class. You "do not have to purchase" these books.

1) 稲泉連『「本をつくる」という仕事』東京：筑摩書房、2020年

ISBN : 9784480436993

2) 山口昌男『本の神話学 増補新版』東京：中公文庫、2023年

ISBN : 9784122074088

3) 多木浩二『雑学者の夢』東京：岩波書店、2004年

ISBN : 9784000269865

4) 丸谷才一『思考のレッスン』東京：文春文庫、2002年

ISBN : 9784167138165

5) クラフト・エヴィング商會『ないもの、あります』東京：ちくま文庫、2009年
ISBN : 9784480425713

6) ロダーリ『羊飼いの指輪：ファンタジーの練習帳』関口英子訳、東京：光文社古典新訳文庫、2011年
ISBN : 9784334752385

7) ヨシタケシスケ『あるかしら書店』東京：ポプラ社、2017年
ISBN : 9784591154441

8) いしいしんじ『書こうとしない「かく」教室』東京：ミシマ社、2022年
ISBN : 9784909394668

9) 吉田篤弘『物語のあるところ：月舟町ダイアローグ』東京：ちくまプリマー新書、2022年
ISBN : 9784480684271

10) 奥野武範（ほぼ日刊イトイ新聞）取材・構成・文『編集とは何か』東京：星海社新書、2022年
ISBN : 9784065274446

11) 外山滋比古『やわらかく、考える』東京：PHP文庫、2022年
ISBN : 9784569902098

担当教員から履修者へのコメント :

1) If you would like to know more about the course instructor, please visit the following website page.

<https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys_recommend_books#s-lg-box-22679235>

2) This seminar class is conducted in the "all in English" format. The course instructor understands that many students find it a big challenge to think and communicate in English. Please feel relaxed and enjoy your encounter with new friends and academic subjects. The past courses show that students can achieve more than what they expected at the beginning. There is no preliminary requirement for attending the course. Just keep your intellectual curiosity and come to the classroom!

*オール・イン・イングリッシュの授業形式を活かして、英語で「やわらかくものを考える」レッスンを行います。読んだり話したりするアクティビティの中に、キャンパスを歩いたり、インタビュー企画を立ち上げたり、図書館で本の表紙を触ったり、有名人に扮して劇をやってみたりと、「頭のてっぺんからつま先まで」全身を使って思考し、ことばと戯れ、自分なりの表現スタイルを見つけるクラスになります。すでに海外経験や英語を用いた十分な授業経験がある方（例えば、帰国生やIB教育校出身者）から、英文解説は得意だが高校での英語スピーキング経験があまりない方まで、さまざまなバックグラウンドの参加者を歓迎します。海外留学に行きたい方、興味がある方がいれば、

イギリス・アメリカ留学についても授業内で話題にします。時には軽快に動き回って英語を学び、時にはじっくりと沈黙を味わい、「創造的な混沌」を金曜夕方に生み出していきましょう！！みなさんの「英語授業とはこういうものだ」とか「英語がしゃべれるとはこういうものだ」という、既成概念を変えていく機会にもなると思います。

質問・相談 :

【Office Hours】 Fridays 15 : 00-16 : 00

Please book an appointment via email (yusuke.wakazawa@keio.jp).

*授業はすべて英語で行いますが、授業時間外の個別面談やグループでの振り返り活動は、日本語・英語のどちらで行っても構いません。授業ではうまく言葉にできなかったことへの再チャレンジ、「ここはもっと掘り下げたいぞ」というテーマについてのお喋り、英語圏留学についてのプランニング、必修英語と他の授業科目のつながりを考えること、日吉での学びと三田での専攻生活の橋渡しなど、英語授業に関わる限りにおいて、アカデミックなことから、日々の大学生活のあれこれまで、幅広く面談時間に応対します。

最上級**英語 I 最上級 1 単位 (春学期)****英語 II 最上級 1 単位 (秋学期)**

Evolution: Reading Evolution in Literary Works and Others (RWS)

講座番号 : 201

タイ, ワンチェン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

This course seeks to develop students' ability to do close reading and interpretation of words through reading fictive texts (essays, novels and short stories) and, if time allows, non-fictive writings (such as speeches, graphic narratives, picture books, etc.). It aims to explore what words say on the paper (comprehension), how they say it (style), and what they mean to readers (context).

The theme of the course this year is evolution, which, in a largely defined sense, refers to the notion of evolution in a range of aspects including science, sociology, technology, culture, etc. On a smaller scale, it also refers to the process of education and socialization that a person goes through to become a member of a society. Human race evolves in response to social and political changes, scientific advancement, technological and cultural development, and in turn human initiates these progresses at the same time. With an aim to explore more the interaction between humanity and the world of technology, this course wants to consider the following questions. How do humans react to the fact of evolution? How do humans interact with technological evolution? Is evolution a need, an option, or a wish? Is evolution natural or artificial? Is there a clear-cut difference between evolution and devolution?

The collection of reading material for spring semester includes a biblical text, an essay, two short stories (*Dinosaur* by Italo Calvino and *According to Alice* by Sheila Heti) and one drama (*R. U. R.* by Karel Čapek).

In autumn semester, we will read Mary Shelley's *Frankenstein*, the first science fiction in the history of English literature. Published in the early nineteenth century, the story of *Frankenstein* still addresses many of the human ambition and worries in the face of technology development now.

能動的学修形式 :

プレゼンテーション：ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等) :

To facilitate class discussion and to achieve the goal of the course, students are expected to commit themselves to weekly reading, writing and discussion. The weekly reading load is roughly about 8-10 pages of English texts. Depending on the difficulty level of

English in each individual text, the reading load can be more or less occasionally.

Every week, students have to write a 150-word paragraph to answer a question on a comprehension worksheet distributed through CANVAS. With the assignment, students practice writing academic paragraphs and organizing ideas.

Every student needs to make an oral presentation each term. For the oral presentation, one is required to give a presentation on one of the reading materials.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Critical Response 40%

Presentation 30%

Participation : 20%

Attendance : 10%

テキスト(教科書)：

Some texts for the spring semester are available on CANVAS.

A PDF file of the 1831 edition of Frankenstein is available on the Internet.

Čapek, Karel. R.U.R. (Rossum's Universal Robots). Claudia Novack, trans. London : Penguin, 2004. ISBN 978-0-14-118208-7

Shelley, Mary. Frankenstein, Or the Modern Prometheus. Maruice Hindle, ed. Revised Edition. Penguin, 2003. ISBN 978-0-141-43947-1 (Available for purchase in the campus bookstore, 生協, in autumn.)

担当教員から履修者へのコメント：

You may contact the instructor, Wanchen Tai at the following email address, wanchentai@keio.jp.

wrong, and to what we value and believe to be true. One photographic theme or fieldwork assignment will be covered each week and classroom discussions will revolve around students' weekly contributions. Active and enthusiastic participation and regular attendance in this class are essential, and are guaranteed to help students become better speakers of English.

能動的学修形式：

フィールドワーク；プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

As preparation for each class, students will be asked to do fieldwork (using their cell phone cameras) or to do research related to a photographic theme and prepare powerpoint presentations about their work each week. It should take about an hour to prepare each week's assignment.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, and timely completion of all homework assignments, including fieldwork assignments. A couple of absences will be accepted each semester yet too many absences will result in a failing grade.

テキスト(教科書)：

There is no textbook in this class. While the instructor will provide weekly photographic themes or fieldwork assignments for each lesson, students will be expected to bring in their own research material (photographs) each week. The class assignments will all be posted on our class homepage on KLMS. Fieldwork activities with the camera will also be assigned regularly and students can complete them using their cell phone camera.

参考書：

n/a

担当教員から履修者へのコメント：

The instructor's expectations are regular on-time attendance, preparation of weekly homework assignments (about one hour each week), and active participation in class (using English at all times). All class sessions will be conducted in person. Students can expect feedback on assignments, classroom activities, and questions they have, in the classroom or via KLMS or email. The main goal of this course is to help students improve their English speaking ability and, with their individual commitment, they can fully expect to be better English speakers by the end of the course (and to learn a lot about photography, too).

質問・相談：

When students have questions, they can ask me before, during, or after class, and via email (jay@keio.jp) or KLMS message.

必修としない英語 (希望者のみ総合教育科目(系列外)として履修)

「英語インテンシブⅠA／英語インテンシブⅡA, 英語インテンシブⅠB／英語インテンシブⅡB」(各1単位)

必修の英語だけではなく、英語をさらに学びたい人のための科目です。コミュニケーション能力の向上に特化したクラスもあります。ぜひ活用してください。

【セット科目】は、春・秋学期を通じて履修してください。なお、初回でクラスのサイズ調整のために受講生の選考が行われる場合があります。

英語インテンシブⅠA 1単位(春学期)

英語インテンシブⅡA 1単位(秋学期)

Photography Studies

ヤング, ジェローム

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

The aim of this class is to help students improve their ability to communicate naturally in English. As this is an intensive English class, students can expect to have ample opportunities to speak in English in class each week. The theme of this class is, broadly speaking, photography and the goal is to examine the subject comprehensively. Students will learn about the history of photography and will research about its aesthetic, moral, and psychological influence on modern society. All modern societies have to be understood in terms of communication between reality and the image, and the most successful system of images in history is provided by the camera. Classroom discussions and homework assignments (including photographic fieldwork) will focus on helping students develop a deeper understanding about the relation of photography to the modern world, to our sense of right and

英語インテンシブⅠA 1単位(春学期)

英語インテンシブⅡA 1単位(秋学期)

Communicating Across Cultures: Japan and the World

コミサロフ, アダム

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

Course Aims :

Students will improve their skills and confidence in speaking, listening, and presentation skills that are necessary in today's global world. They will improve their ability to navigate communication in a variety of contexts, including work, daily survival while studying or travelling abroad, and other types of intercultural contact. They will also build a foundation for understanding and applying basic principles in the field of intercultural communication to improve their communicative competence, especially with foreign people.

Students will have opportunities to develop their communication skills by participating in a variety of interactive activities with the instructor and each other. All students will be expected to attend regularly, complete homework, and participate in all classroom tasks—especially speeches in front of the class, as well as role plays, pair work, and group discussions with classmates.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

About 1 hour per week by doing exercises in textbook, reflecting on the previous lesson, or preparing for the coming lesson.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Assessment & Grades

Students' grades will be based on (1) participation in class work and attendance, (2) homework completion rates (homework is given weekly), and (3) performances on tests and oral presentations.

テキスト(教科書)：

Textbook :

八代京子. (2001).『異文化コミュニケーションワークブック』.三修社.
ISBN : 978-4384018516.

The teacher will also provide extra printed materials at no cost to the students.

参考書：

None

担当教員から履修者へのコメント：

Message to Registrants

Students are expected to attend class regularly (no more than three absences are permitted), participate in all activities, and to complete all of their homework before each lesson. Students who can fulfill these expectations are encouraged to enroll for this course. Our first class will be face-to-face, so students should come to the classroom for this lesson. In principle, this course will be conducted in a face-to-face format, though if conditions around the pandemic worsen, some classes may be held online.

質問・相談：

Questions and Consultations

Students are encouraged to see me if they have any questions or concerns. We can talk on the day of our class, and if we need to discuss the matter further, we can easily set up an appointment. All students who register will be given my email address in class.

英語インテンシブⅠB 1単位（春学期）

英語インテンシブⅡB 1単位（秋学期）

Leadership and Soft Skills for the 21st Century

ノブオカ, メアリー

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

Business leaders have expressed dissatisfaction with the lack of soft skills among university graduates. In this course, students will build a foundation for 21st-century leadership and soft skills: goal setting, time management, problem solving and decision-making, communication skills, thinking skills, and more. These skills will help students with their short-term academic goals as well as long-term life and career goals in a competitive job market and an economy that is becoming more dependent on automation. Student will also improve their public speaking and critical thinking skills. This class is conducted in a cooperative-learning style, in which students discuss key concepts in small groups. There will be occasional lectures with note taking. To prepare for each class, do the reading and listening materials posted on Canvas and take the quizzes focusing on the ideas and key vocabulary to be introduced in each week's class.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

Preparation and homework assignments are posted on K-LMS Canvas to prepare for class discussions. Assignments and quizzes will be posted on K-LMS Canvas.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Students will be evaluated on the following criteria : in-class participation & group contributions (40%), weekly quizzes (10%), writing assignments (self-intro, a journal, paragraph practice, speech writing and a 5-paragraph essay) (20%) ; and presentations (30%).

Attendance is very important in this course. Three unexcused absences will result in a drop of one letter grade. Four unexcused absences will result in a failing grade.

テキスト(教科書)：

There is no textbook for this class. The teacher will provide all study materials on Canvas.

担当教員から履修者へのコメント：

This class will meet in person. Students who are eager to participate in English will succeed in this course. Students are expected to bring study supplies : a writing instrument, note paper/notebook, a journal (separate from note-taking), a dictionary and vocabulary cards. Class engagement is very important. Note : Homework to prepare for class discussions will consist of reading and listening, totaling about 1 to 1-1/2 hours/week.

Presentations

Students will prepare 2 presentations using the skills they learned in this course. The spring-term presentation will be an in-depth and researched look at the student's role model. The fall-term presentation will be based on the student's research of a topic or skill from this syllabus or a topic related to leadership/soft skills.

英語インテンシブⅠB 1単位（春学期）

英語インテンシブⅡB 1単位（秋学期）

Speaking and Thinking through Philosophy

ノブオカ, メアリー

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

This course offers students opportunities to practice expressing their opinions using logical reasoning and to improve their critical-thinking skills through discussions on contemporary issues and the "big questions" in life. Students will also learn some of the latest research in psychology and neuroscience—how the brain works. Students are not expected to have any background knowledge in philosophy. The spring term will look at philosophical traditions and focus on human nature & the human condition ; the universe and reality ; and ethics and morality. The autumn term will focus on the human mind, consciousness, and intelligence ; society and government ; and science and technology.

This class uses a cooperative learning approach, which gives students maximum speaking and listening practice in small group discussions. Each week, students will receive listening and/or reading materials to prepare for class discussions. Writing skills include paragraph structure (spring) and a final researched essay (autumn). Students will also learn effective public speaking skills through individual presentations (spring) and Oxford-style debates (autumn). Student are expected to keep a journal in English throughout the course.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

Preparation and homework assignments are posted on K-LMS Canvas to prepare for class discussions. All assignments and quizzes will be posted on K-LMS Canvas.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Contributions to class discussion : 40% ; writing assignments : 20% ; presentations 20% ; quizzes : 10% ; homework : 10%.

Attendance is very important in this course. Three unexcused absences will result in a drop of one letter grade. Four unexcused absences will result in a failing grade.

テキスト(教科書)：

There is no textbook for this class. The teacher will provide all study materials via Canvas.

参考書：

The Stanford Encyclopedia of Philosophy

<https://plato.stanford.edu>

Philosophy Crash Course : <https://www.youtube.com/watch?v=BNYJQaZUDrI&list=PL8dPuuaLjXtNgK6MZucdYldNkMybYIHKR>

担当教員から履修者へのコメント：

Homework : Each week, students will receive listening and/or reading materials to prepare for class discussions via Canvas. Students should spend 10 minutes each day free writing in their journals. In addition, students will work on several formal writing assignments and speeches. Written feedback will be given for all assignments.

This class will meet in person. I will be available for questions and consultation before, during or after class times or by appointment arranged by email. Please check Canvas for this course to get instructions and assignments.

Materials needed : A notebook for journal writing, a dictionary, vocabulary cards

ドイツ語

文学部でドイツ語を履修する学生は、週3回（うち、1回はドイツ人）の授業を受けることになります。文法、訳読、作文、会話を通じて、発音から接続法までドイツ語の基礎はひととおり終了することになります。ひととおりとはいっても、ここで得た知識を活用することに慣れれば、2年次以降、小説を読むにしても、独作文をするにしてもそれほど苦労はしないはずです。すでに高等学校その他でドイツ語を勉強してきた学生のためには、中級、上級のクラスが設置されています。最近よく「使える外国語」という言葉を耳にいたします。なにをもって「使える」というのか議論の分かれるところですが、従来行われてきた訳読中心の授業に対する批判がこめられていると考えてよいでしょう。つまり発信型の外国語が求められているのです。そうした要望に答えるため、文学部では、必修科目としてのドイツ人の授業の他、誰でもが自由に履修できるドイツ語会話の授業が2コマ設置されています。しかし発信のためだけの外国語であっても困るのです。大学での外国語は、まず文学や哲学、あるいは歴史を研究する際の手段であることが求められています。私たちとしてはドイツ語に限らず、外国語を通じて皆さんに豊かな教養を積んでいただきたいと思うのです。「教養」を口にするのは相當に照れくさい。ファンボルトやゲーテの名前をもち出して人格形成を訴えることに恥じらいを覚えます。しかし、それなくして何のための大学かと思います。ドイツではすでに19世紀半ば、ブンゼンやラウマー等が高等学校での詰め込み式授業の弊害を訴えておりました。ゲーテもまたエッカーマンとの対話のなかで、早期の高度な専門教育が若者から人間形成のエネルギーを奪っている点を指摘しています。受験競争のため、皆さんにはこれまで小説など受験科目以外の読書に費やす時間の余裕はなかったことでしょう。それをいま、感受性の強い学生時代に果たしていただきたいと思うのです。「教養」という言葉も曖昧な使われ方をしていますが、ひとつ言えることは、物知りであることよりも正しい判断の下せることが大切でしょう。これに文学や哲学の知識をベースとして美術や音楽の鑑賞力が加われば申し分ありません。そのためには、日本語に頼るだけでは足りません。外国語による幅広い教養が求められていると思うのです。私たち教員サイドも様々な創意工夫を重ねる必要があります。同時に、皆さんの積極的な授業への参加が期待されます。

参考書：平尾・中島他著『初心者のためのトレーニング・ドイツ語』（白水社）

和山謙三郎著『独検4級・3級ドイツ語入門』（朝日出版）

独和辞典：アポロン独和（同学社）、クラウン独和（三省堂）

新アルファ独和（三修社）、マイスター独和（大修館）

ドイツ語I／ドイツ語II

ドイツ語I 1単位（春学期）

ドイツ語II 1単位（秋学期）

ドイツ語の基礎を学ぶ

佐藤 恵
AINST, VIERLANDT
大淵 知直
奥山 美穂
片山 由有子
川島 建太郎
糸川 麻里生
シュミット, ウテ
滝藤 早苗
津崎 正行
西尾 宇広
平田 栄一朗
ファイファー, マティアス
ブッヘンベルゲル, ステファン
ベッカー, アンドレアス

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業で、春学期、秋学期とも日本人教員による授業週2回と、ドイツ語を母語とする教員の授業週1回の計3回から構成されています。

日本人による週2回の授業は、2名の教員が共通の教科書を使って

リレー方式で進めます。一年間を通じて基本的な文法事項を学びながら、おもに読解と作文の基礎を身につけてもらうことを目標とします。

ネイティブ・スピーカーによる週1回の授業では、具体的な発話状況を想定しながら、主としてスピーキングとリスニングの力を養成します。

本コースの目標は、週3回の授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することです。

能動的学修形式：

グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

ほとんどの人にとって初修の外国語ですから、最初の段階で覚える項目が多くあります。そのため、しっかりと準備をして授業に臨むことが必要になります。授業の準備には平均して毎回1時間程度を見込む必要がありますが、ベースをつかむとだんだん予習も楽になっていきます。また、知識の定着を図るために復習も重要です。復習も同様に1時間程度を見込んでください。復習では、授業内の課題や指示を中心に行ってください。予習、復習を継続して行うことで、一年間でおおよそ基礎的なドイツ語を読み、書き、聞き、話すレベルを習得することができます。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

学期毎に数回行われる授業内試験および小テストを中心に評価しますが、出席状況や授業内の課題への取り組みや宿題も適宜評価の材料とします。

テキスト(教科書)：

それぞれの教員によって異なるので、学期当初に教科書販売所で確認してください。

参考書：

授業内で適宜紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

初回授業は対面で行います。また、授業はコロナウィルスの感染拡大等がない限り原則としてすべて対面で行います。

外国語の学習に近道はありません。毎回の授業に必ず出席し、新しい知識を着実に身につけることが何より大切です。
ドイツ語は英語に比べると初級段階で覚えるべき文法規則が多いのですが、それらの諸規則は非常に整合的に構築されています。したがって、ひとつひとつ項目をきちんと理解し学習するよう努めれば、非常に明快に理解できるようになりますが、ちょっとと気を抜いて分からぬ箇所をそのままにしておくとあっという間に五里霧中の状態に陥ってしまいます。そうならぬよう、「継続は力なり」を肝に銘じてください。

質問・相談 :

授業の前後などに適宜受け付けます。K-LMSのメッセージ機能や授業内掲示板を使っての質疑応答にも可能なかぎり対応します。

ドイツ語Ⅰ中級／ドイツ語Ⅱ中級

ドイツ語Ⅰ中級 1単位（春学期）

ドイツ語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

Aktiv Deutsch lernen

クリーク、ブリギッテ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

Hier koennen Sie Ihre Deutsch-Kenntnisse anwenden und weiter vertiefen. Sie haben viele Moeglichkeiten, Deutsch zu ueben. Aktive Mitarbeit ist notwendig.

Unterrichtssprache ist einfaches Deutsch und Japanisch. Wir benutzen das deutsche Lehrbuch "Menschen A1.2".

1-2 Unterrichte sind voraussichtlich online.

能動的学修形式 :

該当なし

準備学修(予習・復習等) :

特になし

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

Mitarbeit, Pruefungen, Hausaufgabe

テキスト(教科書) :

S.Evans, A.Pude,F.Specht. (2012).Menschen Kursbuch A1,2 Hueber ISBN 978-3-19-501901-9

参考書 :

中島、平尾、朝倉 (1985) 必携ドイツ文法総まとめ、白水社、ISBN4-560-00433-1

担当教員から履修者へのコメント :

Aktive Mitarbeit und regelmaessiges Lernen ist notwendig.
Der erste Unterricht ist im Klassenzimmer.

ドイツ語Ⅰ中級 1単位（春学期）

ドイツ語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

ドイツ語総合トレーニング 読解力を中心として

山田 史子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

ドイツ語圏についての様々なテーマのテキストを読みながら、初級ドイツ語文法を復習と中級文法の学習をします。各課ふたつのテキストを自らの文法力を使って読むことで読解力を鍛えます。さらに、クイズ、ゲーム、口頭発表などを通して自らドイツ語で発信する力も養います。

能動的学修形式 :

プレゼンテーション：グループワーク

準備学修(予習・復習等) :

授業前に指示されたテキストの予習や文法問題の練習をしてください。

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

春学期・秋学期ともに、各学期2回の試験（約60%）、授業内での積極的参加、課題提出及び達成度（約40%）を総合的に評価します。なお、出席と授業内の積極的参加をこの授業の評価の前提とします。正当な理由なく3割を超える欠席がある場合や、授業に来ていても、練習や課題に参加しない場合には、評価の前提を満たさないものとします。

テキスト(教科書) :

ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8章プラス・エクストラ（ドイツ語タイトル : kennzeichen.de Faust und Mephisto）

和泉雅人・三ツ石祐子・Ute Schmidt・Mechthild Duppel-Takayama著
三修社

ISBN978-4-384-13103-1 C1084

担当教員から履修者へのコメント :

学習者の理解と希望により進める速度を調整する予定です。必要であれば、補足練習をします。テキストを読んで文法的、内容的に理解するだけでなく、テキスト音声を聞き、また自ら音読して、発音にも慣れましょう。授業内でも音読は行いますが、予習の際にも音読ができるだけしてください。

質問・相談 :

授業の前後、またはK-LMSのメッセージ機能でも受け付けます。

ドイツ語Ⅰ中級 1単位（春学期）

ドイツ語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

ドイツ語読解力＆聴解力トレーニング

津崎 正行

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

この授業では、ドイツの文化、歴史、社会などについての文章を読みながら、ドイツ語の文章を正確に読むために必要な文法事項を学びます。初級までに学んだことを復習しながら、初級ではかならずしも学ばなかった文法事項も習得することを目指します。また、授業中に取り上げた文章と関連する映画をいくつか紹介し、日本語の字幕がなくても、おおよその内容を聞き取り、理解することができるよう練習します。

能動的学修形式 :

反転授業

準備学修(予習・復習等) :

授業はそのつど、参加者がどこまで理解できているかを確認しながら進めてゆきますので、事前に指定された範囲の予習をしておいてください。毎回、およそ45分から60分の準備学修が必要とされます。

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

各学期の最終回に行う期末試験（50%）と平常点（50%）によって、総合的に評価します。なお、平常点とは、いわゆる「出席点」を意味するものではなく、毎回の授業での発言および課題に対して与えられた点数を合計したものといいます。したがって、十分に予習をしたうえで出席することが、単位を取得するためのもっとも確実な手段となります。

テキスト(教科書) :

『CD付き ドイツ人の生活を知る11章』 大谷弘道、三修社、2014年 (ISBN : 978-4-384-13094-2 C1084)

参考書 :

必要に応じて、授業中に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント :

履修者の人数や希望、およびこれまでの学習状況などに応じて、授業の内容と進度をある程度変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

質問・相談 :

授業中に解決できなかった疑問点については、授業の前後でも、メールでもかまいませんので、ご都合のよい方法で質問してください。

ドイツ語 I 上級／ドイツ語 II 上級

ドイツ語 I 上級 1 単位 (春学期)

ドイツ語 II 上級 1 単位 (秋学期)

Eine kleine Deutschlandreise

アイヌ、ヴィーラント

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

In diesem Kurs sprechen wir über unterschiedliche Themenbereiche, die aus der Perspektive von Deutschlernenden im Ausland von Interesse sein könnten. Wir benutzen unterschiedlichste Materialien (Audio, Video, Text, Internet), die Grundlage für die Unterrichtsgespräche sein sollen. In den Unterrichtsgesprächen zu Themen unterschiedlicher Komplexität soll der Wortschatz, der Ausdruck und Ihr Wissen über deutschsprachige Länder erweitert werden. Wo es geht, werden wir authentische Gespräche in Alltagssituationen simulieren. Ob Grammatik und/oder Aussprache begleitende Inhalte sein werden, hängt vom Sprachstand der Teilnehmenden ab.

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート

準備学修(予習・復習等)：

In jedem Fall wird erwartet, dass Teilnehmende vorbereitet zum Unterricht erscheinen, selbst wenn es keine expliziten Hausaufgaben gibt (Wiederholung der Inhalte der letzten Stunde oder Vorbereitung auf die Inhalte des nächsten Unterrichts). Bitte rechnen Sie mit etwa 30 Minuten Vor- oder Nachbereitungszeit für jeden Unterricht.

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

Es ist zu erwarten, dass die Teilnehmenden unterschiedliche Voraussetzungen mitbringen. Im Grundsatz wird daher nicht der Leistungsstand am Ende der Semester bewertet, sondern die Mitarbeit und der Fortschritt im Kurs. Zur Mitarbeit gehört auch die regelmäßige Teilnahme sowie Vorbereitung auf den Unterricht. Am Ende beider Semester wird es Aufgaben (Diskussionen oder Präsentationen) geben, die bewertet werden.

テキスト(教科書)：

Sie erhalten die Lernmaterialien im Kurs (kein Lehrbuch)

参考書：

Bei Bedarf stelle ich den Teilnehmenden weitergehende Materialien im Lauf des Kurses vor.

担当教員から履修者へのコメント：

Dieser Seminarplan ist vorläufig. Er basiert auf der Annahme, dass das wichtigste Ziel der Teilnehmenden die Verbesserung des mündlichen Ausdrucks ist. Wenn andere Ziele im Vordergrund stehen oder einige der Themen zu schwierig oder zu einfach sind, werden wir den Seminarplan anpassen. Wir besprechen das in der ersten Sitzung.

Gelegentlich werde ich Ihnen Arbeitsblätter geben, die auf Probleme eingehen, die wir im Unterricht finden. Normalerweise werde ich Sie bitten, mir die Lösung per Email zu schicken, damit ich Ihnen auch schriftliches Feedback geben kann.

In beiden Semestern wird es zudem Präsentationen oder Gruppengespräche geben, die bewertet werden und mehr Zeit zur Vorbereitung brauchen. Bitte geben Sie sich hier viel Mühe; sie werden Ihnen helfen, Ihre Präsentations- und Diskussionsfähigkeiten zu verbessern. Beides wird Ihnen helfen, andere Kurse mit Erfolg zu bestehen.

質問・相談：

Fragen oder Kommentare sind jederzeit per Email oder nach dem Kurs willkommen. Die Emailadresse erhalten die Teilnehmenden in

der ersten Sitzung.

ドイツ語 I 上級 1 単位 (春学期)

ドイツ語 II 上級 1 単位 (秋学期)

ドイツ映画を「読む」

津崎 正行

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業では、ドイツ映画をいくつか取り上げ、その作品と関連する様々な種類のテキスト（作品に対する評論や解説、監督や俳優に対するインタビュー、作品中で言及された著作、原作や脚本など）を精読します。それによって、ドイツ語の文章を正確に読む力を養うとともに、ドイツ語で話したり書いたりする際に必要となる表現や語彙も身につけることを目指します。

能動的学修形式：

反転授業

準備学修(予習・復習等)：

授業はそのつど、参加者がどこまで理解できているかを確認しながら進めてゆきますので、事前に指定された範囲の予習をしておいてください。毎回、およそ45分から60分の準備学修が必要とされます。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

各学期の最終回に行う期末試験 (50%) と平常点 (50%) によって、総合的に評価します。なお、平常点とは、いわゆる「出席点」を意味するものではなく、毎回の授業での発言および課題に対して与えられた点数を合計したものをいいます。したがって、十分に予習をしたうえで出席することが、単位を取得するためのもっとも確実な手段となります。

テキスト(教科書)：

プリントを配布します。

参考書：

必要に応じて、授業中に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業の計画については、受講者の希望や関心、これまでの学習状況なども考慮して、変更する可能性があります。上記の作品のすべてを取り上げることにこだわる必要はありませんし、場合によっては、それ以外の作品を選んでもかまいません。希望や提案があれば、いつでも歓迎します。

質問・相談：

授業中に解決できなかった疑問点については、授業の前後でも、メールでもかまいませんので、ご都合のよい方法で質問してください。

ドイツ語 I 上級 1 単位 (春学期)

ドイツ語 II 上級 1 単位 (秋学期)

Deutsch für Fortgeschrittene

ブッヘンベルゲル, ステファン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

ドイツ語の実践的な運用能力、異文化コミュニケーション能力、国際社会に通用する専門的知識と幅広い教養、協調的な態度を総合的に修得することができること。ドイツ語の基本的な表現を復習しながら、会話表現をさらに深めることを学習目的とする。ドイツ文化の知識を育てて異文化の意識を深める。昨年勉強したドイツ語から、語彙力を拡大する練習を行いつつ、ビデオ教材なども取り入れながら、自由会話を中心にドイツ語の勉強を進める。目的：自分のことについて会話できる。

概ね欧州言語共通枠組A2の水準を目安とし、ドイツ語技能検定試験3級やStart Deutsch 2等の受験のための指導を併せ行う。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

予習復習時間【合計 2 時間】

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

春学期：確認のテストと試験を行う。割合は、試験50%、平常点（レポート、連携）50%程度とする。講義を4回以上欠席した者は評価の対象としない。

秋学期：プレゼンテーションを行う。割合は、プレゼンテーション70%、平常点（レポート、連携）30%程度とする。講義を4回以上欠席した者は評価の対象としない。

担当教員から履修者へのコメント：

クラスの正確なレベルが決定された後、スケジュールはそれに応じて適応される。Zu Beginn des Unterrichts werden die Deutschkenntnisse der Teilnehmenden festgestellt und der Unterricht bei Bedarf entsprechend angepasst。

ドイツ語会話初級Ⅰ 1単位（春学期）

ドイツ語初級会話Ⅰ

AINSTADT, VIENNA

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

ドイツ語初心者のためのコースです。簡単な日常の状況で会話ができる簡単なドイツ語の文型、語彙について紹介します。教材は短いビデオを使用します。こちらは「Deutsche Welle」から無料提供されているオンライン語学コースでドイツ国営放送局による教材です。私から毎回のエピソードに関する資料を配ります。この資料を使い、授業ではエピソードで紹介された文型、語彙、知識を用いながら、他の状況にも使える練習をします。ドイツ語を学び始めるとお気づきになると思いますが、英語とよく似ています。毎回の授業で、正しい発音と聞き取りも身につけますが、主な目標は自然なスタイルで色々な状況に応じた話し方を勉強します。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

いずれの場合も確実に語彙や表現を理解し、慣れるために、指定された「Nicos Weg」のエピソードを授業の前に見ておいてください。

前回の授業で配られた資料の文型、語彙を授業の前に復習しておくことが必要な場合もあります。

課題がない場合、授業前の準備は20分程度で十分です。（指定されたエピソードを見て、単語、表現をチェックするなど）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

規則的な出席、授業中の積極的な参加、宿題。学期末の口頭試験（短いプレゼンテーションか会話）

テキスト(教科書)：

教科書は使用しません。

教科書の代わりに「Deutsche Welle」から無料提供されているオンライン語学コースを使用します。

授業の前にこちらからそれぞれのエピソードに沿った資料を送ります。授業でも語彙や文法を練習するための練習問題や資料を配布します。

こちらではニコというスペイン人の若い学生がドイツに来て、生活を始めていくという話です。

参考書：

授業には念のため辞書と初級文法の本をご用意ください。他のクラスでもドイツ語を履修されている場合はそちらで使用している本を参考にしてください。もし他にドイツ語を履修されていない場合は初回の授業で私にご相談ください。

担当教員から履修者へのコメント：

前年度のこちらのコースの受講者は既にドイツ語の知識のある方が他にもドイツ語のクラスを受講している方が少人数で会話を練習の場として参加していました。しかし、全く知識のない方でももちろん受講可能です。従って、文法の練習をする時間が組み込まれることも想定されます。いずれにしても文法中心ではなく会話練習が中心となります。

す

定期的に配られる各エピソードについての資料は授業で会話を練習するためのものです。

授業内で皆さんのが難しいと思った点や問題点を課題として出すこともあります：これらはメールや授業内で添削し、お返します。

質問・相談：

質問はメールでも授業後でもお気軽にどうぞ。メールアドレスは授業内でお知らせします。

ドイツ語会話初級Ⅱ 1単位（秋学期）

ドイツ語初級会話II

AINSTADT, VIENNA

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業は既にドイツ語の基礎について勉強した方のコースで、春学期のドイツ語会話初級Ⅰに続くコースです。基本的なドイツ語の文型で会話をすることを目標とします。簡単な文型、語彙を用い、会話をよりスムーズに進めることを目標としています。発音、聴解にも重点を置いています。

教材は短いビデオを使用します。こちらは「Deutsche Welle」から無料提供されているオンライン語学コースでドイツ国営放送局による教材です。私から毎回のエピソードに関する資料を配ります。この資料を使い、授業ではエピソードで紹介された文型、語彙、知識を用いながら、他の状況にも使える練習をします。

能動的学修形式：

グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

いずれの場合も確実に語彙や表現を理解し、慣れるために、指定された「Nicos Weg」のエピソードを授業の前に見ておいてください。

前回の授業で配られた資料の文型、語彙を授業の前に復習しておくことが必要な場合もあります。

課題がない場合、授業前の準備は20分程度で十分です。（指定されたエピソードを見て、単語、表現をチェックするなど）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

規則的な出席、授業中の積極的な参加、宿題。学期末の口頭試験（グループで話し合い）

テキスト(教科書)：

教科書は使用しません。

教科書の代わりに「Deutsche Welle」から無料提供されているオンライン語学コースを使用します。

授業の前にこちらからそれぞれのエピソードに沿った資料を送ります。授業でも語彙や文法を練習するための練習問題や資料を配布します。

参考書：

授業には念のため辞書と初級文法の本をご用意ください。他のクラスでもドイツ語を履修されている場合はそちらで使用している本を参考してください。もし他にドイツ語を履修されていない場合は初回の授業で私にご相談ください。

担当教員から履修者へのコメント：

前年度のこちらのコースの受講者は既にドイツ語の知識のある方が他にもドイツ語のクラスを受講している方が少人数で会話を練習の場として参加していました。しかし、全く知識のない方でももちろん受講可能です。しかし春学期の続きのコースなので、全くの初心者には向いていません。

文法の練習をする時間が組み込まれることも想定されます。いずれにしても文法中心ではなく会話練習が中心となります。

授業内で皆さんのが難しいと思った点や問題点を課題として出すこともあります：これらはメールや授業内で添削し、お返します。

質問・相談：

質問はメールでも授業後でもお気軽にどうぞ。メールアドレスは授業内でお知らせします。

フランス語

なぜ英語以外の外国語を学ぶのか

観光旅行からビジネスや学術交流まで、英語が世界の共通語になっているのは紛れもない事実です。それゆえ外国語は英語だけで十分である、と思われるかもしれません。

それでも大学であえて英語以外の外国語を学ぶ、ということにどのような意義があるのでしょうか。少なくとも3つの理由をあげることができます。

まず、実用的な理由があります。「英語は世界の共通語」という言い方は厳密には正しくありません。世界には英語が通じない国と地域がたくさんあります。概ね英語が通じる国や地域であっても、英語を話さない人も存在します。そのような土地に何らかの理由で赴くことになった場合、意思疎通のために現地の言葉、たとえばフランス語の運用が必要になるのは当然のことです。

次に教育的理由があげられます。一つの言語を学ぶことは、一つの世界観、価値観、世界認識の方法、文化を学ぶことです。日本の価値観や文化が世界で唯一のものではありません。英語による世界認識が普遍的なものでもありません。文学部の教育理念の根幹には、価値観や文化の多様性を尊重するという考え方があります。それを実践する最も重要な手段が外国語なのです。

第三に学問的理由があります。文学部では2年次以降、特定の専攻に所属して専門科目を履修します。その際に、世界各国の多種多様な文献資料に直接的に触れるためには当該言語の習得が必須となります。日本語や英語に翻訳されているものもあるかもしれません、翻訳を通じた理解に限界があることは言うまでもありません。

なぜフランス語を学ぶのか

「コミュニケーション」の観点から言うと、フランス語は世界における主要な言語の一つです。フランスという国を離れても、フランス語を公的な言語とする国や地域すなわち「フランス語圏」は世界的な広がりを示しています。また、フランス語を公用語とする国際機関は国際連合を筆頭に、万国郵便連合、世界貿易機関、国際労働機関、国際司法裁判所、赤十字国際委員会、国際オリンピック委員会、国際サッカー連盟など、多数あります。

学問的な面では、フランス語で書き残された文化遺産は膨大で、特に文学や哲学、歴史学、美術史などのいわゆる人文科学の分野での蓄積には圧倒されます。フランス語を習得し、そのような果てしなく魅力的な世界をぜひ冒險してみてください。

文学部のフランス語の特徴

文学部1年次のフランス語の授業は、「話す」「聞く」「読む」「書く」という4つの能力を総合的に高めるように構想されています。「聞く」ことについては、身近な領域（自分や家族、大学生活、買い物、娯楽、趣味、旅行など）でよく用いられる文や表現を理解できることを目指します。「話すこと」と「書くこと」では、そのような領域の事柄を簡単な表現で説明できるようになります。そして「読む」ことの目標は、高度な内容をもった様々な種類の長い文章を正確に理解できるレベルです。「読む」ことの目標を相対的に高く設定している点が文学部のフランス語の特徴ですが、これは履修者が将来的に専攻に所属し、学問上の専門的な文献を読みこなす可能性を見越してのことです。

フランス語学習のコツ

外国语の学習は知的な活動であると同時に、あるいはそれ以上に、身体的な実践です。上達のコツは、スポーツや音楽と同じように、基本的な動作を繰り返すことです。教科書に添付されているCDを聞く、文章を声に出して読む、単語の綴りを書く、という作業を何度も繰り返してください。辞書も、電子辞書よりも紙の辞書を引く方が、大きな身体的動作を伴うため記憶の定着が高まると言われています。

また、このような練習を授業中はもちろんのこと、自宅で繰り返し行なうことが大切です。テニススクールに通っている人が、スクールの限られた時間だけ練習していたのでは実力は伸びません。ピアノのレッスンを受けている人が、レッスンの間だけしかピアノに触れないすると、上達は望めないでしょう。フランス語の授業は、年間、最大でも合計130時間程度しかありません。たった130時間でできることは限られています。ぜひとも授業以外の時間も有効に利用してください。

フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ

フランス語Ⅰ 1単位（春学期）

フランス語Ⅱ 1単位（秋学期）

フランス語「初級」

西野 純子
芦野 文武
伊東 イザベル
上杉 誠
大島 健太郎
佐藤 太郎
設楽 聰子
鈴木 大悟
関 幸太郎
ソヴグラン シルヴァン
竹中 公二
西部 由里子
平澤 暢之
ブランクール, ヴアンサン
前島 アンヌ・マリー
真部 清孝
森 千夏
森元 規裕
ラビニヤス, クリストフ
ルロン, ステファン

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

フランス語に初めて接する人が基礎を学ぶ授業です。読み・書き・聞く・話す能力をまんべんなく身につけることが目標です。

「フランス語Ⅰ」は春学期の授業、「フランス語Ⅱ」は秋学期の授業です。それぞれ週3回ずつおこなわれます（曜日はクラスによって異なります）。3つの授業は時間割表の上では（A）（B）（C）の記号で区別されます。この3つを「初級」のコースとして履修します。

（A）は文法的な理解と読解力の養成を目的とする授業です。教科書『ル・フランス』を使用します。日本人教員が担当します。

（B）（C）はコミュニケーションに重点をおいた授業です。教科書『Maestro 1』を使用し、日本人教員とフランス語を母語とする教員が担当します。

能動的学修形式：

グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

教科書の予習と復習（あわせて1時間程度）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

「フランス語Ⅰ」と「フランス語Ⅱ」は「セット履修」の科目です。成績評価は年度末に1年間の学習成果全体に対しておこなわれます。「フランス語Ⅰ」が終了した時点で春学期の成績が判定されることはありませんし、通知されることもありません。

成績評価のポイントは以下の通りです。

年間以下3種類のテストを行います。

①Cコマのテスト（年4回）：Cコマの学習内容が出題される。

②小テスト（年4回）：A・B両コマの内容が平等に出題される。

③期末試験（年2回）：A・B両コマの内容が平等に出題される。

年度末に送付される成績表では以下の3つの評語が記載されます。

・Cコマの成績：Cコマのテストの合計点に平常点を考慮した成績。

・Aコマの成績：小テストAコマ分と期末試験Aコマ分の合計点に平常点を考慮した成績

・Bコマの成績：小テストBコマ分と期末試験Bコマ分の合計点に平常点を考慮した成績

注）平常点＝各コマの授業の出席状況と授業態度。正当な理由のない欠席・遅刻はテストの合計点から減点の対象になりますのでご注意ください。

テキスト(教科書)：

教科書（A）：『ル・フランス』（白水社）ISBN：978-4-560-06052-0

教科書（B）（C）：『Maestro 1 マエストロ 1 実践フランス語 初級』（朝日出版社）ISBN：978-4-255-35307-4

参考書：

【文法参考書】

森本英夫、三野博司『新・リュミエール フランス文法参考書』（駿河台出版社）ISBN：978-4411004772

森本英夫、三野博司『プチット・リュミエール フランス文法参考書』（駿河台出版社）ISBN：978-4411004925

目黒士門『現代フランス広文典』（白水社）ISBN：9784560087077

【独習用文法教材】

数江謙治『フランス語のABC』（白水社）ISBN：978-4560002803
【文法練習問題】

斎藤昌三著『フランス語トレーニング・コース』（白水社）ISBN：9784560002827

西村牧夫『解説がくわしいフランス文法問題集』（白水社）ISBN：9784560002537

【作文】

山田博志（他）『1からはじめるフランス語作文』（白水社）ISBN：9784560003350

藤田裕二（他）『言いたいことが言える 書きたいことが書けるフランス語の作文』（三修社）ISBN：978-4-384-03262-8

【辞書】

『ディコ仮和辞典』（白水社）ISBN：9784560000380

『クラウン仮和辞典』（三省堂）ISBN：978-4-385-11933-5

『プチ・ロワイアル仮和辞典』（旺文社）ISBN：9784010753118

『プログレッシブ仮和辞典』（小学館）ISBN：9784095152226

『ロワイアル仮和中辞典』（旺文社）ISBN：978-4010753057

質問・相談：

・授業内容に関する質問 → 各授業の担当者

・学事上の問題や生活面の相談 → 各クラスの担任

フランス語Ⅰ中級／フランス語Ⅱ中級

フランス語Ⅰ中級 1単位（春学期）

フランス語Ⅱ中級 1単位（秋学期）

フランス語「中級」

設楽 聰子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

中学や高校などで1～2年程度フランス語の学習経験がある人たちを対象として、初習者向けのクラスよりも早いペースで初級文法の説明を進めていきます。使用する文法教科書は初習者向けのクラスと同じです。それ以外の教材を用いて練習問題や講読もおこなうこともあります。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

ほぼ毎回、当日行った内容に関する課題が課されます（1時間程度）。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

初習者向け「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」の成績評価方法に準じます。

テキスト(教科書)：

初習者向け「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」で使用する教科書（A）（B）と同じです。

担当教員から履修者へのコメント：

この授業以外に、初習者向け「フランス語I」「フランス語II」の（B）（C）を履修してください。4月のガイダンス時に、既習者全員を対象としたレヴェルチェックを実施して、各自の所属クラスを決定します。

フランス語I上級／フランス語II上級

フランス語I上級 1単位 (春学期)

フランス語II上級 1単位 (秋学期)

上杉 誠

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

中学・高校で3年以上フランス語を学習した人のための授業です。授業開始前にレヴェルチェックを行ない、上級クラス認定が出た学生が対象です。

授業内容は履修者と相談して決めますが、講読、ディクテ、聞き取り、仮検対策、DELF対策などを通じて、総合的にフランス語能力の向上を目指します。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

予習・復習

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点と授業内課題

テキスト(教科書)：

プリントを配布します

参考書：

授業内で指示します

担当教員から履修者へのコメント：

授業内でフィードバックをおこないます

質問・相談：

授業の前後 KLMS

フランス語I上級／フランス語II上級

フランス語I上級 1単位 (春学期)

フランス語II上級 1単位 (秋学期)

上級仮語演習

西部 由里子

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

中学・高校などで3年以上フランス語を学習してきた既習者のための授業です。

毎回の授業は、単語テスト、仮検の過去問を用いた問題演習から始めます。その後、ディクテや仮文和訳、和文仮訳などの演習を行い、伝えたい内容を的確に表現するための工夫について考えます。プレゼンテーションやグループワークも適宜取り入れます。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；グループワーク

準備学修(予習・復習等)：

単語テスト、仮検問題の準備、授業の復習（合わせて1時間程度）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

出席状況、単語テスト、グループワークへの取り組み、提出課題、授業中に行なう試験（各学期2回）などから総合的に評価します。

テキスト(教科書)：

受講者と相談の上決定します。プリントも使用します。

参考書：

特に指定なし。

担当教員から履修者へのコメント：

授業はすべて対面で行います。

毎回予習が必要です。また授業には辞書を持参してください。

質問・相談：

講義の後や授業内メールで随時受けつけます。

フランス語I上級 1単位 (春学期)

フランス語II上級 1単位 (秋学期)

Bienvenue en France !

ラビニヤス、クリストフ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

フランス的な雰囲気の中で、すでに学んだ文法の知識を確認しながら、フランス語で話す練習を行います。自然な発音を身につけ、聞き取り能力を高めるように、授業中にインターネット、CDやDVDを使用します。

また、メールなどを読んで、それらのテキストを利用して文を書く練習や、書き取りの練習も行います。話す時間を最大限にするために、少人数のグループに分かれて会話練習をします。

担当教師は皆さんとフランス語で話をし、習得状況を確認します。毎回学習した単語や会話文のスクリプトを用意します。毎週異なるイディオムを勉強します。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；ディスカッション、ディベート；グループワーク；ロールプレイング；反転授業；PBL（問題解決学習）

準備学修(予習・復習等)：

新しい語彙や文法は次のレッスンの最初に復習する。その週のうちに復習するのがベスト。予習、復習あわせて1時間。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

1.会話や課題への積極性 2.会話スキル 3.筆記、スペリング等のスキルを中心に評価していきます。

最終日は会話のテストを行う。

テキスト(教科書)：

作った教材を配布する

プリントを配布する

担当教員から履修者へのコメント：

旅行で使える表現を、リスニングと会話と文化を学ぶことによって身につけていく。

ロールプレイやゲームなどを通して会話を練習し、実際に留学しているつもりで言葉やシチュエーションを学んでいきます。授業の前後に30分程度の自宅学習。

パソコンは必要ありませんが、授業でインターネットを使うことがあります。

質問・相談：

前期は、これまでに習得した基礎を固めるため、指示された対話の練習を行う。後期は、より自由で自然な言語運用を目指します。

前期（春学期）

中国語

日本と二千年にも及ぶ交流を持つ中国は、いまや単なる隣国であるにとどまらず、世界への大きな影響力を保持する大国としての様相を現しています。中国は、日本人が慣れ親しんだ欧米的なスタンダードとは異なる、新たなスタンダードの構築を目指していると言えるかも知れません。各種メディアで報道される中国の急成長は、ときに感情的な脅威論に傾くこともあります、まだまだ日中両国はお互いのことを十分に理解していないというのが現状です。中国というと反日的なイメージが強調されがちですが、経済ではすでに日中は重要なパートナーとなりつつあります。英語と並んで中国語の研修を必須とする大企業も現れ、今後ますますそうした傾向は強まるでしょう。日中両国の若者が、勇気をもって「相手を知っているつもり」をやめてみると、驚くほど多彩な事柄が見えてくるはずです。中国語の習得は、現代中国の文化的・政治的なコードの存在を実感し、様々な差違を楽しむための大きな一助となり、研究はもとより就職そして実業の世界でも大きな武器となり得ます。その先には、中国のみならず様々な「世界」と向き合う自分なりの姿勢を手に入れる展望も開けてくることでしょう。

中国語は漢字によって表記されます。それは日本人が中国語を学ぶ際の大きな利点です。しかし実は、中国（大陸）では「簡体字」と呼ばれる簡略化された漢字が用いられています。また台湾や香港では「繁体字」と呼ばれる画数の多い漢字が用いられており、いずれもわたしたちが日本語で使う漢字とは異なっています。そしてなにより、中国語の漢字の発音は日本語とは全く異なります。知っているようで、知らないことも多い、という中国語に対する感覚は、まさしく日中両国の間柄とも似通っているようです。

古来、日本は中国の文化から多くを学びました。複雑な歴史的背景のもと、現在は双方向的な関係を結ぶべき時期に来ています。飛行機に乗ればわずか3時間程度、容易に往来できるのは隣国の利点です。日中間で多くの企業や留学生が往来し、そして多くの中国の若者は、日本のドラマやアニメなどのポップカルチャーを愛好しています。共有してきた文化を知る喜びと、近くで遠い異質の感覚に触れる楽しみ、その両方の可能性を中国語の学習は皆さんに与えてくれることでしょう。

中国は多民族国家ですが、中国籍を持つ人は14億人にも及びます。これは世界の総人口のおよそ5分の1にあたります。「你好！ Nǐhǎo！」（こんにちは！）からはじまる一言ずつが、皆さんにとって世界への窓口を大きく聞くスキルになることと思います。

なお、既習者は以下の説明を参照してください。初級と中級、或いは中級と上級のどちらで学べばよいか分からない人は、語学別ガイダンス時に教員と相談のうえ、クラスを決めることができます。

【中級クラス】

1～2年程度の中国語学習歴がある人が対象です。具体的には、高等学校で中国語を履修した人、中国語検定で4級を取得した人などです。中国語の既習者で、初級と中級のどちらで学べばよいのか判断に迷う人は、語学別ガイダンス時に教員と相談のうえ、クラスを決めることができます。

【上級クラス】

中国語検定2級以上またはHSK5級以上に相当する中国語能力のある人が対象です。上級レベルでよいかどうかの判断に迷う人は、語学別ガイダンス時に教員と相談のうえ、クラスを決めることができます。

上級科目的シラバス・時間割については、外国語教育研究センターの「履修案内・講義要綱」に記載されている科目名「中国語表現技法1～4」の内容を確認してください。詳細は語学別ガイダンスで説明するので、外国語教育研究センターの「履修案内・講義要綱」を必ず持参してください。

中国語Ⅰ／中国語Ⅱ 初級

中国語Ⅰ 1単位（春学期）

中国語Ⅱ 1単位（秋学期）

須山 哲治
石川 就彦
植松 公彦
上村 陽子
王 維亭
丁 雷
波多野 真矢
畢 文濤
福田 文彬
松倉 梨恵
山下 純嗣
容 文育
吉永 壮介

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

中国語の初学者を対象とする授業です。発音の習得、聞き取り、初級文法と語彙の習得をめざします。授業は統一教材を用いて行い、日本人教員2名とネイティブ教員1名による週3コマで進行します。日本人教員の授業時では、主に文法と基本的な会話を学習し、ネイティブ教員の授業では、聞き取りや発音・会話を重点的に練習します。なお、ネイティブ教員は中国語のみを使って授業をします。

学習の到達目標は以下の通りです。

- ①ピンイン表記（ローマ字による中国語の発音表記）を習得し、それに基づいて正確な発音が出来る。
- ②中国語を聴いて正確にピンインと簡体字で書き取ることが出来る。
- ③初級文法を習得し、簡単な会話がスムーズにできる。

能動的学修形式：

グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

各授業とも目安として各回予習30分、復習30分（合計1時間）の準備学修時間が必要です。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

統一試験、各クラスでの試験、発音試験、出席・小テストによる平常点をベースにして、全担当教員による成績会議で決定します。全クラスで行う試験は以下の通りです。

<春学期>

【発音試験】

ネイティブ教員クラス (6月・授業時間内)

【学期末試験】

ネイティブ教員クラス (授業時間内)

全クラス統一試験 (試験期間中・筆記試験)

<秋学期>

【中間試験】

ネイティブ教員クラス (三田祭前後・授業時間内)

全クラス統一試験 (三田祭前後)

【学期末試験】

ネイティブ教員クラス (授業時間内)

全クラス統一試験 (試験期間中・筆記試験)

テキスト(教科書)：

各自、下記を生協を通して購入して、初回の授業に臨んでください。
全クラス共通テキスト：

『【初級テキスト】中国語のススメ』 白帝社 2022年 ISBN : 978463984479

参考書：

<辞書> ガイダンス時に紹介します。

<参考書> 『中国語の入門 [最新版]』 山下輝彦著 白水社 2016年 ISBN : 9784560087213

『Why ? にこたえるはじめての中国語の文法書 [新訂版]』 相原茂ほか著 同学社 2016年 ISBN : 9784810203271

担当教員から履修者へのコメント：

授業形態は「対面教室型」を予定していますが、授業形態や内容は必要に応じて変更となる可能性があります。出席・平常点を重視します。欠席しないように心がけてください。最初の数週間で集中的に発音練習を行い、その後文法・会話練習に進みます。中国語の発音に慣れるために、繰り返し教科書の音声資料（音声ダウンロード方式）で練習してください。春学期においては特に復習に力を入れること。

質問・相談：

メールなど、各担当者からの指示に従ってください。

中国語Ⅰ／中国語Ⅱ 中級

中国語Ⅰ 中級 1単位（春学期）

中国語Ⅱ 中級 1単位（秋学期）

浅野 雅樹
波多野 真矢
劉 浩水

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

この授業は初級中国語を1年程度勉強した学生に向けたものです。日本人教員2名は、中国語初級文法の確認と発展、語彙の拡大、読解力の向上を目指す授業を展開します。ネイティブ教員は極力中国語を使って授業を行い、実践的に中国語のリスニングとスピーキングの力を鍛えていきます。

能動的学修形式：

ロールプレイング

準備学修(予習・復習等)：

文を訳読する、文を暗唱する、練習問題を解く、単語を覚えるなど、さまざまな課題に取り組むことが求められます。毎回の授業に対して、予習・復習を1時間程度行ってください。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

出席状況、授業態度、課題・レポート、授業内試験の結果をもとにして判断します。

テキスト(教科書)：

開講時に指定します。

参考書：

相原茂ほか著 『Why ? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）ISBN : 978-4810203271

担当教員から履修者へのコメント：

授業は初回の授業も含め、すべて対面で実施します。

質問・相談：

授業終了後、またはメールで受け付けます。

韓国語

韓国語 I 1単位 (春学期)

韓国語 II 1単位 (秋学期)

韓国語の入門から初級まで

金 柄徹

李 瓊

李 泰文

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

韓国語の入門（文字、発音、あいさつのことば）、基礎（簡単な日常会話）、初級（旅行、買い物、掲示板の理解などに役立つもの）の段階を踏んで学んでいきます。一週間に三回の授業は、講師は代わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをし、達成度をはかります。

能動的学修形式 :

該当なし

準備学修(予習・復習等) :

テキストの語彙を覚える

学習した文法や表現を覚える

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

出席率、課題、小テストにより評価します。

テキスト(教科書) :

金孝珍（北原スマ子監修）『即！実践 楽しもう韓国語』白帝社、最新版。

ISBN : 978-4-86398-277-2

担当教員から履修者へのコメント :

- 受講者の習熟度に対応し授業のスケジュールや進み具合を変更することができます。
- 韓国語は日本人にとって、他の外国語よりは取り組みやすい言語だといわれています。しかし、目標をどこに設定するかによって難易度は随分変わってきます。ハングルが何とか読める程度で満足することなく、韓国の社会や文化の中にもひとりで入っていけるという目標を持って学習に取り組んでほしいです。

質問・相談 :

隨時可能。

韓国語既習 I 1単位 (春学期)

韓国語上級 한국어 상급

李 瓊

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

韓国語をすでに学んだことのある人を対象にしています。
日常的な場面をテーマに学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイル（より複雑な表現）についても理解を深めていくことを目指します。その他に、映画・新聞・文学作品などを素材に、韓国語だけでなく韓国の文化や社会事情に対する理解も高めています。

能動的学修形式 :

該当なし

準備学修(予習・復習等) :

毎回、授業の始めに前回の確認を行うので、必ず復習してくること

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

眷石、수업에의 기여도, 과제, 시험 등으로 평가합니다.

テキスト(教科書) :

특정 교과서는 사용하지 않습니다.

参考書 :

필요에 따라 교재를 수업시간에 배부합니다.

質問・相談 :
언제든지 대응합니다.

韓国語既習 II 1単位 (秋学期)

韓国語上級 한국어 상급

李 瓊

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

韓国語をすでに学んだことのある人を対象にしています。

日常的な場面をテーマに学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイル（より複雑な表現）についても理解を深めていくことを目指します。その他に、映画・新聞・文学作品などを素材に、韓国語だけでなく韓国の文化や社会事情に対する理解も高めています。

能動的学修形式 :

該当なし

準備学修(予習・復習等) :

毎回、授業の始めに前回の確認を行うので、必ず復習してくること

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

眷石、수업에의 기여도, 과제, 시험 등으로 평가합니다.

テキスト(教科書) :

특정 교과서는 사용하지 않습니다.

参考書 :

필요에 따라 교재를 수업시간에 배부합니다.

質問・相談 :

언제든지 대응합니다.

スペイン語

スペイン語Ⅰ 1単位（春学期）

スペイン語Ⅱ 1単位（秋学期）

スペイン語の基礎と発展

金子 奈美
サンチェスバレーラ, マルタ
ペラル ヒガンテ, アルバロ
諸星 妙

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

春学期

スペイン語文法の基本を学びつつ、挨拶や自己紹介など、初歩的な日常会話をスムーズに行えるような練習をします。四技能をバランスよく身につけ、簡単な読み書きもできるようにするのが目標です。

秋学期

春学期に引き続いてスペイン語文法を学習し、直説法の時制をすべて学びます（接続法は2年次に学習します）。また、平易なスペイン語テキストの内容を理解できるだけの読解力や、身の回りの出来事や事物について述べることができる会話・作文能力を身につけることも目標です。

スペイン語圏の国や地域の文化も折に触れて紹介します。

能動的学修形式：

グループワーク；ロールプレイング；反転授業

準備学修(予習・復習等)：

予習：各回で扱う教科書の内容に目を通し、わからない単語は辞書で引いて調べ、例文の意味を考えてきてください。（30分程度）

復習：毎回、学習した内容をノートにまとめて復習することを勧めます。適宜、宿題や課題も出します。（30分～1時間程度）

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

授業内試験（各学期に数回行う小テスト、期末試験）、課題、平常点をもとに、担当者全員による合議の上で決定します。

テキスト(教科書)：

エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語』朝日出版社、2019年 ISBN：978-4-255-55102-9

エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語2』朝日出版社、2022年 ISBN：978-4-255-55132-6

参考書：

辞書については、最初は電子辞書ではなく、紙媒体のものが望ましいです。以下のものをお勧めします。ガイドの説明をよく聞いてから、まずは西和辞典を購入してください。

西和辞典：

『現代スペイン語辞典』（白水社）ISBN：9784560000465

『西和中辞典』（小学館）ISBN：9784095155029

『クラウン西和辞典』（三省堂）ISBN：9784385122014

『ピエルタ新スペイン語辞典』（研究社）ISBN：9784767490564

和西辞典：

『和西辞典』（白水社）ISBN：9784560000472

『クラウン和西辞典』（三省堂）ISBN：9784385121956

『和西辞典』（小学館）ISBN：9784095155319

担当教員から履修者へのコメント：

基本的に『イメージ・スペイン語』を使って進め、復習の際に『イメージ・スペイン語2』を併用します。教科書は2年次も引き続き使用しますので、2冊ともセット購入しておいてください。

語学の習得のためには、いわゆる「一夜漬け」ではなく、コンスタントに努力を積み重ねることが大切です。たとえば毎日、予習と復習を30分行なうなど、習慣づけましょう。1年生で基礎を固めたあと、2年生の授業では、スペイン語での簡単なプレゼンテーションや、スペイン語圏の社会・歴史・文化などに関するテキストの読解に挑戦します。

授業は対面で行ないます。

質問・相談：

授業の前後、またはメールやK-LMSにて受け付けます。

ロシア語

ロシア語Ⅰ 1単位（春学期）

ロシア語Ⅱ 1単位（秋学期）

ロシア語の基礎

越野 剛

イドジーエヴァ、ジアナ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

アルファベット、発音から始めて、ロシア語の基本的な文法項目および表現を総合的に学習します。一年間でロシア語の読解力を養成する授業です。ロシア語の構文をしっかりと把握して正しく理解・応用できるようになることを目標とします。また、ネイティブ教員の担当回では、文法項目の学習度合いに応じて、ロシア語の応用的な表現を練習します。

能動的学修形式：

該当なし

準備学修(予習・復習等)：

予習・復習。とりわけ新しい単語や練習問題などの予習は必須。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

授業への積極的な参加（平常点）、課題の提出、小テスト、期末試験などを総合的に評価します。

テキスト(教科書)：

『ロシア語をはじめよう』西中村浩・朝妻恵里子著 朝日出版社 2017年 ISBN：978-4-255-55504-1

そのほか、ロシア語やロシア文化を学ぶのに役立つような資料を適宜用意します。

参考書：

『博友社ロシア語辞典』 ISBN：978-4826801485

担当教員から履修者へのコメント：

外国語は暗記しなくてはいけない文法事項が多くてたいへんですが、言葉を習得することで見えてくる世界の広がりは苦労するだけの価値のあるものです。もっと勉強がしたくなるような、ロシア語の世界の魅力が伝わるよう努めます。予習・復習など、授業外での一定の学習時間が必要になることは覚悟してください。

ロシア語はロシア連邦だけでなく、旧ソ連の国であった国々や、イスラエル、ドイツやアメリカなどで多くの人に使われています。さらにロシア語は国際連合の公用語であり、多くの人が学習しています。皆さんも一緒に挑戦してみましょう。

質問・相談：

授業中でも分からることがあれば積極的に質問してください。授業時間前後にも質問に対応します。

メールなどの問い合わせも随時受け付けます。

イタリア語

イタリア語Ⅰ 1単位（春学期）

イタリア語Ⅱ 1単位（秋学期）

イタリア語基礎文法【1年生必修】

原田 亜希子
長谷川 悠里
横田 太郎

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

『春学期：イタリア語Ⅰ』

初歩的なイタリア語の文法を解説します。レヴェル的には、イタリア語検定5級程度が習得できるよう指導していきます。また、言語と文化は密接に関わっています。そのためイタリア語の学習を通して、様々なイタリアの文化やイタリア人の考え方も学んでいきます。学生の興味や要望に合わせて、歴史、芸術、食文化等にも積極的に触れ、イタリア語学習ができるだけ楽しいものにしていきたいと思います。

『秋学期：イタリア語Ⅱ』

イタリア語Ⅰの続きとして、イタリア語文法初級の後半部分を解説します。授業の進め方も、イタリア語Ⅰと同じです。折に触れて、イタリアの食生活や日常生活、文化、社会習慣など語学に密接した知識を解説します。レヴェル的には、イタリア語検定4級程度が習得できるよう指導していきます。

能動的学修形式：

PBL（問題解決学習）

準備学修（予習・復習等）：

予習は必須ではありませんが、必ず各回の授業で学んだ内容を復習するように心がけてください。授業1回あたりの予習・復習の合計時間の目安は1時間程度です。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

語学の授業なので、毎回出席することを心がけてください。

出席状況（授業への参加度）、試験の結果をもとに評価します。

なお、担当教員により以下のように試験の方法が異なります。

【長谷川・横田担当の文法の授業】

授業内の小テストの平均点で全体の評価とする。

【原田担当の文法の授業】

各学期に中間試験と学期末試験を行ない、全体の評価とする。

テキスト（教科書）：

『改訂版 辞書なしで学べる 入門イタリア語最初歩』ナンニーニ・アルダ、藤谷道夫著、三修社、2014年 ISBN：978-4-384-05750-8 C1087

を各自購入して下さい。

『イタリア語練習問題集（慶應義塾大学生用）』（初回の授業時に配布します）

担当教員から履修者へのコメント：

初級文法は毎回新しい内容を解説するため、出席していないと内容が解らなくなってしまいます。そのため、毎回出席するよう心がけてください。

勉強を進める上で興味や関心が何よりも重要です。学生の皆さんからの積極的な質問を期待しています。

初級文法では、最初は覚えることも多く大変ですが、できるだけ楽しく・興味深い授業となるよう教員の方も配慮・努力していくので、頑張って付いて来て下さい。

質問・相談：

授業中や授業後に質問をして下さい。

イタリア語Ⅰ 1単位（春学期）

イタリア語Ⅱ 1単位（秋学期）

Ciao!からイタリアへ

マッジヤ、フェデリカ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

初めてイタリア語を学ぶ学生のための授業です。この授業は、日常生活や旅行など様々なシチュエーションで必要となるコミュニケーション能力を涵養するため、イタリア語での日常会話や語彙を習得することに焦点を当てていきます。授業を通して、イタリア文化の文脈に沿った適切な会話表現の習得、また、言語の裏に潜むイタリアの文化、思考様式についても文化比較を交えながら、知識を深めていくことを目指します。

授業は、教科書に沿って授業を進めます。春学期は、2課（自己紹介、余暇の過ごし方など・動詞の現在）まで、秋学期は4課（日々の生活、バカンスなど・動詞の近過去）まで進める予定です。

能動的学修形式：

グループワーク；ロールプレイング；PBL（問題解決学習）

準備学修（予習・復習等）：

授業で指示される予習、復習、および課題。詳細は授業内で説明。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

出席、授業への積極的な参加態度、小テスト、期末試験、課題や提出物などを総合的に鑑みて評価します。

テキスト（教科書）：

『Nuovissimo Progetto Italiano 1 - Libro dello studente』 Marin T., Magnelli S.著

Edilingua出版 2019年

ISBN : 978-88-99358-50-1

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面で実施します。

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。恥ずかしがらずに、授業に積極的に参加しましょう。間違いを気にせず、話して下さい。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と言いますが、分からなくて聞いても恥でもなんでもありません。いくら間違えても構ないので、どんどん話しましょう。

質問・相談：

・授業中はもとより、休憩時間に気軽に何でも質問して下さい。

・講義の前後に随時受け付けます。

イタリア語Ⅰ 1単位（春学期）

イタリア語Ⅱ 1単位（秋学期）

4か月のイタリア語コミュニケーション巡り

サリス、ファリエーロ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

Lo scopo del corso è lo sviluppo delle competenze comunicative, affinché gli studenti possano esprimersi in italiano in modo naturale ed efficace in italiano. Durante la lezione ci saranno attività di coppia e di gruppo volte a migliorare la produzione orale sia libera che guidata. Inoltre, svilupperemo competenze di ascolto utilizzando cortometraggi e audio. Questo corso, inoltre, si propone di far conoscere le tradizioni culturali e i caratteri distintivi dell'Italia.

この授業の目的は、イタリア語で自然かつ効果的にコミュニケーションする能力の向上を促すことにあり、あらゆるシチュエーションで会話をするコツを学びます。授業中、多様な状況での会話能力を高めるために、ペアあるいはグループになっての会話練習を多く行います。加えて、幅広いジャンルのビデオ・クリップやオーディオを使って、聴き取り能力を伸ばします。その際、イタリア人の思考法や特徴的な文化、人気のある伝統を知ることも大きな目的です。

能動的学修形式：

プレゼンテーション；グループワーク；ロールプレイング

準備学修(予習・復習等) :

復習

Ripasso

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

イタリア語でコミュニケーションを取る姿勢が評価の最も重要な基準になるので、授業に積極的に参加して下さい。そのためには、授業に遅れないように努め、やむを得ず欠席した場合は、クラスメートに必ず習ったことを確認してください。中間テストと期末テストではライティング、スピーキング、リスニングとコンテキストの理解が評価の対象となります。

Valutazione sulla base della partecipazione alle attivita` proposte durante le lezioni, sulle presenza e sul risultato del test finale.

テキスト(教科書) :

『Nuovissimo progetto italiano A1-A2』, Telis Marin著, Edilingua出版, 2019年, ISBN : 978-88-99358-54-9

参考書 :

無し

Nessuno

担当教員から履修者へのコメント :

会話の授業は、水泳でいえば、実技です。文法は座学ですが、どんなに座学で学んでも、実際に泳いでみなければ、水泳は覚えられません。従って、何を描いても授業に出席して水の中に入ることが最も重要です。できれば、一回も休まず、出席してください。また、イタリア語をどんなに間違ても気にしないでください。大切なことは話すことにあるからです。話さなければ、何も伝えられません。間違っても話せば、何かが伝えられます。それ故、恐れず、恥ずかしからず、気楽な気持ちで授業にどんどん参加してください。人は間違いながら、覚えていくものだからです。なお、予習は必要ありません。毎回、授業で学んだことを毎日10/15分でも良いので、復習してください。語学の授業は復習が全てです。

Imparare una lingua e` come nuotare : non bisogna avere paura di tuffarsi e provare. Durante la lezione gli studenti avranno numerose occasioni di esprimere in lingua italiana le loro opinioni, le loro idee, i loro progetti, gusti ed esperienze, senza sentire la paura di sbagliare e in un'atmosfera di gioco e collaborazione. Il ripasso quotidiano e` consigliabile : basteranno 10/15 min. al giorno.

質問・相談 :

質問しやすい環境を作るよう努力していくので、わからない点があれば、日本語でも構いません、積極的に質問してください。質問するほど、興味も湧き、楽しくなるものです。自分が言いたいことを少しずつものにして、自分だけのイタリア語を作ってきましょう。

Domande e dubbi sono sempre benvenuti sia durante che dopo la lezione.

イタリア語入門 I 1単位 (春学期)

イタリア語へようこそ！

マッジヤ, フェデリカ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標 :

実践的なコミュニケーションアプローチを通じて、各会話と文法は同じ内容の相互補完形式です。「日常生活」「旅行」「文化」などの話題に必要なボキャブラリーや表現を増やしながら、コミュニケーション能力をつけることを目指します。具体的には、様々なシチュエーションで使える会話表現を習得し、自分のことを自分の言葉で話せるようになることを目標とします。ビデオ（スキットと文化紹介の映像）、スライドショーなどのマルチメディアを使用して楽しく日常イタリア語を学び、イタリアの文化について知識を深めます。

教科書に沿って授業を進めます。春学期は、3課まで、秋学期は6課まで進む予定です。

この授業はイタリア語を初めて学ぶ学生を対象としていますが、イタリアで生活した経験がある学生、イタリアへの留学を考えすでにいくらか学習した学生も歓迎します。

能動的学修形式 :

グループワーク；ロールプレイング；PBL (問題解決学習)

準備学修(予習・復習等) :

授業で指示される予習、復習、および課題。詳細は授業内で説明。

授業の計画 : K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法 :

授業への参加度と期末試験で評価します。

テキスト(教科書) :

『OPERA PRIMA - Volume 1』 Maggia, Mischio, Quaglieri, Spinuso, Zamborlin著

Casa Editrice Asahi 2012年 ISBN : 978-4-255-55308-5

担当教員から履修者へのコメント :

授業は対面で実施します。

学生からの声

イタリアを旅行したいという思いから、履修を決めました。通年で受講し、マッジヤ先生と楽しくイタリア語を学んできました。この春はゼロからのスタートでしたが、1年後には自己紹介は難なくできるようになります。第二外国語以外の言語も知り、世界観を広げたい人におすすめです。(商学部2年, KOTARO)

大学では色々な言語に挑戦したいと思っていたので、第三外国語として入門の授業があるイタリア語の授業を選びました。毎回の授業でイタリア語で会話する時間があるので簡単な会話はマスターすることができました。また、少人数のクラスなので分からぬところもすぐに質問でき解決できます。私は秋学期のみの履修で、イタリア語がゼロの状態から始めましたが、学期末には過去形を習得するまで成長できました！(文学部1年, RIN)

この授業では、基本的にイタリア語の会話などを中心に学ぶことができます。文学部設置の授業ですが、他学部の人でも履修することができます。また、僕はイタリア語を今まで全く勉強したことがなかったのですが、先生がとても親切に教えてくれたおかげで、イタリア語を楽しく一から学ぶことができました。そして、4月から勉強を初めて、12月にイタリア語検定CILS A1 (CEFR A1) を受験しました！(商学部2年, SHUN)

イタリア語について全く予備知識なしで履修しましたが、先生が優しく、かつ丁寧に教えてくださるので、とても楽しく勉強できます。一度社会に出ると、こうした質の高い語学の授業を受けることはそう簡単にはできないと思います。ぜひ履修することをおすすめします。(法学部4年, KOSEI)

イタリアを旅行したいと思い、この授業を取りました。文法を学びながら、日常会話の練習も重点的にできるので、特に実際にイタリアに行きたい人におすすめしたいです。また、イタリアの文化についても学ぶことができて、とても楽しい授業です。(文学部1年, NOZOMI)

少人数の授業であるため、1人1人丁寧にご指導していただけます。先生はとても明るく優しい方で、いつも楽しくイタリア語を学べます。教科書に載っているイタリアで有名なカフェに同じクラスの友達と行ったこともあります！イタリアに少しでも興味のある方はぜひ授業をとってみてください！(経済学部2年, SAE)

先生はいつも優しくて1人1人のレベルに合わせて丁寧に指導してくださり、クラスメイトも明るく楽しかったので私はこの授業が大好きでした！楽しみながらイタリア語の力をしっかりと伸ばせますし、CILSという国際的なイタリア語の資格の勉強もできて充実した一年でした！(法学部2年, KANA)

会話中心の授業なので文法の授業で習ったことを実際に試すことができて自分のイタリア語をブラッシュアップできてよかったです。(文学部1年, FUMIYI)

質問・相談 :

- 授業時間の折に担当教員になんでも質問してください。
- 講義の前後に随時受け付けます。

イタリア語入門Ⅱ 1単位（秋学期）

イタリア語へようこそ！

マッジヤ、フェデリカ

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

「イタリア語入門Ⅰ」の続きです。

実践的なコミュニケーションアプローチを通じて、各会話と文法は同じ内容の相互補完形式です。

「日常生活」「旅行」「文化」などの話題に必要なボキャブラリーや表現を増やしながら、コミュニケーション能力をつけることを目指します。具体的には、様々なシチュエーションで使える会話表現を習得し、自分のことを自分の言葉で話せるようになることを目標とします。ビデオ（スキットと文化紹介の映像）、スライドショーなどのマルチメディアを使用して楽しく日常イタリア語を学び、イタリアの文化について知識を深めます。

教科書に沿って授業を進めます。春学期は、3課まで、秋学期は6課まで進む予定です。

この授業はイタリア語を初めて学ぶ学生を対象としていますが、イタリアで生活した経験がある学生、イタリアへの留学を考えすでにいくらか学習した学生も歓迎します。

能動的学修形式：

グループワーク；ロールプレイング；PBL（問題解決学習）

準備学修（予習・復習等）：

授業で指示される予習、復習、および課題。詳細は授業内で説明。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

授業への参加度と期末試験で評価します。

テキスト（教科書）：

『OPERA PRIMA - Volume 1』 Maggia, Mischio, Quagliari, Spinuso, Zamborlin著
Casa Editrice Asahi 2012年 ISBN : 978-4-255-55308-5

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面で実施します。

学生からの声

イタリアを旅行したいという思いから、履修を決めました。通年で受講し、マッジヤ先生と楽しくイタリア語を学んできました。この春はゼロからのスタートでしたが、1年後には自己紹介は難なくできるようになります。第二外国語以外の言語も知り、世界観を広げたい人におすすめです。（商学部2年、KOTARO）

大学では色々な言語に挑戦したいと思っていたので、第三外国語として入門の授業があるイタリア語の授業を選びました。毎回の授業でイタリア語で会話する時間があるので簡単な会話はマスターすることができました。また、少人数のクラスなので分からぬところもすぐに質問でき解決できます。私は秋学期のみの履修で、イタリア語がゼロの状態から始めましたが、学期末には過去形を習得するまで成長できました！（文学部1年、RIN）

この授業では、基本的にイタリア語の会話などを中心に学ぶことができます。文学部設置の授業ですが、他学部の人でも履修することができます。また、僕はイタリア語を今まで全く勉強したことがなかったのですが、先生がとても親切に教えてくれたおかげで、イタリア語を楽しく一から学ぶことができました。そして、4月から勉強を初めて、12月にイタリア語検定CILS A1 (CEFR A1) を受験しました！（商学部2年、SHUN）

イタリア語について全く予備知識なしで履修しましたが、先生が優しく、かつ丁寧に教えてくださるので、とても楽しく勉強できます。一度社会に出ると、こうした質の高い語学の授業を受けることはそう簡単にはできないと思います。ぜひ履修することをおすすめします。（法学部4年、KOSEI）

イタリアを旅行したいと思い、この授業を取りました。文法を学びながら、日常会話の練習も重点的にできるので、特に実際にイタリアに行きたい人におすすめしたいです。また、イタリアの文化についても

学ぶことができて、とても楽しい授業です。（文学部1年、NOZOMI）

少人数の授業であるため、1人1人丁寧にご指導していただけます。先生はとても明るく優しい方で、いつも楽しくイタリア語を学べます。教科書に載っているイタリアで有名なカフェに同じクラスの友達と行ったこともあります！イタリアに少しでも興味のある方はぜひ授業をとってみてください！（経済学部2年、SAE）

先生はいつも優しくて1人1人のレベルに合わせて丁寧に指導してください、クラスメイトも明るく楽しかったので私はこの授業が大好きでした！楽しみながらイタリア語の力をしっかりと伸ばせますし、CILSという国際的なイタリア語の資格の勉強もできて充実した一年でした！（法学部2年、KANA）

会話中心の授業なので文法の授業で習ったことを実際に試すことができ自分のイタリア語をブラッシュアップできてよかったです。（文学部1年、FUMIYA）

質問・相談：

・授業時間の折に担当教員になんでも質問してください。

・講義の前後に随時受け付けます。

ギリシア語

古典ギリシア語初級Ⅰ 1単位（春学期）

古典ギリシア語の初級文法

小林 薫

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

古典ギリシア語は、古代ギリシアの文化、思想を根底から支えた言語であるだけでなく、その影響は2000年以上の時を越え、現代世界を様々な形で規定しています。新約聖書もギリシア語で書かれ、キリスト教を育みました。この授業の最大の目的は、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ事です。ギリシア悲劇やプラトンの対話篇が生まれた紀元前5-4世紀のアテネの言葉が中心となります。さらに、古典ギリシア語を学ぶということは、ギリシア語がラテン語をはじめとする西洋諸語に与えた影響、そして古代ギリシアの文物が西洋世界に残した遺産について学ぶことでもあります。古典ギリシア語を通じて西洋文化への理解を深めることを、この授業の第二の目的とします。

能動的学修形式：

反転授業

準備学修（予習・復習等）：

予習：指定の教科書を学習し、課題（練習問題）を解いておいて下さい。

復習：授業での学習事項を再度確認して下さい。

60分間

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点 6割

期末試験 4割

テキスト（教科書）：

『古典ギリシア語初步』 水谷智洋著 岩波書店 1990年 ISBN : 4000008293

参考書：

初回授業時に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面実施を基本としますが、状況に応じて一部をオンラインとする可能性があります。初回授業は対面です。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

古典ギリシア語初級Ⅱ 1単位（秋学期）

古典ギリシア語の初級文法

小林 薫

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

古典ギリシア語は、古代ギリシアの文化、思想を根底から支えた言語であるだけでなく、その影響は2000年以上の時を越え、現代世界を様々な形で規定しています。新約聖書もギリシア語で書かれ、キリスト教を育みました。この授業の最大の目的は、古典ギリシア語の初級文法を学ぶ事です。ギリシア悲劇やプラトンの対話篇が生まれた紀元前5-4世紀のアテネの言葉が中心となります。さらに、古典ギリシア語を学ぶということは、ギリシア語がラテン語をはじめとする西洋諸語に与えた影響、そして古代ギリシアの文物が西洋世界に残した遺産について学ぶことでもあります。古典ギリシア語を通じて西洋文化への理解を深めることを、この授業の第二の目的とします。古典ギリシア語初級I の学習内容を学習済であることを前提とします。

能動的学修形式：

反転授業

準備学修(予習・復習等)：

予習：指定の教科書を学習し、課題（練習問題）を解いておいて下さい。

復習：授業での学習事項を再度確認して下さい。

60分間

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点 6割

期末試験 4割

テキスト(教科書)：

『古典ギリシア語初歩』 水谷智洋著 岩波書店 1990年 ISBN : 4000008293

参考書：

初回授業時に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面実施を基本としますが、状況に応じて一部をオンラインとする可能性があります。初回授業は対面です。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

復習：授業での学習事項を再度確認して下さい。

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点 6割

期末試験 4割

テキスト(教科書)：

『標準ラテン文法』 中山恒夫著 白水社 1987年 ISBN : 9784560017616

参考書：

初回授業時に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面実施を基本としますが、状況に応じて一部をオンラインとする可能性があります。初回授業は対面です。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

ラテン語初級Ⅱ 1単位（秋学期）

古典ラテン語の初級文法

小林 薫

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

ラテン語は、古代ローマで使用された言語であると同時に、キリスト教やローマ法、ルネサンス文芸などを通じて西ヨーロッパ社会の根幹を規定し、その文化を培う言語ともなりました。この授業の最大の目的は、古典ラテン語の初級文法を学ぶ事です。古典ラテン語とは、キケローらによって確立され、標準的な書き言葉として定着したラテン語を指します。しかし同時に、ラテン語を学習するという事は、ラテン語がロマンス諸語はもちろん、英語、ドイツ語等の西洋諸語に与えた影響、また古代ローマの文物が西洋社会に残した遺産について学ぶ事でもあります。ラテン語を通じて西洋文化についての理解を深めることを、この授業の第二の目的とします。

本科目は「ラテン語初級Ⅰ」の学習事項を既習であることを前提に進めます。履修に際しては注意して下さい。

能動的学修形式：

反転授業

準備学修(予習・復習等)：

予習：指定の教科書を学習し、課題（練習問題）を解いておいて下さい。

復習：授業での学習事項を再度確認して下さい。

60分間

授業の計画：K-Supportの「シラバス・時間割」を参照

成績評価方法：

平常点 6割

期末試験 4割

テキスト(教科書)：

『標準ラテン文法』 中山恒夫著 白水社 1987年 ISBN : 9784560017616

参考書：

初回授業時に紹介します。

担当教員から履修者へのコメント：

授業は対面実施を基本としますが、状況に応じて一部をオンラインとする可能性があります。初回授業は対面です。

質問・相談：

講義の前後に随時受け付けます。

ラテン語

ラテン語初級Ⅰ 1単位（春学期）

古典ラテン語の初級文法

小林 薫

授業科目の内容・目的・方法・到達目標：

ラテン語は、古代ローマで使用された言語であると同時に、キリスト教やローマ法、ルネサンス文芸などを通じて西ヨーロッパ社会の根幹を規定し、その文化を培う言語ともなりました。この授業の最大の目的は、古典ラテン語の初級文法を学ぶ事です。古典ラテン語とは、キケローらによって確立され、標準的な書き言葉として定着したラテン語を指します。しかし同時に、ラテン語を学習するという事は、ラテン語がロマンス諸語はもちろん、英語、ドイツ語等の西洋諸語に与えた影響、また古代ローマの文物が西洋社会に残した遺産について学ぶ事でもあります。ラテン語を通じて西洋文化についての理解を深めることを、この授業の第二の目的とします。

能動的学修形式：

反転授業

準備学修(予習・復習等)：

予習：指定の教科書を学習し、課題（練習問題）を解いておいて下さい。



Keio University Hiyoshi campus

文学部 人文社会学科 1学年 組
学籍番号
氏名

慶應義塾大学（日吉） 2025 年度